

# 第 50 回日韓技術士国際会議（仙台）

「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」  
—日韓技術士交流 50 年、そして次の 50 年に向けて—

主催：公益社団法人日本技術士会

後援：宮城県 仙台市  駐仙台大韓民国総領事館

復興庁東北復興局 農林水産省東北農政局

経済産業省東北地方経済産業局

国土交通省東北地方整備局

助成：公益財団法人仙台観光国際協会 公益財団法人日韓文化交流基金



## 発刊に寄せて

第50回日韓技術士国際会議 運営報告書の刊行おめでとうございます。

10月30日に、女性技術士交流会、日韓の技術士・学生座談会、31日に行われた本会議は盛況に開催され、終了することができました。関係各位の皆様のおかげと深く感謝を申し上げます。

特に本会議の趣旨に深くご理解と応援をいただき、朝早くから本会議にご臨席頂き祝辞をいただいた、宮城県知事様、郡和子仙台市長様、そして、林熙順韓国総領事様には、深く感謝を申し上げます。また、祝辞をいただいた、中島洋復興庁宮城復興局長様、平井淳生経済産業省東北経済産業局長様、稲田雅裕国土交通省東北地方整備局長様にも改めて感謝を申し上げます。

この会議は、COVID-19感染拡大の影響を受けて1年の延期が決定、その後、開催形式も主な関係者が仙台に集まってのオンライン配信から、韓国側の入国が困難なことから仙台とソウルの2拠点からのオンライン配信に変更になるなど、日韓国際会議の歴史始まって以来、初めての形式での会議となりました。そのため、様々な対応が求められ大変苦労しましたが、結果、日本技術士会の寺井会長と韓国技術士会の朱会長のご臨席の下、日本そして韓国技術士会の皆様の絶大な協力のもと開催し、ネットワーク上の多少のトラブルはあったものの成功裏に終わったものと信じています。

実際の運営にあたり、須賀委員長をはじめとする日韓技術士交流委員会の皆様、李委員長をはじめとする韓日技術士交流委員会の皆様には、ご指導、ご鞭撻を頂き感謝の念に堪えません。

この報告書は、第50回日韓技術士国際会議（仙台）の実現に尽力した、東北本部のメンバーの行動と軌跡を系統立てて、取りまとめたものです。見えるものだけでなく、見えないものにこそ価値があると思います。東北本部の我々はその時、何を考え、どう行動したかを伝えたいと思います。

今後、日韓技術士国際会議を担当する皆様に、是非とも本報告書がお役に立つことを祈っております。

（日本技術士会東北本部長 第50日韓技術士国際会議（仙台）大会会長 熊谷 和夫 記）

## はじめに

2021年10月31日、JR仙台駅に隣接するホテルメトロポリタン仙台を主会場とし、第50回日韓技術士国際会議をWeb開催いたしました。2018年11月30日の準備開始から2年と11か月の年月が経過していました。新型コロナウイルス感染禍のため、残念ながら韓国技術士会から技術士の来訪は実現できませんでしたが、ご来賓の方々ならびに、主催関係者と運営関係者のみが日本会場と韓国会場に集結し、一般参加者はWEBを通じて会議へ参加していただくことができました。

また、イベントとして、本会議前日の2021年10月30日には、完全WEB配信による女性技術士交流会を開催し、宮城県庁近接の仙台ビジネスホテル会議室では、日韓の技術士・学生座談会を開催いたしました。

振り返ってみれば、運営準備の約3年間は、日韓にとって激動ともいえる時期でもありました。韓国裁判所における元徴用工訴訟に端を発した日韓の外交問題が政治問題化しました。コロナウィルス感染拡大に伴う世界的な非常事態宣言と渡航禁止処置により、鎖国状態となる日韓関係でもありました。しかし、50年にわたる交流によって培われた両国技術士の相互信頼感と情報通信技術の進歩が、日韓技術士国際会議の中止を回避させてくれました。コロナ禍で先の見えない状態が準備期間中続いていましたが、本務をこなしながら、密度の濃い活動をされた両国の委員の皆様には心から感謝申し上げます。

今回の国際会議の特徴は、すべての行事を直列配置とし、会議申込者にはすべての行事に参加できるように配慮したことです。技術の発展は思いもかけない組み合わせによって生まれることが特別ではない時代です。そのため、専門分野の技術士だけでなくその他の分野の技術士も他分野の会議を視聴できるようにいたしました。

一方、様々な技術的課題を議論できたかといえば、深いところまでには及んでいなかったことも事実です。また、コロナ禍でもあり日韓技術者の直接交流も十分ではありませんでした。しかし、政治問題とコロナ禍という2つの大きな問題を抱えながらも、日韓技術士交流50年を締めくくる会議としてその使命を果たせたことは何より喜ばしいことでした。

また、特別報告として、東日本大震災からの東北復興と福島県の現状と未来予想図並びに、日韓技術士交流の半世紀の歩みを上映しました。時を刻むことの重さと素晴らしさを感じました。

残念ながら、日韓親善行事としてのサッカー大会やレディースプログラム、研修視察は開催できませんでした。しかし、女性技術士交流会や日韓技術士と学生の座談会では、活発な意見交換ができたことで、次に続く両国の技術士交流にしっかりと種を撒くことができたと思います。特に日韓技術士と学生の座談会は、第50回仙台大会で初めて東北本部の立ち上げたイベントでもありました。東日本大震災から10年という節目に宮城県仙台市において開催できたことも感慨深いものがあります。

「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」のメインテーマは、韓国側からも好感を持って受け入れられました。

様々な課題の解決に向けて挑戦し解決することは技術士の使命でもあります。これからも両国の技術士がお互いをよく知り調和することで、社会に貢献することを願っております。

困難な時期を乗り越えて第50回日韓技術士国際会議を無事に開催できましたことに対し、運営委員会を代表して、関係各位にこころより感謝を申し上げます。

(第50日韓技術士国際会議(仙台)運営委員会を代表して委員長 今西 肇 記)

## 第 50 回日韓技術士国際会議(仙台)運営報告書

## 目 次

1. 事業概要	1
2. 組織づくり	4
2.1 準備段階	4
2.2 全体組織/運営委員会	6
2.3 本会事務局	11
2.4 韓国技術士会との連絡体制	11
3. スケジュール管理	12
4. 事業費	15
4.1 予算の作成	15
4.2 資金調達計画	17
5. 合同委員会	19
5.1 事前調査の概要	19
5.2 日韓合同委員会の概要	20
6. 参加者の募集・広報	21
6.1 広報の方法(月刊 PE・技術士会 HP 等)	21
6.2 広報活動(新聞・雑誌・テレビ等)	21
6.3 参加者リスト	22
7. プログラム	29
7.1 プログラム作成	29
7.2 論文募集・査読・口頭発表者選定	38
7.3 来賓依頼・後援依頼	40
8. 会場	41
8.1 会場使用計画の作成	41
8.2 web 配信(仙台⇄ソウルオンライン国際会議)	45
8.3 会場安全管理	48
9. 制作物	50
9.1 大会リーフレット	50
9.2 名札	52

---

10. 第 50 回日韓技術士国際会議(仙台)本大会行事(仙台⇄ソウル/オンライン国際会議) .....	53
10.1 開会宣言 .....	53
10.2 開会挨拶 .....	53
10.3 基調報告(1)日本側 .....	53
10.4 基調報告(2)韓国側 .....	54
10.5 国際貢献賞授賞式・功労者紹介 .....	55
10.6 基調講演(1)日本側 .....	57
10.7 基調講演(2)韓国側 .....	59
10.8 特別報告 1(復興映像) .....	61
10.9 特別報告 2(日韓交流 50 年) .....	63
10.10 分科会 .....	64
10.11 大会のまとめ .....	66
10.12 大会宣言 .....	67
11. 社交行事 .....	68
11.1 晩餐会(中止) .....	68
11.2 展示会・ポスターセッション(中止) .....	68
11.3 次回開催地プレゼンテーション(映像等) .....	69
11.4 プロトコール(国際儀礼) .....	69
11.5 旅行代理店の活用 .....	70
12. 研修・視察 .....	71
12.1 国際親善サッカー大会(中止) .....	71
12.2 日韓技術士・学生座談会 .....	73
12.3 女性技術士交流会 .....	77
12.4 研修視察(中止) .....	79
13. 収支決算報告 .....	80
14. 運営関係者のコメント .....	82
15. 参考資料 .....	93

---

## 1.事業概要

### 1.1 本会議

名称：第 50 回日韓技術士国際会議（仙台）

主催：公益社団法人日本技術士会 日韓技術士交流委員会

主管：東北本部運営委員会

後援：宮城県, 仙台市, 駐仙台大韓民国総領事館, 復興庁宮城復興局,  
農林水産省東北農政局、経済産業省東北経済産業局、国土交通省東北地方整備局

助成：公益財団法人日韓文化交流基金、公益財団法人仙台観光国際協会

会場：ホテルメトロポリタン仙台

開催日：2021 年 10 月 31 日（日）

メインテーマ：

第 50 回記念大会

「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」

-----日韓技術士交流 50 年、そして次の 50 年に向けて-----

### 1.2 プレイベント

名称：第 14 回日韓女性技術士交流会：WEB 開催

開催日：2021 年 10 月 30 日（土）

会場：完全 Web 配信

テーマ

名称：日韓の技術士・学生座談会

開催日：2021 年 10 月 30 日（土）

会場：仙台ビジネスホテル会議室

テーマ：ダイバーシティと技術者教育

### 1.3 事業内容

#### ■ 10 月 30 日（土）

##### (1) 第 14 回日韓女性技術士交流会

14：00～15：30 完全 WEB 開催

##### (2) 日韓の技術士・学生座談会

15：45～17：00 WEB も併用した開催

座談会テーマ：ダイバーシティと技術者教育

場所：コロナ対策を施した会議場（仙台ビジネスホテル会議室）

参加者：日韓の技術士 10 名、日本在住の韓国人学生と日本人学生 10 名（公募）

WEB 参加者：日韓の技術士であればどなたでも参加可能（事前登録必要）

#### ■ 10 月 31 日（日）

##### (3) 本会議

日本会場：ホテルメトロポリタン仙台 4 階千代（西・南）の間

韓国会場：ソウル市内のホテル

日本会場では、来賓、役員、基調講演者、口頭発表者（代表参加者）を含む関係者に限定して開催。

ポスター発表者、一般参加者は WEB 配信により参加

- 8 : 00～ 受付 ホテル 4 階 千代の間 (西・南) 【 Sendai 】 前
- 8 : 30～9 : 30 (60 分) 50 周年式典 千代の間 (西・南) 【 Sendai 】 (同時通訳 2 名)
- ・開会宣言 (日本会場 : 運営委員長)
  - ・開会挨拶 (日本会場 : 日本技術士会会長、韓国会場 : 韓国技術士会会長)
  - ・来賓挨拶 (日本会場 : 来賓 3 名、宮城県知事、仙台市長、駐仙台大韓民国総領事)
  - ・基調報告 (日本会場 : 日本側委員長、韓国会場 : 韓国側委員長)
  - ・国際貢献賞 (韓国会場 : 感謝状および記念品の授与)
  - ・功労者紹介 (日本会場より、日本側功労者、韓国側功労者を PPT により紹介)
- 9 : 30～10 : 30 (60 分) 基調講演 千代の間 (西・南) 【 Sendai 】 (同時通訳 2 名)
- ・日本技術士会の半世紀の歩みと今後の展望 : 日本技術士会 (日本会場)
  - ・韓国技術士会の半世紀の歩みと今後の展望 : 韓国技術士会 (韓国会場)
- 10 : 30～10 : 50 (20 分) コーヒーブレイク
- 10 : 50～11 : 30 (60 分) 特別報告 千代の間 (西・南) 【 Sendai 】 映像
- ・東日本大震災から 10 年の東北の歩みと福島これから (映像) : 日本技術士会東北本部  
東日本大震災で被災から復興した各地の現状と、福島第一原子力発電所事故に伴う復興の現在の状況を、写真集を編集し音楽とともに流す (上映 15 分) 韓国語の字幕付き
  - ・映像で振り返る日韓技術士交流半世紀の歩み (映像) : 日韓技術士合同委員会  
過去の写真を編集し音楽とともに流す (上映 15 分) 韓国語の字幕付き
- 11 : 30～12 : 30 (60 分) ランチタイム
- 12 : 30～13 : 30 (60 分) 一般発表 (第 1 分科会) 基盤分野 (同時通訳 2 名)  
( 国土、社会 infrastructure、土木・建設、基幹産業、農林水産など )
- ・テーマ : インフラメンテナンス時代の技術 (日本側 2 題、韓国側 2 題)
- 13 : 30～14 : 30 (60 分) 一般発表 (第 2 分科会) Energy (資源、Energy、環境など)
- ・(テーマ案) 気候変動とエネルギー問題 (日本側 2 題、韓国側 2 題)
- 14 : 30～14 : 50 (20 分) コーヒーブレイク
- 14 : 50～15 : 50 (60 分) 一般発表 (第 3 分科会) 技術監理 (同時通訳 2 名)  
( 倫理、力量、教育、危機管理、防災、安全など )
- ・テーマ : 人口減少問題と技術者教育 (日本側 2 題、韓国側 2 題)
- 15 : 50～16 : 50 (60 分) 一般発表 (第 4 分科会) 先端分野 (同時通訳 2 名)  
( 情報通信、Nanotech、Bio、素材、第 4 次産業分野など )
- ・テーマ案 : DX 時代における技術の未来 (日本側 2 題、韓国側 2 題)
- 16 : 50～17 : 00 (10 分) 次回開催地の紹介 (同時通訳 2 名)
- ・韓国技術士会より発信
- 17 : 00～17 : 10 (10 分) 第 50 回国際会議のまとめ (同時通訳 2 名)
- ・日韓技術士交流委員会 委員長 (日本側)
- 17 : 10～17 : 20 (10 分) 大会宣言、閉会 (同時通訳 2 名)
- ・日本技術士会東北本部本部長 (日本側)
- ※ コロナウィルス感染拡大防止のため、日韓親善晩餐会は中止しました。

第50回日韓技術士国際会議メインスケジュール (Ver.7.1.4)

2021年10月21日

開催日	時間	行事1	web配信	会場	ホームページ	備考
	14:00~15:30	日韓女性技術士交流会・会議	配信	WEB配信		第50回仙台大会特別企画
	15:45~17:00	日韓の技術士・学生座談会		仙台ビジネスホテル 会議室+WEB配信		
10/31 (日)	08:00~00:00	本会議受付				
	08:30~09:30	50周年式典	配信	WEB配信  関係者 基調講演者 口頭発表者  <日本会場> ホテル メトロポリタン 仙台  <韓国会場> 韓国国内会場	ホームページ上で すべての論文を 公開	開会宣言 挨拶(両国会長) 来賓挨拶(知事、市長、総領事) 基調報告(両国委員長) 国際貢献賞(感謝状の授与) 功労者紹介
	09:30~10:30	基調講演:日本側1名、韓国側1名	配信			(仮)両国技術士の半世紀の歩みと今後の展望
	10:30~10:50	コーヒーブレイク				
	10:50~11:30	特別報告:東日本大震災、日韓50年(映像)	配信			東日本大震災から10年の東北の歩みと福島のことから(映像) 映像で振り返る日韓技術士交流半世紀の歩み(映像)
	11:30~12:30	ランチタイム				弁当など
	12:30~13:30	一般発表:口頭発表/分科会1(4編)	配信			基盤分野(国土、社会インフラ、土木・建設、基幹産業、農林水産など)
	13:30~14:30	一般発表:口頭発表/分科会2(4編)	配信			Energy(資源、Energy、環境など)
	14:30~14:50	コーヒーブレイク				
	14:50~15:50	一般発表:口頭発表/分科会3(4編)	配信			技術監理(倫理、力量、教育、危機管理、防災、安全など)
	15:50~16:50	一般発表:口頭発表/分科会4(4編)	配信			先端分野(情報通信、Nanotech、Bio、素材、第4次産業分野など)
	16:50~17:00	次回開催地の紹介	配信			韓国技術士会より発信
	17:00~17:10	第50回国際会議のまとめ	配信			日韓技術士交流委員会 委員長
	17:10~17:20	大会宣言、閉会	配信			日本技術士会東北本部 本部長

(運営委員長 今西 肇 記)

## 2.組織づくり

### 2.1 準備段階

#### 2.1.1 日韓技術士交流委員会における運営委員会の動き

第 373 回 (2018 年 11 月 30 日)

- ・第 50 回日韓技術士国際会議運営委員長として今西肇が東北本部から派遣される
- ・東北本部として、2020 年 10 月 8 日 (木) を本会議とする案を提示

第 374 回 (2018 年 12 月 25 日)

- ・仙台国際会議場にて、2020 年 10 月 26 日 (日) ～28 日 (火) を会議期間とする案を提示

第 375 回 (2019 年 2 月 17 日)

- ・仙台国際会議場 (案) に、交流委員が会場の利便性において難色を示す

第 376 回 (2019 年 3 月 28 日)

- ・日韓の徴用工問題が浮上、OB 交流委員から、開催について慎重に検討するような意見がでる

第 377 回 (2019 年 5 月 29 日)

- ・メトロポリタン仙台会場 (案) の提示

第 378 回 (2019 年 6 月 28 日)

- ・メトロポリタン仙台会場 (案) の具体案提示

第 379 回 (2019 年 8 月 2 日)

- ・本会議参加費案を提示

第 380 回 (2019 年 9 月 26 日)

- ・本会議場はメトロポリタン仙台で決定

第 381 回 (2019 年 11 月 28 日)

- ・本会議メインテーマ (案) 「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」を提示
- ・メトロポリタン仙台において 2020 年 10 月 25 日 (土) ～27 日 (月) を会議期間とする計画案を提示

第 382 回 (2019 年 12 月 20 日)

- ・2020 年 10 月 25 日 (土) ～27 日 (月) を会議期間とすることで決定
- ・本会議形式は分科会直列式+ポスターセッション方式を提案
- ・学生座談会をイベントとして提案
- ・運営委員会組織 (案) の提示

第 383 回 (2020 年 2 月 2 日)

- ・新型コロナウイルス感染拡大
- ・本会議メインテーマ (案) 「もっと知ろう・・・」の議論
- ・コロナ禍における開催についての議論

第 384 回 (2020 年 7 月 30 日)

- ・開催延期または中止の議論
- ・韓国側への打診の返信として、日本側の判断に従う

第 385 回 (2020 年 10 月 6 日)

- ・開催延期を決定

第 386 回 (2020 年 12 月 18 日)

- ・延期開催日を、2021 年 10 月 30 日～11 月 1 日を提案

第 387 回 (2021 年 1 月 29 日)

- ・開催日を 2021 年 10 月 30 日～11 月 1 日とすることで決定

第 388 回 (2021 年 3 月 1 日)

- ・開催方式を現地と WEB の Hybrid 方式とすることを提案

第 389 回 (2021 年 3 月 29 日)

- ・開催方式に変更に伴う、イベント開催の是非について討議

プレカンフェレンス開催 (2021 年 4 月 16 日)

- ・交流委員長ほか 3 名が現地 (メトロポリタン仙台) を来訪
- ・WEB 参加者を含め現地で交流委員と運営委員の意見交換

第 390 回 (2021 年 4 月 27 日)

- ・開催方式を現地と WEB の Hybrid 方式とすることを決定
- ・コロナ禍におけるサッカー大会、レディースプログラム、研修視察の開催是非を検討

日韓合同委員会を開催 (2021 年 5 月 12 日)

- ・韓国からの入国がほぼ絶望的であることが判明

第 391 回 (2021 年 6 月 4 日)

- ・運営委員長より日韓両国交流委員長へ親書

第 392 回 (2021 年 7 月 12 日)

- ・本会議は関係者のみとし、一般申込者は WEB 参加案 (Hybrid225) を提出

第 393 回 (2021 年 8 月 11 日)

- ・計画の見直し案 (Hybrid225) 決定
- ・サッカー大会、レディースプログラム、研修視察の中止決定

第 394 回 (2021 年 9 月 6 日)

- ・予算書、計画書の最終見直し案 (Ver7.1.3) を承認

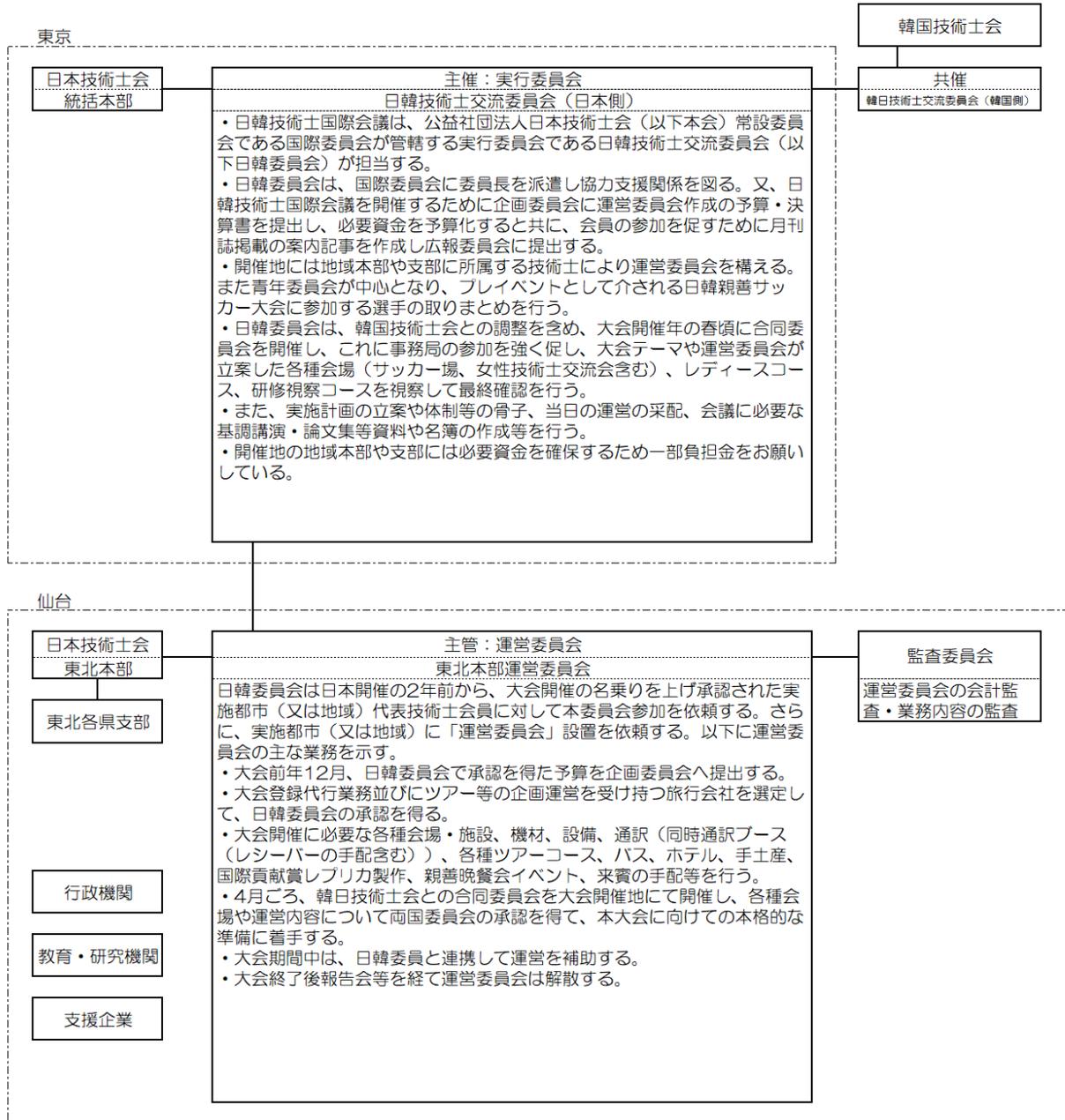
第 395 回 (2021 年 10 月 15 日)

- ・事前の最終交流委員会、すべての内容・手順を確認
- ・最終予算書、計画書 (Ver7.1.4) を確認

2.2 全体組織／運営委員会

2.2.1 大会組織と役割

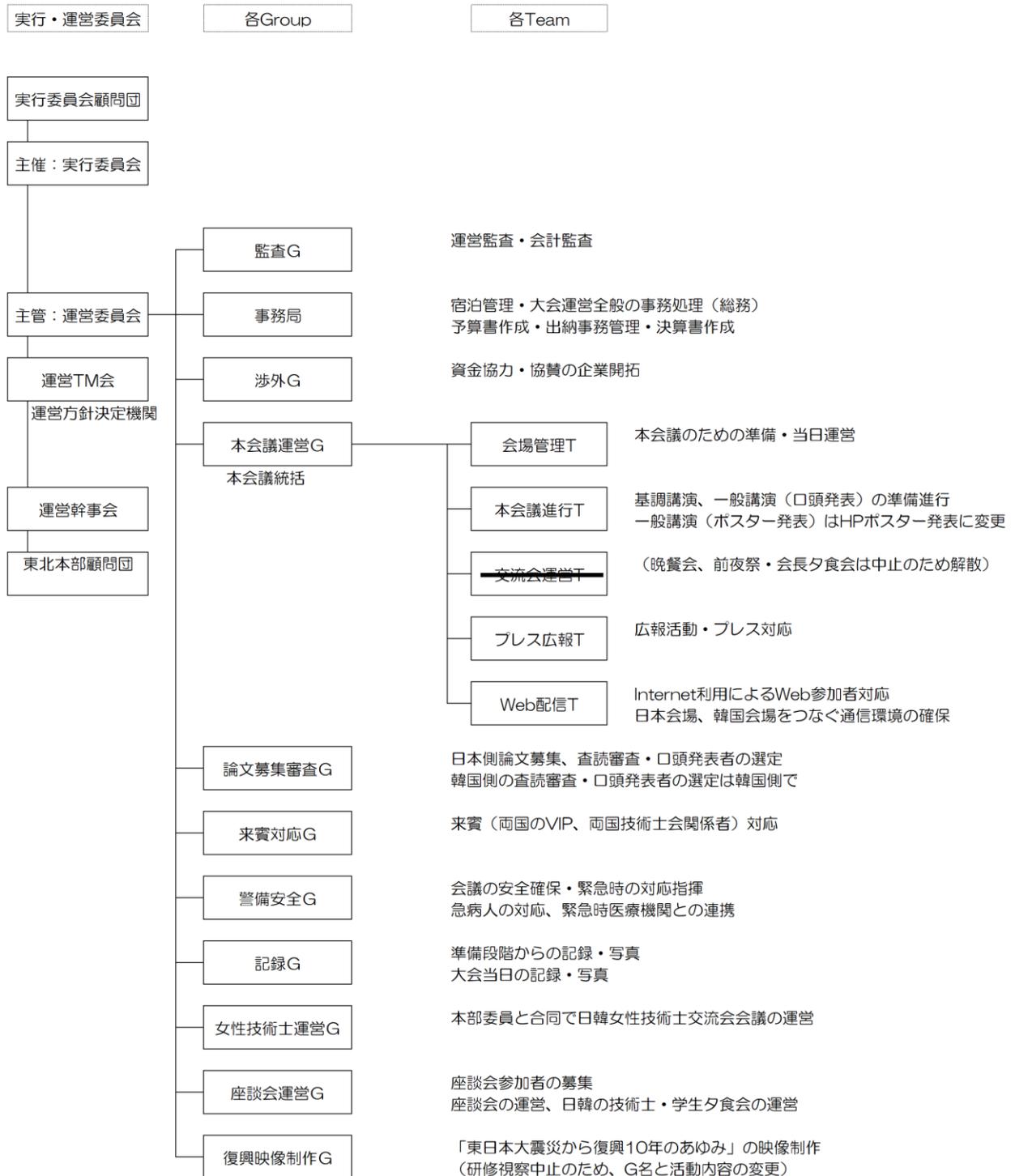
第50回日韓技術士国際会議 日本側実行組織（運営マニュアル第3版より）



※ 上記した内容は、平時における各委員会の役割を示したものである。

※ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、第 50 回大会では、このうち、日韓親善サッカー大会、レディースコース、日韓親善晩餐会、研修視察は中止となる。

2.2.2 運営委員会組織と役割



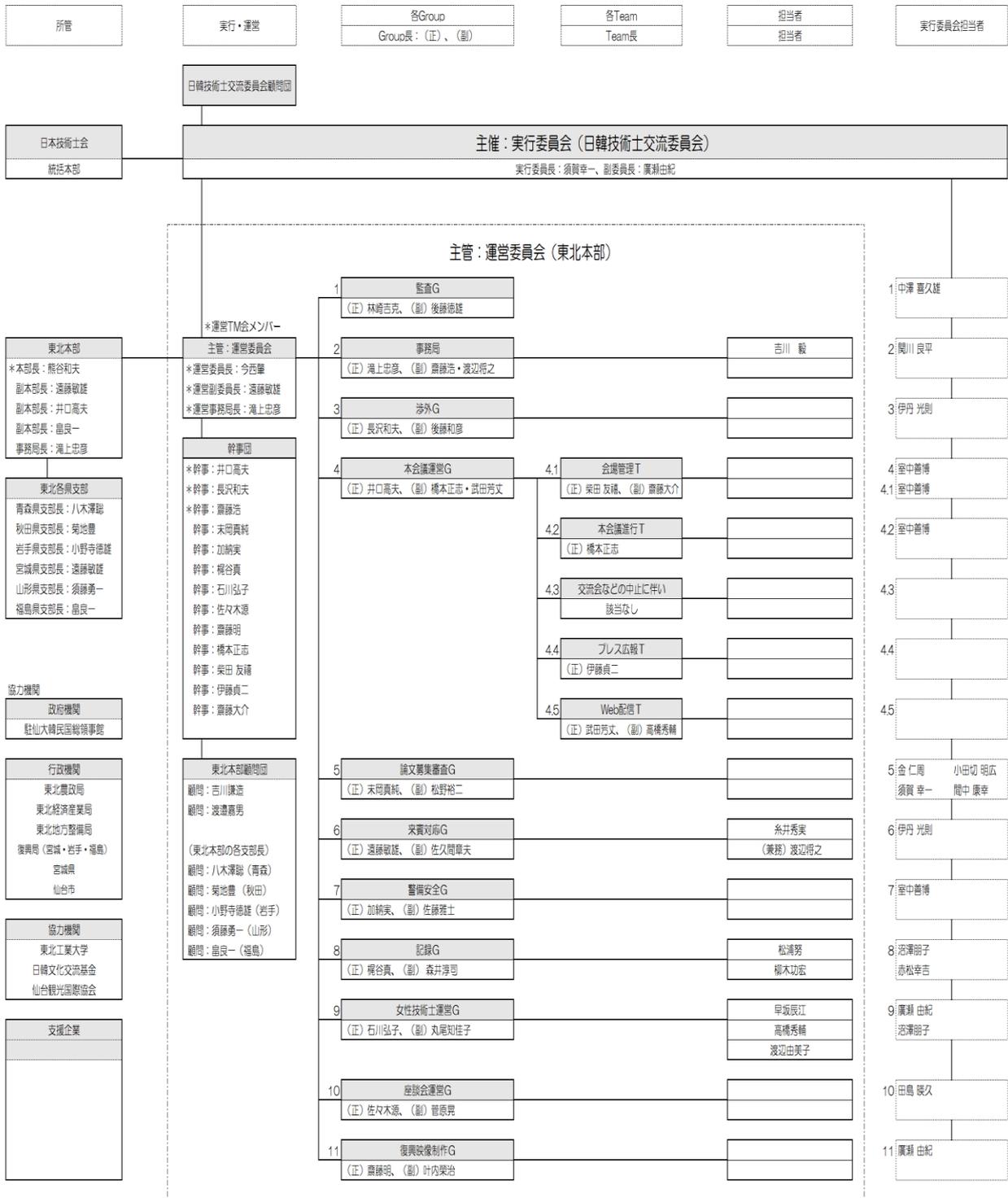
※1 本会議運営G交流会運営Tは、コロナ禍によるイベント中止により解散し、本会議運営G内での他の活動を支援していただく。

※2 研修視察運営Gは、視察を中止したため、G名を「復興映像制作G」とした。その役割は「東日本大震災から復興10年のあゆみ」の映像制作を担当していただくことである。

2.2.3 運営委員会組織図

第50回日韓技術士国際会議 運営組織 (案) (敬称略) Ver.7.1.4

修正：2021.10.12



## 2.2.4 実行委員会

	グループ名	チーム名	日韓交流委員会：担当委員	技術部門	所属
0	実行委員会	実行委員長	須賀幸一	建設/総監	㈱芙蓉コンサルタント
		実行副委員長	廣瀬 由紀	情報工学	廣瀬由紀技術士事務所 代表
1	監査G		中澤 喜久雄	経営工学	㈱SK物流技術研究所 代表取締役
2	事務局		関川 良平	—	公益財団法人日本技術士会 事業部
3	渉外G		伊丹 光則	農業/総監	内外エンジニアリング㈱
4	本会議運営G				
		4.1 会場管理T	室中 善博	環境	室中技術士事務所 代表
		4.2 本会議進行T	室中 善博	環境	室中技術士事務所 代表
		4.3 交流会運営干			
		4.4 プレス広報T			
		4.5 Web配信T			
5	論文募集審査G				
	第1分科会		金 仁周	建設	日本工営㈱ 開発・運営事業部プロジェクト部 専門部長
	第2分科会		小田切 明広	機械	日本工営㈱ 生産事業部北日本事務所 所長
	第3分科会		須賀 幸一	建設/総監	㈱芙蓉コンサルタント
	第4分科会		間中 康幸	機械	トーヨーカネツソリューションズ㈱ 設計部技術グループ
6	求責対応G		伊丹 光則	農業/総監	内外エンジニアリング㈱
7	警備安全G		室中 善博	環境	室中技術士事務所 代表
8	記録G		沼澤朋子		
			赤松幸吉		
9	女性技術士運営G		廣瀬 由紀	情報工学	廣瀬由紀技術士事務所 代表
			沼澤朋子		
10	座談会運営G		田島 暎久	航空・宇宙	田島技術士事務所
11	研修視察運営G				

## 2.2.5 運営委員会

## 第50回日韓技術士国際会議(仙台) 運営委員会名簿(連絡先一覧)

2021年10月12日

所管	役職	氏名		技術部門	所属(※1)			
AD1	東北本部	本部長	熊谷和夫	(大会会長)	建設	(株)復建技術コンサルタント		
		副本部長	遠藤敏雄		建設	(株)復建技術コンサルタント		
		副本部長	井口高夫		建設	(株)テクノ東北		
		副本部長	畠良一		建設	日栄地質測量設計(株)		
		事務局長	滝上忠彦		上下水道	(株)復建技術コンサルタント		
AD2	東北各県支部 (顧問団)	青森県支部長	八木澤聡		建設	東信技術株式会社		
		秋田県支部長	菊地豊		上下水道/農業	(株)石川技研コンサルタント		
		岩手県支部長	小野寺徳雄		建設/総監	(株)昭和土木設計		
		宮城県支部長	遠藤敏雄		建設	(株)復建技術コンサルタント		
		山形県支部長	須藤勇一		上下水道/建設/総監	(株)ケンコン		
		福島県支部長	畠良一		建設	日栄地質測量設計(株)		
		顧問団	渡邊 嘉男		建設	F. 渡辺労働安全・技術事務所		
			吉川 謙造		建設/応用/総監	(株)ダイワ技術サービス		
		グループ名	チーム名	グループ長	チーム長	技術部門	所属	
	運営委員会	TMグループ	運営委員長	今西肇		建設	一般社団法人和合館工学会	
		副委員長	遠藤敏雄		建設	(株)復建技術コンサルタント		
		TM幹事	井口高夫		建設/総監	(株)テクノ東北		
		TM幹事	滝上忠彦		上下水道	(株)復建技術コンサルタント		
		TM幹事	齋藤浩		建設/総監	(株)コアテック		
		TM幹事	長澤和夫		建設	(株)復建技術コンサルタント		
1	監査G		(正) 林崎吉克 (副) 後藤徳男		建設 農業	日本工管(株) (株)丹野測量設計		
	2	事務局		(正) 滝上忠彦 (副) 齋藤浩 (副) 渡辺将之		上下水道 建設/総監 建設	(株)復建技術コンサルタント (株)コアテック (株)ネクスコ・メンテナンス東北	
3		渉外G		(正) 長澤和夫 (副) 後藤和彦		※TMと兼務 建設	(株)復建技術コンサルタント (株)復建技術コンサルタント	
		4	本会議運営G		(正) 井口高夫 (副) 橋本正志 (副) 武田芳丈		建設/総監 建設/応用理学 建設	(株)テクノ東北 陸奥テックコンサルタント(株) (株)復建技術コンサルタント
4.1	会場管理T			(正) 柴田 友輔 (副) 齋藤大介		建設/総監 農業	大橋調査(株)/(株)ハスク (株)サトー技建	
4.2	本会議進行T			(正) 橋本正志		建設/応用理学	陸奥テックコンサルタント(株)	
4.3	交流会運営T		※4					
4.4	プレス広報T			(正) 伊藤貞二		建設/総監	エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)	
4.5	Web配信T			(正) 武田芳丈 (副) 高橋秀輔		建設 電気電子	(株)復建技術コンサルタント (株)コアテック	
5	論文募集審査G		(正) 末岡真純 (副) 松野裕二		建設/総監 経営工学	いてあ(株)東北支店 松野技術士事務所		
	6	来賓対応G		(正) 遠藤敏雄 (副) 佐久間肇夫 糸井秀実 渡辺将之		※副委員長と兼務 電気電子 建設/総監 ※事務局(副)と兼務	(株)復建技術コンサルタント (株)コアテック セントラルコンサルタント(株) (株)ネクスコ・メンテナンス東北	
7		警備安全G		(正) 加納実 (副) 佐藤雅士		建設 建設	鹿島建設(株) (株)復建技術コンサルタント	
		8	記録G		(正) 梶谷真 (副) 森井淳司 松浦努 柳木功宏		建設 上下水道 応理/総監 建設/総監	(株)東建工管 (株)東建工管 (株)建設技術研究所東北支社 (株)建設技術研究所東北支社
9	女性技術士運営G			(正) 石川弘子 (副) 丸尾知佳子 早坂辰江 高橋秀輔 渡辺由美子		建設 環境 応用理学 電気電子 建設	月の泉技術士事務所 国立大学法人東北大学 (株)菊池技研コンサルタント (株)コアテック 東日本高速道路(株)	
	10		座談会運営G		(正) 佐々木源 (副) 菅原晃		建設 上下水道	日本ハイウェイ・サービス(株) (株)千代田コンサルタント東北支店
			11	復興映像制作G	※5	(正) 齋藤明 (副) 叶内栄治		建設/総監 建設
	研修視察G	※2						
サッカー運営G	※3							

※1: 本名簿は、2021.10.12時点の情報です。

※2: レディースコース、研修視察Gの開催を中止します。

※3: 日韓親善サー大会の開催開催を中止します。

※4: 晩餐会の開催を中止します。

※5: 研修視察中止に伴い、研修視察G廃止。復興映像制作Gとして担当して頂く。

(運営委員長 今西 肇 記)

## 2.3 本会事務局

運営委員会事務局の役割は、会議に関する連絡・準備から、各種手続きのための書類作成や様々な日韓技術士会議に関する問い合わせ対応のほか、予算の管理を行いました。

### ・会議の招集・準備

運営 TM 会議の開催：会議の連絡・出欠確認、会議場所の手配、会議資料の準備、web 会議準備

運営委員会の開催：会議の連絡・出欠確認、会議場所の手配、会議資料の準備、web 会議準備



写真1 第7回運営委員会の様子 (2021.06.24)

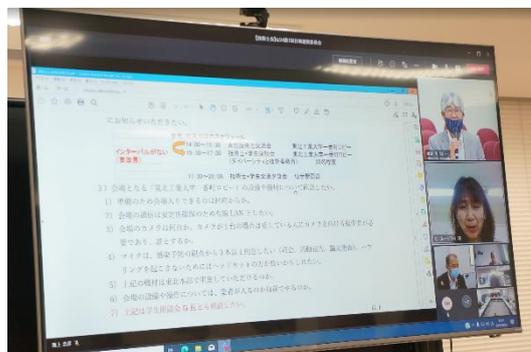


写真2 第7回運営委員会の様子2 (2021.06.24)

### ・外部への提出書類の作成

後援依頼書の作成、助成金申請書など申請作成・提出、サッカー場等の使用申請、旅行代理店との契約手続きなど

### ・予算管理、出納

実行予算の管理、支払いや立替金の清算

### ・問い合わせ対応

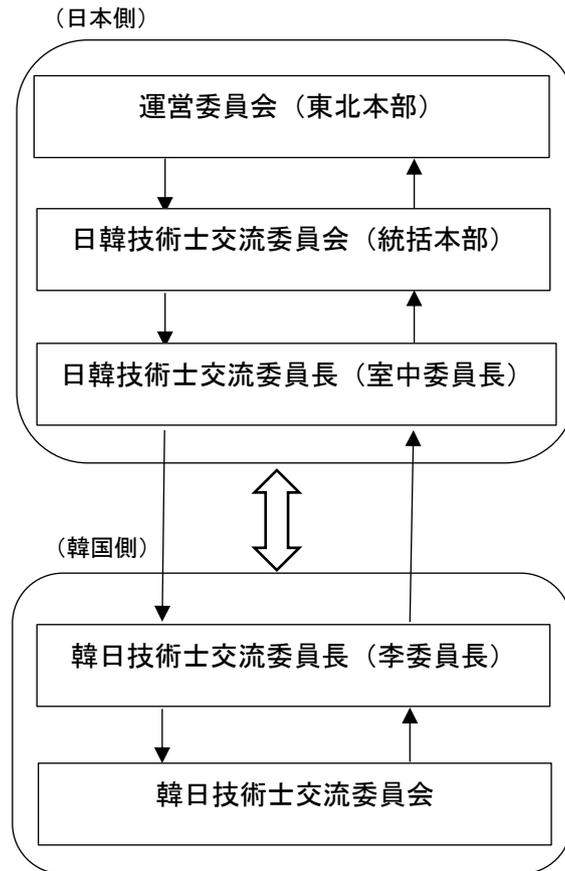
会議参加、論文発表に関する問い合わせ、後援依頼に関する問い合わせ、来賓出席に係る問い合わせ、日韓技術士交流委員会や運営委員会各グループからの問い合わせ等

### ・その他

来賓対応グループの補助（後援依頼への同行）、会場視察の同行、ほか

## 2.4 韓国技術士会との連絡体制

韓国技術士会との連絡は、日韓技術士交流委員会（日本技術士会統括本部）を通じて行いました。韓国側に伝えたいことや確認したいことは、日韓技術士交流委員会の会議にて韓国側への確認事項として整理され、日韓技術士交流委員会の室中委員長を通じ、韓日技術士交流委員会の李委員長にメールにて確認していただきました。



### 3. スケジュール管理

運営委員会では、作成したスケジュールに基づき準備を進めてきました。毎月の会議で各担当より進捗状況を報告していただき、進捗管理表にまとめて準備状況や問題点を話し合うという手順を繰り返し、スケジュール管理を行いました。

進捗管理表は、項目ごとの役割分担（統括本部または東北本部）と責任者（または担当者）を明確に記載し、当初の字スケジュールに対して遅れがないか、課題に対して早急に対応が必要かどうかなどをわかりやすく色分けして使いました。

第50回日韓会議@仙台進捗管理表(10/12第10回運営委員会)

No.	項目	細目	役割分担 統括   東北	2021							責任者又は担当者		現状&詳細	
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	統括	東北		
1	全般	事業計画・予算案作成	●										今西	・8/2基本計画書Ver7.1.1 ・8/11予算書Ver7.1.1を日韓委員会で審議、基 ・8/26運営委員会にて、詳細検討 ・9/6基本計画書Ver7.1.3、予算書Ver7.1.3提出 ・10/12基本計画書Ver7.1.4、予算書Ver7.1.4
		事業計画・予算案承認(企画)	●										添賀・廣瀬	7/14：企画委員会よりさらなる見直し要請→8/開会場でのハイブリッド方式案を提出
		韓国との連絡	●		●調整				●調整				廣瀬	・合同委員会（4月）、コロナ対応（7月）、対
		会長への連絡	●		●								関川/須賀	・05/18：メールにて連絡済み、8/26：状況報告
		運営マニュアル見直し	○	●									井口	・随時、既存マニュアルを参考に本会議運営計
		会場選定予約	●							●会場キャンセル期限				滝上

図 1 スケジュール管理表

※参考までに、次頁に全体の表を掲載します。

(事務局長 滝上 忠彦 記)



## 4. 事業費

### 4.1 予算の作成

#### 4.1.1 予算書の見直しについて

予算作成にあたり、COVID-19 感染拡大の影響が世界規模で猛威を振るっている影響で、基本計画を二転三転と変更され、予算もそれに合わせ変更せざるを得ない状況でした。何度も作成した履歴管理の番号は、基本計画書に合わせ ver. 7. 1. 4 を数えることとなりました。大幅な変更を 7 回に加え、細部の見直しを何度も作り直しをしたということです。

中でも大きな変更は、COVID-19 感染拡大防止の観点から、まず「COVID-19 感染拡大の観点からの翌年度への延期」となりました。COVID-19 感染拡大の収束が予測できないことから、コロナ禍で開催も想定した計画の見直しです。

2 つ目の大きな変更は、COVID-19 感染拡大の収束が見えない中で、コロナワクチン接種が開発され、ワクチン接種が進むことを想定した計画です。今年 4 月段階では、開催時期にはコロナワクチン接種者は入国可能、ただし、高齢者から接種が行われていることを踏まえ、若い方は入国困難という想定による変更です。主な関係者は、50 代以上であったことから、両国の関係者のみが会場に集まり、会場で行事を開催し、一般参加者はオンライン参加を基本とする「対面式からハイブリッド方式変更」されました。

しかしその想定も COVID-19 感染拡大の収束が見通せない状況から、ワクチン接種者でも日本への入国は 14 日間の隔離（行動制限）など厳しい条件が緩和されないため、実質的に韓国側の入国が困難と判断されました。これを踏まえ、急遽「仙台（日本）とソウル（韓国）の 2 拠点から、オンライン配信するハイブリッド方式に変更」となりました。

これらの変更により、例年行われているサッカー大会、会長夕食会や前夜祭の中止、研修視察（産業視察およびレディースコース視察）の中止、飲食を伴う晩餐会も中止され、展示会・ポスターセッションやスポンサー展示も中止となりました。すべて COVID-19 の猛威による変更と言えます。

#### 4.1.2 交付・拠出金

統括本部からの開催補助金は、当初、2,000 千円の開催補助金が計画されておりましたが、規模が縮小されたことなどを理由に、1,500 千円に減額となりました。仙台観光国際協会からの助成金は、海外 3 か国以上からの参加者などの条件を満たさなくなることから、1,500 千円が予算から見込めなくなりました。その他、日韓文化交流基金からの助成金 100 千円と東北本部からの開催補助金 1,000 千円については、当初の通り予算計上しました。規模が小さくなくても、オンライン配信のための費用や、COVID-19 感染拡大対策で密を避けるために広い会場が必要なため、会場参加人数の割には高い経費が必要でした。

実質不足する分は東北本部負担が基本となるため、赤字が見込まれる分を広告協賛収入、参加費収入で賄わなければなりません。しかしながら、集められる参加費も今までより高額に設定できないことや、協賛団体などの数から広告協賛収入も無理な予算計画を立てられない状況でした。これらのことから予算段階では前年までかかった準備費（チラシ作成、会議費、日韓国際会議の準備のための視察費等）を一端計上しないことで黒字予算を作成しました。

次のページに上記の結果作成した予算 ver7. 1. 4 を掲載します。

第 50 回日韓技術士国際会議(仙台)運営報告書

実行管理表 (Ver7.1.4)

2021年10月26日

収入の部						支出の部								
区分	科目	細目	単位	数量	単価	金額	区分	科目	細目	単位	数量	単価	金額	備考
交付・拠出金						2,600,000	準備費						118,400	
	統括本部		式	1	1,500,000	1,500,000	広告・打合せ			式	1		70,000	支出内訳(1)
	東北本部		式	1	1,000,000	1,000,000	日韓合同委員会			式	1		48,400	支出内訳(1)
	日韓文化交流基金		式	1	100,000	100,000								
	仙台観光国際協会	コンベンションビューロ	式	1	0	0								
協賛費						300,000								
	地域本部		地域	6	50,000	300,000								
	部会・委員会					30,000							0	
広告収入	(※4)					480,000	委託費						654,200	
	スポンサー契約		社	0	500,000	0	旅行代理店経費			式	1		616,500	支出内訳(1)
	広告	1ページ	社	0	100,000	0	雑費(名札など)			式	1		37,700	支出内訳(1)
		1/2ページ	社	3	60,000	180,000								
		1/4ページ	社	10	30,000	300,000								
参加費(1)	本会議	実施				1,176,000	経費(1)	本会議	実施				3,129,656	
		本会議(※1)	人	66	10,000	660,000			本会議運営費	式	1		896,000	支出内訳(2)
		参加者昼食(并当代)	人	60	1,500	90,000			ポスターセッション運営費	式	1		0	支出内訳(2)
		web参加者(※2)	人	71	6,000	426,000			本会議場施設費	式	1		2,233,656	支出内訳(5)
参加費(2)	本会議以外					0	経費(2)	本会議以外					82,800	
	晩餐会	中止				0	晩餐会	中止					0	
		晩餐会参加費	人	0	12000	0			晩餐会経費	式	1		0	支出内訳(4)
	レディースコース	中止	人	0	7,000	0	レディースコース	中止	式	1			0	支出内訳(7)
	サッカー交流会	中止	人	0	5,000	0	サッカー交流会	中止					0	
									サッカー交流会運営費	式	1		0	支出内訳(3)
									サッカー場施設費	式	1		0	支出内訳(6)
	女性技術士交流会	実施	人	15	0	0	女性技術士交流会	実施					45,600	
									女性技術士交流会運営費	式	1		36,300	支出内訳(3)
									女性技術士交流会施設費	式	1		9,300	支出内訳(6)
	技術士・学生座談会	実施				0	技術士・学生座談会	実施					37,200	
		学生	人	10	0	0			日韓の学生座談会運営費	式	1		0	支出内訳(3)
									日韓の学生座談会施設費	式	1		37,200	支出内訳(6)
									交流会中止					
	会長夕食会	中止	人	0	10,000	0	会長夕食会	中止	式	1			0	支出内訳(4)
	研修視察(※5)	中止	人	0	7,000	0	研修視察	中止	式	1			0	支出内訳(7)
							その他			式	1		543,400	支出内訳(7)
							予備費(※6)			式	1		27,544	支出内訳(7)
収入合計						4,556,000	支出合計						4,556,000	
収支差額												0		

(※1) 本会議60名で計上(日本側60名、韓国側0名)本会議参加費には論文集代の2000円を含む  
日本会場(本会議)に参加申込者数は、来賓関係者を除くと66名(2021年10月18日現在)

(※2) web参加者予定者数165名の内訳(日本側100名、韓国側65名)  
日本国内Web参加予定者数は、71名です(2021年10月18日現在)  
韓国国内Web参加申込者数は、134名です。(2021年10月18日現在)

- 総参加予定者数は、日本側参加者160名、韓国側参加者65名(韓国国内からのweb参加)の合計225名を予定
- 総参加申込者数は、日本側参加者137名、韓国側参加者134名(韓国国内からのweb参加)の合計271名の参加申込(2021年10月18日現在)

韓国からの入国が困難であることを踏まえ、韓川の参加者は、すべてweb参加とします。  
韓国においても、日本と同様のオンライン会場を設営し関係者が集合します。(日韓の2元中継)  
韓国側オンライン会場経費は含みません。  
韓国側の参加費は収入の部に計上しておりません。

- (※3) 第50回記念誌作成費は含みません。  
(※4) Web開催が主であることから、日韓国際交流委員会委員および所属会社のご支援をお願いいたします。  
非常に厳しい状況です。  
(※5) 韓国側の入国が困難なため研修視察も中止とします。

(運営委員会事務局 齋藤 浩 記)

## 4.2 資金調達計画

第 50 回日韓国際会議はハイブリット開催で行われましたが、会場費等での支出が多くなり広告費で補うことが期待されました。その対応として協賛企業を増やして、広告収入アップを図るために以下の対策を考えました。

### 4.2.1 協賛企業の拡大

1. 短期的視点ではなく、技術士会の会員増強対策と合わせて、長期的な展望で東北本部の経営を考えました。その為には、日韓広告費のみならず、東北本部の協賛会員として入会してもらい、年会費収入増を図ることとしました。
2. 広告費の協賛依頼に先立ち、技術士会東北本部として今後の技術士会への協力依頼（例えば協賛会員への入会）の訪問を実施しました。

協賛会員になれば、総会への招待、技術士試験の情報提供、技術士会の更なる理解、講習会・座談会の案内、役員としての技術士会へ関与などの会員としてのメリットが得られることを説明しました。

3. 1 回目の訪問が終了したら、2 回目として日韓国際会議のリーフレットを持参して会議の出席・広告協賛を依頼しました。
4. 会議終了後となる 3 回目以降も、定期的に（2～3 ヶ月に 1 度の頻度で）訪問し、情報交換を行う予定です。
5. 広告の単価は、1/2 ページ 5 万円、1/4 ページ 2.5 万円として、従来より単価を下げました。上記の対策を実施すべく、52 社をリストアップして、9 月初めから 1 回目の訪問を実施しました。この結果、一部の会社からは、今回広告は協力できないが、次回からは前向きに考えますとお断りされました。

最終的に 36 社から協賛して頂きました。（実績約 70%）

都合により広告掲載を断られた会社にも、3 回目以降も継続して訪問し、協賛会員としての入会をお願いする予定です。

### 4.2.2 反省点

今回の反省点として 2 回目の訪問が広告原稿の締め切りギリギリとなったことが挙げられます。余裕を持ったスケジュールとすべきであったと思っています。

今回はコロナ禍の中での訪問だったので、少人数で訪問せざるを得なかったが、3 回目以降（11 月中旬から）の訪問は、後任を育成しながら 3～4 人編成で実施する予定です。

今回リストアップできなかった会社も含めて、最終的には 70 社程度を協賛会員の候補として訪問したいと考えています。

（渉外グループ長 長澤 和夫 記）

## 広告掲載企業・団体一覧

株式会社キタック	一般社団法人日本建設業連合会 東北支部
株式会社建設技術研究所 東北支社	いであ株式会社
株式会社三協技術	株式会社エイト日本技術開発 東北支社
株式会社東北開発コンサルタント	株式会社N J S
合同会社トッキーホームグループ	NTTインフラネット株式会社
日本工営株式会社 仙台支店	大橋調査株式会社
パシフィックコンサルタンツ株式会社	株式会社オオバ
株式会社復建技術コンサルタント	応用地質株式会社 東北事務所
株式会社ユアテック	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
公益社団法人日本技術士会 北海道本部	株式会社構研エンジニアリング
公益社団法人日本技術士会 北陸本部	国際航業株式会社 東北支社
公益社団法人日本技術士会 中部本部	株式会社サトー技建
公益社団法人日本技術士会 中国本部	佐野コンサルタンツ株式会社
公益社団法人日本技術士会 四国本部	株式会社ダイヤコンサルタント
公益社団法人日本技術士会 九州本部	株式会社ダイワ技術サービス
	株式会社千代田コンサルタント
	株式会社長大 仙台支社
	株式会社テクノ東北
	株式会社東京設計事務所 東北支社
	株式会社東建工営
	株式会社ドーコン
	内外エンジニアリング株式会社
	株式会社日水コン 東北支所
	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北
	株式会社ネクスコ・メンテナンス東北
	株式会社パスコ 東北事業部
	株式会社福田水文センター 東北支店
	北武コンサルタント株式会社 仙台事務所
	八千代エンジニアリング株式会社 北日本支社

## 5. 合同委員会

### 5.1 事前調査の概要

#### 5.1.1 会場の事前調査

当初は通常開催が予定されていたので、『日韓技術士国際会議運営マニュアル ～ 国際会議開催の手引き～ ー 第3版ー 2019年2月 公益社団法人日本技術士会日韓技術士交流委員会』に準じて、300人規模の会場探しから始まりました。当初は仙台国際センターを本会議場とした計画を立て、本会議会場、晚餐会会場、サッカー大会の会場などの開催場所の検討から始めました。

実際に会場の下見を実施し、スケジュールの時間や移動の関係など様々な検討を重ねた結果、仙台国際センターでは使用時間が片付けを含め21:30までしか利用できない事が一番の懸案事項となり、韓国からの参加者の誘導や晚餐会での着替えなど様々な点を検討した結果、仙台の中心部である仙台駅に併設しているホテルメトロポリタン仙台での開催が決まりました。ホテルメトロポリタン仙台での開催で懸案事項であった会場費用も、ホテル側からの大きな協力により、開催できる見通しができました。

#### 現地調査

- ・ 仙台国際センター下見
- ・ 仙台市泉サッカー場下見
- ・ ホテルメトロポリタン仙台下見

#### 5.1.2 開催状況の事前調査

実施に当たって、第48回日韓技術士国際会議（神戸）と第49回日韓技術士国際会議（高陽）の合同委員会と本会議に参加した。

##### (1) 第48回日韓技術士国際会議（神戸）

- ・ 年月日：2018年10月18日（木）
- ・ 参加者：熊谷本部長、今西肇運営委員長、滝上事務局長
- ・ 内容：本会議、分科会、晚餐会に参加

##### (2) 合同委員会（第49回日韓技術士国際会議（高陽））

- ・ 年月日：2019年4月19日（土）～4月20日（日）
- ・ 参加者：今西運営委員長、滝上事務局長
- ・ 内容：合同委員会会議および会場・研修視察先下見に参加

##### (3) 第49回日韓技術士国際会議（高陽）

- ・ 年月日：2019年10月24日（木）～4月25日（金）
- ・ 参加者：熊谷本部長、渡邊顧問、今西運営委員長、滝上事務局長
- ・ 内容：前夜祭、本会議、分科会、晚餐会に参加



写真 5.1.1 合同委員会の様子  
(高陽 MVL ホテル)

## 5.2 日韓合同委員会の概要

日韓合同委員会は、COVID-19 の感染拡大が収まらないことから韓国側の委員の入国が困難であるため、日本側の委員のみで開催されました。参加は、実行委員会の日韓技術士交流委員会と開催地である東北本部の運営委員会のメンバーが集まり、web 会議併用で行われました。

この時点では、本会議当日、韓国から主な関係者が 15 名ほど来日し会場で参加し、この仙台会場から一般参加者にオンライン配信するハイブリッド方式で予定されておりました。

- (1) 日時：2021 年 4 月 16 日（金）15：00～17：00
- (2) 場所：ホテルメトロポリタン仙台 3 階 星雲の間（+WEB 会議）  
（視察場所は同ホテルの 4 階 千代の間、萩の間）
- (3) 出席者 ※は web 会議での参加
  - ・日韓技術士交流委員会 13 名  
室中善博（委員長）、廣瀬由紀（副委員長）※、今西肇（兼）、片桐勝広※、金仁周※、須賀幸一※、田島暎久※、時合健生、稲垣正晴（元委員）※、田吹隆明（元委員）※、橋本義平（元委員）※、平野輝美（元委員）※、関川良平（事務局）
  - ・第 50 回日韓技術士国際会議 運営委員会 19 名  
熊谷和夫（本部長）、今西肇（運営委員長）、遠藤敏雄（副本部長）、井口高夫（副本部長）、橋本正志、武田芳丈、末岡真純、石川弘子、佐々木源、齋藤明※、叶内榮治、加納実※、長澤和夫、梶谷 真※、林崎吉克※、滝上忠彦、齋藤浩、渡辺将之※、吉川毅（事務局）



写真 5.2.1 会議の様子



写真 5.2.2 本会議場（千代の間）視察の様子



写真 5.2.3 控室（萩の間）視察の様子



写真 5.2.4 受付スペース（ホワイエ）視察の様子

（事務局長 滝上 忠彦 記）

## 6. 参加者の募集・広報

### 6.1 広報の方法(月刊PE・技術士会HP等)

#### 6.1.1 月刊PEへの掲載

月刊PE 7月号へ掲載(開催月の4か月前)しました。

EVENT

**■ 第50回日韓技術士国際会議(仙台)のご案内**

本年は、両国技術士会の代表団、登壇者、運営関係者のみ仙台市の会場に集い、オンライン会議として配信します。下記のオンライン開催のイベント、本会議について、奮ってご参加下さい。

※本年の日韓親善サッカー大会は中止となりました。

- テーマ：第50回記念大会「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」-日韓技術士交流50年、そして次の50年に向けて-
- 場所：オンライン開催
- 日程：2021年10月30日(土)～10月31日(日)

30日(土) プレイベント

14:00～15:30 第14回 日韓女性技術士交流会

15:30～17:00 日韓の技術士・学生座談会

31日(日) 本会議

8:30～11:30 式典、基調講演、特別報告

12:40～16:50 一般発表(4分科会での研究発表)

16:50～17:10 会議のまとめ、大会宣言

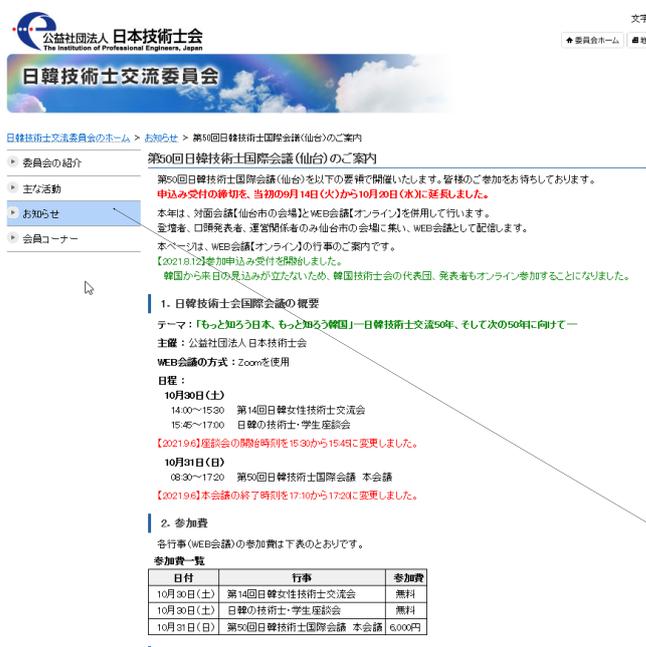
※一般発表は特設HPへの論文掲載あり

- 申込等の詳細は、日韓技術士交流委員会HPでご案内致します(お問合せは事務局 TEL:03-3459-1331)。

#### 6.1.2 技術士会HPへの掲載

統括本部技術士会HP及び東北本部技術士会HPへ掲載(7月1日)しました。

なお、東北本部のHPから統括本部のHPへのリンクを設定しました。



HP画像1 統括本部技術士会HP



HP画像2 東北本部技術士会HP

### 6.2 広報活動(新聞・雑誌・テレビ等)

「15. 参考資料」(P94)に新聞情報を示します。

## 6.3 参加者リスト

## 6.3.1 会場参加者名簿(日本側:本会議)

## 第50回 日韓技術士国際会議(仙台) 会場参加者(五十音順記載)と座席番号

	氏名	所属 / 役職等	部門	座席番号
来賓	宮城県知事			4
	郡 和子	仙台市長		5
	林 照順	駐仙台大韓民国総領事		6
随員	小野寺 研	宮城県秘書課		78
	武藤 隆行	宮城県事業管理課		79
	浅野 亮太	仙台市秘書課		80
	趙 允慧	駐仙台大韓民国総領事館 領事		7
	梁 祐宗	駐仙台大韓民国総領事館 秘書		13

あ お	青葉 堯	(元日韓技術士交流委員・運営協力)	化学部門	23
	赤松 幸吉	日韓技術士交流委員会	電気電子部門	29
	井口 高夫	東北本部 副本部長	建設/総合技術監理部門	22
	石川 弘子	東北本部	建設部門	60
	糸井 秀実	東北本部	建設/総合技術監理部門	55
	伊藤 貞二	東北本部	建設/総合技術監理部門	64
	稲垣 正晴	(元日韓技術士交流委員・運営協力)	応用理学/総合技術監理部門	27
	今西 肇	日韓技術士交流委員会	建設部門	8
	遠藤 敏雄	東北本部 副本部長	建設部門	15
	小田切 明広	日韓技術士交流委員会	機械部門	44
か こ	梶谷 真	東北本部	建設部門	57
	片桐 勝広	(元日韓技術士交流委員・運営協力)	電気電子/総合技術監理部門	35
	金岡 民善	北陸本部	応用理学部門	37
	加納 実	東北本部	建設部門	62
	叶内 榮治	東北本部	建設部門	49
	金 仁周	日韓技術士交流委員会	建設部門	43
	熊谷 和夫	東北本部 本部長	建設部門	1
	権 永哲	東北工業大学 准教授		47
後藤 和彦	東北本部	建設部門	61	
さ そ	齋藤 明	東北本部	建設/総合技術監理部門	48
	齋藤 大介	東北本部	農業部門	67
	齋藤 浩	東北本部	建設/総合技術監理部門	38
	佐久間 章夫	理事	電気電子部門	12
	佐々木 源	東北本部	建設部門	50
	佐々木 聡	理事、国際委員会 委員長	原子力・放射線部門	18
	佐々木 宏	海外活動支援委員会 委員長	機械部門	19
	佐竹 芳郎	九州本部 本部長	建設/総合技術監理部門	17
	佐藤 真吾	東北本部	建設/総合技術監理部門	39
	佐藤 高広	東北本部	建設/環境/総合技術監理部門	41
	佐藤 雅士	東北本部	建設部門	63
	柴田 友禧	東北本部	建設/総合技術監理部門	66
末岡 眞純	東北本部	建設/総合技術監理部門	45	

	氏名	所属 / 役職等	部門	座席番号
さ そ	須賀 幸一	理事、日韓技術士交流委員会 委員長	建設/総合技術監理部門	2
	菅原 晃	東北本部	上下水道部門	51
	須藤 達美	日本技術士会	建設部門	75
	須藤 勇一	東北本部 山形県支部長	建設/上下水道/総合技術監理部門	53
	関川 良平	事務局		31
た と	高橋 秀輔	東北本部	電気電子部門	69
	滝上 忠彦	東北本部 事務局長	上下水道部門	30
	武田 芳丈	東北本部	建設部門	68
	田島 暎久	日韓技術士交流委員会	航空・宇宙部門	28
	田沼 和夫	副会長	建設/総合技術監理部門	10
	寺井 和弘	会長	建設/上下水道/衛生工学/総合技術監理部門	3
	時合 健生	(元日韓技術士交流委員・運営協力)	化学部門	34
な の	長崎 均	理事、企画委員会 委員長	建設/水産/環境部門	20
	長澤 和夫	東北本部	建設部門	46
	中澤 喜久雄	日韓技術士交流委員会	経営工学部門	76
	中西 利美	(元日韓技術士交流委員・運営協力)	上下水道部門	32
	中山 輝也	参与(元日韓技術士交流委員長)	応用理学部門	11
	沼澤 朋子	日韓技術士交流委員会	経営工学部門	36
は ほ	橋本 義平	(元日韓技術士交流委員・運営協力)	情報工学部門	24
	橋本 正志	東北本部	建設/応用理学部門	74
	畠 良一	東北本部 福島県支部長	建設部門	52
	平野 輝美	(元日韓技術士交流委員・運営協力)	化学部門	33
	平野 吉彦	北陸本部 本部長	応用理学/総合技術監理部門	16
	廣瀬 由紀	日韓技術士交流委員会 副委員長	情報工学部門	9
	深井 将光	東北本部	建設部門	40
ま も	松浦 努	東北本部	応用理学部門/総合技術監理部門	59
	松野 裕二	東北本部	経営工学部門	65
	宮原 宏	建設部門	(元日韓技術士交流委員・運営協力)	25
	室中 善博	(前日韓技術士交流委員長・運営協力)	環境部門	26
	森井 淳司	東北本部	上下水道部門	56
や よ	柳木 功宏	東北本部	建設/総合技術監理部門	58
	山下 祐一	中国本部	建設/応用理学/総合技術監理部門	42
	吉川 謙造	東北本部 (前本部長)	建設/応用理学/総合技術監理部門	14
わ	渡辺 将之	東北本部	建設部門	54
	渡邊 嘉男	(元日韓技術士交流委員)	建設部門	21

記者席	記者席①			70
	記者席②			71
	記者席③			72
	記者席④			73
—	(予備席)			77

## 6.3.2 オンライン参加者名簿(日本側:交流会・座談会・本会議)

	氏名	資格区分	技術部門	IPEJ
1	高木 茂知	技術士	建設/総合技術監理部門	日本技術士会 相談役
2	関中 康幸	技術士	機械部門	日韓技術士交流委員会
3	田中 俊生	技術士	電気電子部門	(元日韓技術士交流委員長・運営協力)
4	伊丹 光則	技術士	農業/総合技術監理部門	(元日韓技術士交流委員・運営協力)
5	田吹 隆明	技術士	情報工学部門	(元日韓技術士交流委員・運営協力)
6	畔津 義彦	技術士	建設部門	
7	穴山 恭廣	技術士	経営工学部門	
8	石田 佳子	技術士	建設/衛生工学/総合技術監理部門	
9	石本 俊亮	技術士	建設/総合技術監理部門	
10	犬飼 博信	技術士	建設部門	
11	井上 祥一郎	技術士	建設/上下水道/衛生工学/農業/森林/水産/応用理学/環境部門	
12	今村 隆広	技術士	建設/総合技術監理部門	
13	大久保 真二	技術士	電気電子部門	
14	大越 時夫	技術士	化学部門	
15	大澤 宏明	技術士	建設部門	
16	太田 淳	技術士	機械/経営工学部門	
17	大谷 一人	技術士	経営工学/総合技術監理部門	
18	小川 総	技術士	建設部門	
19	長田 雅史	技術士	電気電子/総合技術監理部門	
20	小沼 千香四	技術士	建設/応用理学/総合技術監理部門	
21	小野寺 徳雄	技術士	建設/総合技術監理部門	
22	掛川 昌俊	技術士	機械/衛生工学/総合技術監理部門	(元日韓技術士交流委員)
23	風間 拓朗	技術士	電気電子部門	
24	加澤 隆昌	技術士	農業/総合技術監理部門	
25	唐木 正史	技術士	建設/総合技術監理部門	
26	菊地 豊	技術士	上下水道/農業部門	
27	岸田 順三	技術士	建設/総合技術監理部門	
28	木下 親佳	技術士	上下水道/経営工学/総合技術監理部門	
29	木町 元康	技術士	上下水道部門	
30	倉持 智幸	技術士	電気電子部門	
31	河野 千代	技術士	建設部門	
32	小松 敏孝	技術士	農業/総合技術監理部門	
33	斎藤 正哉	技術士	建設部門	
34	齊藤 正義	技術士	電気電子部門	日本技術士会 理事
35	桜田 裕之	技術士	建設/応用理学/総合技術監理部門	
36	笹口 裕昭	技術士	金属/建設/総合技術監理部門	日本技術士会 理事
37	塩原 亮一	技術士	機械/電気電子/原子力・放射線/総合技術監理部門	日本技術士会 理事
38	重野 龍勇	技術士	建設/総合技術監理部門	
39	関口 芳弘	技術士	電気電子部門	
40	高橋 歩夢	技術士	建設部門	
41	丹 収一	技術士	建設/総合技術監理部門	
42	千葉 岳彦	技術士	建設部門	
43	中川 裕康	技術士	建設部門	
44	中村 央	技術士	生物工学/総合技術監理部門	
45	西 靖彦	技術士	建設部門	
46	西川 幸一	技術士	建設部門	
47	西村 浩一	技術士	電気電子部門	
48	野々部 颯治	技術士	上下水道/衛生工学部門	
49	兼田 聖子	技術士	環境部門	
50	長谷川 俊一	技術士	機械部門	
51	羽生 こずえ	技術士	建設部門	
52	早坂 展江	技術士	応用理学部門	
53	人見 雅之	技術士	建設/森林部門	
54	平岡 城栄	技術士	建設/総合技術監理部門	
55	平岡 賢太郎	技術士	化学部門	日本技術士会 中部本部 本部長
56	平岡 光雄	技術士	建設/総合技術監理部門	
57	深田 晃二	技術士	衛生工学部門	
58	福岡 悟	技術士	建設/総合技術監理部門	日本技術士会 近畿本部 名誉本部長
59	福田 一郎	技術士	建設/総合技術監理部門	
60	福田 直三	技術士	建設部門	日本技術士会 理事
61	源沢 智秀	技術士	建設部門	
62	舟山 和重	技術士	建設部門	
63	吉野 隆久	技術士	建設部門	日本技術士会 四国本部 本部長
64	保城 秀樹	技術士	編纂部門	日本技術士会 理事
65	密山 彰浩	技術士	建設部門	
66	八木澤 聡	技術士	建設部門	
67	安川 雄樹	技術士	情報工学部門	
68	柳沢 新市	技術士	建設/総合技術監理部門	
69	山口 正隆	技術士	農業部門	日本技術士会 理事
70	山本 真之	技術士	上下水道/総合技術監理部門	
71	吉田 要	技術士	建設部門	
72	吉野 敏治	技術士	上下水道部門	
73	和田 豊	技術士	建設/上下水道/総合技術監理部門	

6.3.3 韓国側参加者(本会議)

No.	한글	漢字	英字	備考
0		(事務局)		
1	주승호	朱勝皓	Joo, Seung Ho	
2	이지형	李芝衡	Lee, Ji Hyung	
3	김정하	金正河	Kim, Jung Ha	
4	황경성	黃景性	Hwang, Kyung Sung	
5	심범보	沈範輔	Shim, Bum Bo	
6	이갑열	李甲烈	Lee, Gab Yeul	
7	조형연	趙亨衍	Jo, Hyung Yeon	
8	오진성	吳眞城	Oh, Jin Seong	
9	이형호	李炯祐	Lee, Hyung Ho	
10	권오형	權五亨	Kwon, Oh Hyoung	
11	하태원	河泰元	Ha Tae Won	
12	이창수	李昌洙	Lee, Chang Soo	
13	류성호	柳聖豪	Ryu, Sung Ho	
14	노덕남	盧德男	Roh Deok Nam	
15	문만석	文萬錫	MOON, MAN SEOK	
16	노시현	盧時鉉	Roh, See Hyun	
17	박봉수	朴捧秀	Park, Bong Su	
18	안재찬	安在燦	Ahn, Jae Chan	
19	어득해	魚得海	Eo, Deug He	
20	김병균	金炳均	Kim Byung Kyun	重複
21	양태승	梁泰承	Yang, Tae Seung	
22	김보광	金普光	Kim, Bo Kwang	
23	김석태	金奭泰	Kim, Seog Tae	
24	김장열	金章烈	Kim, Jang Yeol	
25	박기범	朴起範	Park, Ki Beom	
26	윤정민	尹鄭泯	Yoon, Jeong Min	
27	윤호섭	尹好燮	Yoon, Ho Seob	
28	이래철	李來哲	Lee, Rae Chul	
29	이병국	李炳國	Lee, Beoung Kug	
30	이장희	李長熙	Lee, Jang Hee	
31	이창규	李昌圭	Lee, Chang Gyu	
32	정공운	鄭恭運	Jeong, Gong Uhn	
33	조복래	趙福來	Cho, Bok Rae	
34	윤봉섭	尹峰燮	Yun, Bong seop	
35	남궁필	南宮弼	Nam, Gung Pil	
36	김영국	金永國	Kim, Young Ko	
37	박지현	朴志玄	Park, Ji Hyun	

No.	ハングル	漢字	英字	備考
38	이태동	李泰東	Lee, Tai Dong	
39	김세곤	金世坤	Kim, Se Kon	
40	박태희	朴泰熙	Park, Tai Hee	
41	이종호	李鍾鎬	Lee, Jong Ho	
42	김지현	金池炫	Kim Ji Hyeon	
43	김한봉	金漢奉	Kim, Han Bong	
44	김순호	金順鎬	Kim, Soon Ho	
45	김태환	金泰桓	Kim Tae Hwan	
46	남기준	南基準	Gi Joon Nam	
47	이재면	李載면	Lee, Jae Myun	
48	이현동	李玄凍	Lee Hyun dong	
49	전인성	全寅星	I.S. Jun	
50	최성욱	崔盛旭	Choi, Seong Uk	
51	조은경	趙銀京	Cho, Eun Kyung	
52	김영천	金永川	Kim, Young Chon	
53	백용	白鏞	Baek, Yong	
54	김영돈	金泳敦	Kim YongDon	
55	정태관	鄭太館	Jung, Tai Gwan	
56	이강건	李康建	Lee, Kang Kun	
57	정연구	鄭然求	Jeong, Yeon Goo	
58	기유경	奇裕景	Ki, Yoo Kyung	
59	홍순명	洪淳明	Hong, Soon Myung	
60	나덕근	羅德根	Na, Deok Keun	
61	홍흥표	洪興杓	Hong,Heung Pyo	
62	하만복	河萬卜	Ha, Man Bok	
63	박호경	朴浩慶	Park, Ho Kyung	
64	김병철	金秉哲	Kim, Byung Chul	
65	이주호	李注浩	Lee, Ju Ho	
66	김경미	金敬美	Kim, Kyung Mi	
67	김영환	金永煥	Kim, Young Hwan	
68	이영휘	李榮輝	Lee youngwhue	
69	김병환	金炳桓	Kim, Byung Hwan	
70	강형원	姜亨遠	Kang, Hwung Won	
71	김두희	金頭熙	Kim, Doo Hee	
72	박노선	朴魯璇	Park, No Sun	
73	전현주	全炫柱	Jeon, Hyun Joo	
74	신전식	申全植	Shin, Jeon Shik	
75	이연근	李淵根	Lee, Yeong Eun	

No.	ハングル	漢字	英字	備考
76	강선덕	姜善惠	Kang, Sun Duck	
77	강현열	姜賢烈	Kang, Hyun Yul	
78	권오길	權五吉	Kwon, Oh Kil	
79	김양란	金良蘭	Kim, Yang Ran	
80	김용기	金龍基	Kim, Young Gi	
81	김지영	金志英	Kim, Ji Young	
82	김태연	金泰淵	Kim, Tai Yeon	
83	박득진	박득진	Park, Deuk Jin	
84	박영욱	朴永旭	Park, Young Wook	
85	박일형	朴日炯	Park, Il Hyung	
86	서영금	徐英今	Seo, Young Geum	
87	신수경	辛琇慶	Shin, Soo Gyung	
88	오향록	吳香祿	Oh, Hyang Rok	
89	우종열	禹鍾烈	Woo, Jong Yeol	
90	정기동	鄭基東	Jung, Kee Dong	
91	정양봉	鄭良鳳	Jeong, Y.B.	
92	최근수	崔根壽	Choi, Keun Su	重複
93	허만석	許萬碩	Heo, Man Seok	
94	최정훈	崔政焄	Choi Jung Hoon	
95	이경숙	李京淑	Lee Gyoung Sook	
96	이상희	李相喜	Lee, Sang Hee	
97	박병수	朴秉秀	Park Byung Soo	
98	정지현	鄭祉鉉	Jung Ji Hyeun	
99	변기만	邊起萬	Byeon, Gi Man	
100	윤석용	尹錫龍	Sugk-Yong, Yoon	
101	민경정	閔庚政	Min, Kyeong Jeong	
102	정재용	鄭在容	Jae, Yong Jung	
103	이한영	李漢永	LEE,H.Y.	
104	현지은	玄芝恩	Hyun, Ji Eun	
105	차득근	車得根	Cha, Duk Guen	
106	임종문	林鍾文	Lim, Jong Moon	
107	김회를	金會律	Kim, Hoi Youl	
108	강문기	姜紋奇	Kang, Moon Ki	
109	고영식	高英植	Ko, Yeong Shik	
110	김성우	金星佑	Kim, Sung Woo	ソウル会場
111	김장규		KIM,J.K	ソウル会場
112	류은열	柳恩烈	Ryoo, Eun Yeol	ソウル会場
113	박금수	朴金洙	Park, Keum Soo	ソウル会場

No.	ハングル	漢字	英字	備考
114	박기범	朴起範	Park, Ki Beom	ソウル会場
115	신동호	申東浩	Shin, Dong Ho	ソウル会場
116	안명석	安明碩	Ahn, M. S.	ソウル会場
117	안영호	安永浩	An, Yong Ho	ソウル会場
118	이병찬	李炳讚	Lee, Byoung Chan	ソウル会場
119	이종기	李鍾基	Lee, Jong Gi	ソウル会場
120	정연태	鄭淵太	Jung, Yeon Tae	ソウル会場
121	정영우	丁榮祐	Jeong, Yeong Woo	ソウル会場
122	최대용	崔大龍	Choi, Dae Yong	ソウル会場
123	한상중	韓相重	Han, Sang Joong	ソウル会場
124	이승환	李承桓	Lee, Seung Hwan	ソウル会場
125	홍재윤	洪在允	Hong, Jae Yoon	ソウル会場
126	김재찬	金在贊	Kim Jae Chan	ソウル会場
127	손철완	孫哲完	Sohn, Chul Wan	ソウル会場
128	이종윤	李鍾允	Lee, Jong Yoon	ソウル会場
129	정미진	鄭美振	Jeong, Mi Jin	ソウル会場
130	신호전	申浩傳	Shin HoJeon	ソウル会場
131	유충현	柳忠鉉	C.H. YOO	ソウル会場
132	김지성	金志星	Kim, Ji Seong	ソウル会場
133	김종호	金鍾浩	Kim, Jong Ho	ソウル会場
134	김상귀	金相貴	Kim, sang Kwi	ソウル会場

## 7. プログラム

## 7.1 プログラム作成

## 7.1.1 プログラム

本大会で実施した行事名及び行事内容を、表 7. 1. 1 大会プログラムとしてまとめて示す。

表.7.1.1 大会プログラム

日時		行事名
10/30 (土)	14:00～15:30	第 14 回日韓女性技術士交流会
	15:45～17:00	日韓の技術士・学生座談会

## ■第 50 回日韓技術士国際会議（仙台）本会議

日時		行事内容
10/31 (日)	8:30～ 9 : 30	式典 開会宣言、開会挨拶、祝辞、基調報告、 国際貢献賞受賞式、第 50 回記念・功労者紹介
	9:30～10:30	基調講演 日本側 1 題、韓国側 1 題
	10:30～10:50	休憩 (Coffee Break)
	10:50～11:30	特別報告 (映像) 「東日本大震災からの 10 年の歩みと福島のこれから」 「日韓技術士交流半世紀の歩み」
	11:30～12:30	昼食 (Lunch Break)
	12:30～14:30	一般発表 (各分科会/日本側 2 名、韓国側 2 名) 【第 1 分科会】(基盤分野) 国土、社会 infrastructure、土木・建設、基幹産業、農林水産 etc. 【第 2 分科会】(Energy) 資源、Energy、環境 etc.
	14:30～14:50	休憩 (Coffee Break)
	14:50～16:50	【第 3 分科会】(技術監理) 倫理、力量、教育、危機管理、防災、安全 etc. 【第 4 分科会】(先端分野) 情報通信、Nanotech、Bio、素材、第 4 次産業分野 etc.
	16:50～17:00	次回開催地 (麗水) の紹介
	17:00～17:20	本会議のまとめ、大会宣言、閉会

## 7.1.2 本会議タイムテーブル

本会議での進行計画を、表.7.1.2に本会議タイムテーブルとして示す。また、表.7.1.3に一般発表のタイムテーブルを作成した。このうち、開会挨拶の韓国技術士会 朱会長の通信回線が不調となったため、基調講演の室中講師の後に行った以外は、ほぼタイムテーブルのとおり進行することができた。

表.7.1.2 本会議タイムテーブル

行事名	細目	会場		通訳	時間	時刻	備考	
		日本	韓国					
受付		-	-	-		8:00 ~		
司会	注意事項	○			0:05	8:25 ~ 8:30	コロナ対応,web注意事項等	
式典 8:30~9:30	開会宣言	今西 肇	○		同通	0:02	8:30 ~ 8:32	運営委員長
	開会挨拶	寺井 和弘	○		同通	0:05	8:32 ~ 8:37	日本技術士会会長
		朱 勝皓		○	同通	0:05	8:37 ~ 8:42	韓国技術士会会長
	来賓挨拶	宮城県知事	○		同通	0:05	8:42 ~ 8:47	代理：遠藤信哉（副知事）
		仙台市長 郡 和子	○		同通	0:05	8:47 ~ 8:52	
		駐仙台大韓民国総領事 林 熙順	○		文字	0:05	8:52 ~ 8:57	韓国語(日本語はテロップ)
	壇上配置替え		-	-	-	0:03	8:57 ~ 9:00	(来賓降壇・フロア席着席)
	基調報告	須賀 幸一	○		同通	0:05	9:00 ~ 9:05	交流委員会委員長(日本)
		李 芝衡		○	同通	0:05	9:05 ~ 9:10	交流委員会委員長(韓国)
	国際貢献賞 授賞式	洪 興杓 朴 泰熙		○	同通	0:10	9:10 ~ 9:20	(写真撮影)
第50回大会記念 功労者紹介		○		同通	0:08	9:20 ~ 9:28	日韓20名程度 遠藤副知事、郡市長 退席	
基調講演 9:30~10:30	室中 善博	○		同通	0:30	9:30 ~ 10:00	前_交流委員会委員長	
	金 斗煥		○	同通	0:30	10:00 ~ 10:30	韓日技術士交流委員会顧問	
	李 康建		○	同通	0:30	10:00 ~ 10:30	前韓日交流委員長	
10:30~10:50	【コーヒープレイク】	-	-	-	0:20	10:30 10:50	林総領事退出 仙台観光動画	
特別報告 10:50~11:30	東日本大震災関連	○		-	0:20	10:50 ~ 11:10		
	日韓技術士交流50年	○		-	0:20	11:10 ~ 11:30		
11:30~12:30	【ランチタイム】	-	-	-	1:00	11:30 ~ 12:30		
一般発表①※ 12:30~14:30	第1分科会	○	○	同通	1:00	12:30 ~ 13:30	(座長) 金 仁周	
	第2分科会	○	○	同通	1:00	13:30 ~ 14:30	(座長) 小田切 明宏	
14:30~14:50	【コーヒープレイク】	-	-	-	0:20	14:30 ~ 14:50	仙台観光動画	
一般発表②※ 14:50~16:50	第3分科会	○	○	同通	1:00	14:50 ~ 15:50	(座長) 須賀 幸一	
	第4分科会	○	○	同通	1:00	15:50 ~ 16:50	(座長) 末岡 眞純	
次回開催地の紹介 16:50~17:00	麗水(ヨス)ビデオ映像		○	同通	0:10	16:50 ~ 17:00		
まとめ 17:00~17:10	須賀 幸一	○		同通	0:10	17:00 ~ 17:10	交流委員会委員長	
大会宣言 17:10~17:15	熊谷 和夫	○		同通	0:05	17:10 ~ 17:15	東北本部長	

表.7.1.3 一般発表タイムテーブル

第 1 分科会 【12:30～13:30】	発表者	日本	韓国	時間	時刻
座 長 金 仁周 共同座長 朴 泰熙	1) 佐藤真吾 (東北)	○		0:15	12:30 ~ 12:45
	2) 深井将光 (東北)	○		0:15	12:45 ~ 13:00
	3) 金 永國		釜山	0:15	13:00 ~ 13:15
	4) 趙 銀京		○	0:15	13:15 ~ 13:30
第 2 分科会 【13:30～14:30】	発表者	日本	韓国	時間	時刻
座 長 小田切明宏 共同座長 沈 範輔	1) 室中善博	○		0:15	13:30 ~ 13:45
	2) 佐藤高広 (東北)	○		0:15	13:45 ~ 14:00
	3) 洪 淳明		○	0:15	14:00 ~ 14:15
	4) 朴 浩慶		○	0:15	14:15 ~ 14:30
◆コーヒーブレイク 【14:30～14:50】					
第 3 分科会 【14:50～15:50】	発表者	日本	韓国	時間	時刻
座 長 須賀 幸一 共同座長 尹 錫龍	1) 山下祐一 (中国)	○		0:15	14:50 ~ 15:05
	2) 今西 肇 (東北)	○		0:15	15:05 ~ 15:20
	3) 辛 琇慶		釜山	0:15	15:20 ~ 15:35
	4) 全 炫柱		○	0:15	15:35 ~ 15:50
第 4 分科会 【15:50～16:50】	発表者	日本	韓国	時間	時刻
座 長 末岡 眞純 共同座長 金 永川	1) 廣瀬由紀	○		0:15	15:50 ~ 16:05
	2) 佐々木宏	○		0:15	16:05 ~ 16:20
	3) 李 承桓		○	0:15	16:20 ~ 16:35
	4) 羅 徳根		○	0:15	16:35 ~ 16:50

## 7.1.3 本会議進行シナリオ

〔 8:30～9:30 式典 〕

時刻	マイク	アナウンス等
8:25	司会	<p><b>【案内・注意事項】</b></p> <p>間もなく本会議の開始時刻となりますが、開始に先立ちみなさまへのお知らせとお願いがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机上の配布資料の確認をお願いいたします。</li> </ul> <p>論文集、論文翻訳版、プログラム、感染対策注意事項、4階フロア案内図、参加記念品、CPD 行事参加票、参加証、観光パンフレット)</p> <p>不足があれば係員までお知らせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場では、コロナ対策としてマスクの着用をお願いいたします。また、本日は、感染防止の観点から飲料用サーバー等のサービスは行いませんのでご了承ください。</li> <li>・休憩等を含め、指定された座席からの席移動はできるだけお控えください。</li> <li>・座席後方にパソコンの充電コーナーを用意しましたので、必要な方はご利用ください。</li> <li>・その他、何か分からないことがありましたら、名札に赤丸シールがある運営スタッフにお尋ねください。</li> </ul> <p>最後になりますが、携帯電話（音の出る機器）の電源は切っただけか、マナーモードにさせていただけるようお願いいたします。</p> <p>それでは、お時間までしばらくお待ちください。</p>
8:30 【1分】	司会	<p>皆さま、大変お待たせいたしました。ただいまから、「第 50 回日韓技術士国際会議・仙台」を開催致します。</p> <p>私は、本日の本会議の司会を務めさせていただきます、三浦貴子と申します。よろしくお願い致します。</p> <p>また、同時通訳は”オ キョンホン”さんと”チョン”さんをお願いいたします。</p> <p>⇒「オです。よろしくお願い致します。」</p> <p>⇒「チョンです。よろしくお願い致します。」</p> <p>本日の会議は、新型コロナウイルスにより、リモート併用によるハイブリッド開催となりました。何かと不慣れな点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、「第 50 回日韓技術士国際会議」運営委員長の今西肇(イマニシ ハジメ)から「開会宣言」を申し上げます。</p>
8:31 【1分】 開会宣言	今西運営委員長	<b>開会宣言</b>
8:32 【5分】 開会挨拶(日本)	司会	<p>ありがとうございました。それでは日本側を代表して、 公益社団法人日本技術士会 会長 寺井和弘(テライ カズヒロ)より、開会挨拶を申し上げます。</p>
	寺井 会長	<b>日本側 開会挨拶</b>

8:37【5分】 開会挨拶 (韓国)	司会	ありがとうございました。続きまして、韓国側を代表して、韓国技術士会 会長 朱勝皓(チュ スンホ)さまから、ご挨拶を頂きます。 朱勝皓会長、よろしくお願い致します。
	朱勝皓 会長	<b>韓国側 開会挨拶</b>
8:42【5分】 来賓挨拶(1)	司会	ありがとうございました。 本日は大変お忙しい中、ご臨席を頂きました御来賓の方々からご挨拶をいただきたいと思ひます。 初めに、宮城県知事に御挨拶をお願い致します。 本日は、遠藤信哉(エンドウ シンヤ)副知事からご祝辞を頂戴いたします。
	遠藤 副知事	<b>来賓挨拶(1)</b>
8:47【5分】 来賓挨拶(2)	司会	遠藤副知事さま、ありがとうございました。 続きまして、仙台市長 郡 和子(コオリ カズコ)さまからご挨拶をいただきます。 郡さま、よろしくお願い致します。
	郡 市長	<b>来賓挨拶(2)</b>
8:52【5分】 来賓挨拶(3)	司会	郡市長さま、ありがとうございました。続きまして、駐仙台大韓民国総領事 林 熙順(イム ヒスン)さまからご挨拶をいただきます 林(イム)さま、よろしくお願い致します。
	林 総領事 (韓国語)	<b>来賓挨拶(3)</b> スクリーンに日本語訳文表示(同時通訳は不要)
(祝電紹介)	司会	林(イム)総領事さま、ありがとうございました。 <b>祝電を頂いておりますので、お名前のみをご紹介させていただきます。</b>
8:57【3分】 来賓降壇 壇上配置替え	司会	次に「基調報告」を行います、準備を行いますのでしばらくお待ちください。
9:00【5分】 基調報告 (日本)	司会	お待たせしました。それでは主催者側から基調報告を行います。最初に、これまでの日韓技術士国際会議の活動経緯につきまして日本側を代表して、日韓技術士交流委員会 委員長の須賀幸一(スガ コウイチ)より報告致します。 須賀(スガ)委員長、よろしくお願い致します。
	須賀 委員長	<b>日本側 基調報告</b>
9:05【5分】 基調報告 (韓国)	司会	ありがとうございました。続きまして、韓国側を代表して、韓日技術士交流委員会 委員長の李芝衡(イ ジヒョン)さまより報告いただきます。 李(イ)委員長、よろしくお願い致します。
	李 委員長	<b>韓国側 基調報告</b>
9:10【10分】	司会	それでは次に、国際貢献賞の表彰を行います。

国際貢献賞 授賞式		今回は、寺井会長に代わり、韓国技術士会の朱（チュ）会長より表彰を行っていただきます。 韓国会場、よろしく願いいたします。  別添資料 1_国際貢献賞受賞者氏名、表彰状
	朱 会長 受賞者	表彰状の読み上げ（受賞者のスピーチは無し）
9:20	司会	朱（チュ）会長、ありがとうございました。皆さま、今一度盛大な拍手をお願いします。

9:20【8分】 功労者紹介	司会	
-------------------	----	--

式典の最後になりますが、これまでの半世紀にわたる日韓技術士交流において格別の貢献をいただきました方々をご紹介します。

日本側は、本日もご列席賜りました 11 名の方々です。

10 年を超える長きにわたり日韓技術士交流の委員などを務められた方々です。

このほかにもたくさんの委員の方々大変ご協力いただいておりますが、今回はご列席いただいた方を代表としてご紹介させていただきます。

それではご芳名とご略歴を読み上げますので、その席にてご起立願います。

また、ご経歴等につきましては、正面のスクリーンにお写しいたしますので、ご覧ください。

（日本側功労者、パワーポイント映像）  
（ご起立の上、一礼して、ご着席）

ありがとうございました。

続きまして、韓国側から 10 名の方々の功労者を紹介いたします。

ハングル順にご芳名とご略歴を読み上げます。

なお、正面のスクリーンに、ご経歴等をお写しいたしますのでご覧ください。

（韓国側功労者 パワーポイント映像）

**【司会者】**

ありがとうございました。

以上をもちまして、功労者紹介を終わらせていただきます。

みなさま、最後に拍手をもちまして、功労者の方々への感謝をお願いいたします。

9:28	司会	以上をもちまして、式典を終了致します。 遠藤副知事と郡市長は公務のため、ここで退席をさせていただきます。本日は、ご臨席を賜りありがとうございました（拍手・退席）。 なお、林総領事には引き続きご臨席をいただけることになっております。よろしく願いいたします。
------	----	---

[ 9:30～10:30 基調講演、10:50～11:30 特別報告 ]

時刻	マイク	アナウンス等
9:30 【30分】 基調講演（日本）	司会	引き続き、基調講演を行います。 まず、日本側から前日韓交流委員会委員長 室中善博（ムロナカ ヨシヒロ）さまよりご講演頂きます。 それでは室中さま、よろしくお願ひ致します。
	室中善博	<b>日本側 基調講演</b>
10:00 【30分】 基調講演（韓国）	司会	ありがとうございました。続きまして、韓国側から 李康建（イ カンゴン）さまと金斗煥（キム ドゥファン） さまのお二人よりご講演を頂きます。 それでは李（イ）さま、金（キム）さまよろしくお願ひ致し ます。
	李康建 金斗煥	<b>韓国側 基調講演</b>
10:30 【20分】 コーヒープレイク	司会	李（イ）さま、金（キム）さま、ありがとうございました。 あらためて拍手をお願ひいたします。（拍手） 時間になりましたので、これで基調講演を終わらせて頂きま す。 ここで、林（イム）総領事が退席されます。長時間にわたり ご臨席いただき、ありがとうございました（拍手・退席）。 これよりコーヒープレイクといたしますが、10時50分よ り、特別報告として「東日本大震災復興の歩み」と「日韓技術 士交流50年の歩み」に関連した映像を視聴していただきます のでよろしくお願ひいたします。
10:50 【40分】 特別報告	司会	これより特別報告として、2編の映像を流します。 最初に、「東日本大震災からの復興と福島県のこれから」を ご覧いただきます。【20分】 引き続きまして、「日韓技術士交流半世紀の歩み」をご覧い ただきます。【16分】
11:30	司会	以上で午前の部は終了でございます。 午後の一般発表は、午後12時30分より開始致します。  【事務局（橋本）から会場参加者へ】 お弁当を申し込まれた方は、お席でお待ちください。 係りの者がお席までお持ち致します。 なお、午後の発表者は5分前までに着席いただけるようお 願ひ申し上げます。

11:30~12:30 ランチタイム

〔 12:30～16:50 一般発表 〕

時刻	マイク	アナウンス等
12:30【60分】 第1分科会	司会	これから第1～第4分科会ごとに一般発表を行います が、交代時間の都合により、第1分科会と第2分科会の皆さまに壇上に上がっていただいております。 司会は、各分科会の座長をお願いいたします。 最初は、基盤分野の第1分科会で、座長は 金仁周(キム インジュウ)さまと朴泰熙(パク テヒ) さまです。 それでは、金(キム) さま、朴(パク) さま、よろしく お願いいたします。
	座長：金 仁周	発表・質問
13:30【60分】 第2分科会	司会	引き続きまして、エネルギー分野の第2分科会からの報告 で、座長は小田切 明広(オダギリ アキヒロ) さまと沈範輔 (シム ボムボ) さまです。 準備はよろしいでしょうか。 (確認) それでは、よろしく お願いいたします。
	座長：小田切明 広	発表・質問
14:30   【20分】 14:50 コーヒーブレイク	司会	第1、第2分科会のみなさま、ありがとうございました。 ※ここで、コーヒーブレイクの案内 只今、●時●分ですが、第3分科委 会は予定通り14:50より開始 いたします。 第3、4分科会の皆様は壇上 でご準備ください。 【ただし、時間調整がある ので、アナウンス内容は橋本 より指示する可能性がある】
14:50【60分】 第3分科会	司会	技術監理の第3分科会からの報告 です。座長は須賀 幸一(スガ コウイチ) さまと尹錫龍(ユン スクヨン) さまです。 それでは、須賀(スガ) さま、 尹(ユン) さま、よろしく お願いいたします。
	座長：須賀 幸一	発表・質問
15:50【60分】 第4分科会	司会	引き続きまして、先端分野の 第4分科会からの報告です。座 長は末岡眞純(スエオカ マスミ) さまと金永川(キム ヨン チョン) さまです。 それでは、末岡(すえおか) さま、 金(キム) さま、よろしく お願いいたします。
	座長：間中康幸	発表・質問
16:50【10分】 次回大会地の紹介  この間、壇上配置替	司会 韓国からビデオ	(降壇) 第3、第4分科会のみな さま、ありがとうございました。 次に、次回開催地の麗水(ヨス) の紹介映像を韓国から紹介 させていただきます。 準備はよろしいでしょうか。 よろしく お願いいたします。

第 50 回日韓技術士国際会議(仙台)運営報告書

		<p>※ ヨスからは、映像 2 つ（英語、韓国語）を流した後、開催地関係者がヨスを紹介し、日本語に通訳する予定。 英語版（1：46）、韓国語（3：15）</p>
17：00【10分】 まとめ	司会	第 50 回日韓技術士国際会議のまとめを、日韓交流委員会委員長の須賀幸一（スガ コウイチ）より報告いたします。
	須賀 幸一	大会のまとめ
17：10【5分】 大会宣言	司会	本大会の最後にあたり、日本技術士会東北本部本部長の熊谷和夫（クマガイ カズオ）より大会宣言を読み上げます。
	熊谷 和夫	大会宣言
17：15 閉会	司会	<p>本日は、長時間に亘り会議にご参加いただきありがとうございました。 皆さまのご協力により滞りなく会議を進行させることができました。 改めて御礼を申し上げます。</p>

## 7.2 論文募集・査読・口頭発表者選定

### 7.2.1 はじめに

東北本部での担当は論文募集・審査グループ長の末岡眞純並びに同副グループ長の松野裕二が担当しました。両名とも初めての日韓会議でした。昨年のコロナ禍からこの会議は延期になり本年5月から本格的に準備が始まりました。常に東北本部と統括本部事務局の関川氏並びに金委員長と綿密な情報交換並びに適時金委員長と韓国側の打ち合わせが会議成功に至ったと考えます。全体調整、論文募集、冊子作成等は統括が行い、会議の進行、オンライン準備、同時通訳、論文評価、第4分科会の座長進行を東北が担いました。

### 7.2.2 論文募集

5/19に統括の金委員長が4部会の座長リーダーに選任されました。5/24に募集準備に入り、8月の査読作業により口頭発表なのかHP発表かが決まることが決定されました。6/1に第50回日韓技術士国際会議(仙台)の開催概要が一般に発表されました。6/14に第50回日韓技術士国際会議発表論文募集はHPに掲載されその概要は以下の通りです。

第50回日韓技術士国際会議 発表論文の募集 日韓技術士交流委員会より

第50回日韓技術士国際会議(仙台)を、2021年10月30日(土)～11月1日(月)の期間で開催します。対面会議【仙台市の会場】とWEB会議【オンライン】を併用して行います。このうち、10月31日(日)の12:40～16:50に行われる分科会について、発表論文を以下の通り募集します。今回は、すべての分科会を同じ会場で実施します。いずれの発表も、参加者全員が聴講することとなります。日韓両国からオンラインを含め200人を超えるご参加を見込んでおり、大変貴重な発表の機会となります。奮ってご応募ください。

#### (1) 各分科会の発表分野 / テーマ

第1分科会 : 基盤分野 ( 国土、社会インフラ、土木・建設、基幹産業、農林水産など )

テーマ : インフラメンテナンス時代の技術

第2分科会 : エネルギー ( 資源、エネルギー、環境など )

テーマ : 気候変動とエネルギー問題

第3分科会 : 技術監理 ( 倫理、力量、教育、危機管理、防災、安全など )

テーマ : 人口減少問題と技術者教育

第4分科会 : 先端分野 ( 情報通信、ナノテクノロジー、バイオ、素材、第4次産業分野など )

テーマ : DX時代における技術の未来

#### (2) 発表論文の言語

日本語または英語の論文としてください。※ 選考された場合に、日本語の論文については、韓国語翻訳も作成していただきます。補助・参考用につき、WEBツール等で自動翻訳したものでも構いません。

#### (3) 当日の口頭発表

① 会場 ホテルメトロポリタン仙台 4階 千代の間 [仙台市青葉区中央1丁目1-1]

② 発表方法 上記の会場にて、パワーポイントにより発表していただきます。

発表時間は、1人15分(発表10分、質疑応答5分)です。

※ 韓国語の同時通訳者を配置します。

※ 論文は、配布冊子に掲載するとともに、第50回日韓技術士国際会議の特設ページに掲載します。

#### (4) 応募論文の提出について

① 応募資格

日本技術士会の会員であり、発表分野に関する発表ができること

「口頭発表」の発表者として選考された場合に、仙台市の会場にて参加できること。

「HP 発表」の発表者として選考された場合に、オンラインで参加できること。

- ② 論文の形式 本ページ下部、添付資料の「第 50 回日韓技術士国際会議 論文投稿要領」および「論文作成様式」により作成した A4 用紙 2 枚の論文
- ③ 提出締切 8 月 1 日（日）までに、「8. 論文提出先」のメールアドレスへ論文を送付してください。メールには「お名前、会員番号」および「希望する分科会」を記載願います。

#### (5) 論文の選考について

ご提出いただいた論文について、日韓技術士交流委員会と東北本部による論文募集審査グループが査読を行います。8 月中旬に、下記「口頭発表」および「HP 発表」の発表論文を選考し、応募者の方へ選考結果をお知らせいたします。

- ① 口頭発表 分科会ごとに、日本側から 2 名を選びます。

上記「3. 当日の口頭発表」のとおり、仙台市の会場にて発表していただきます。

論文は配布冊子に掲載するとともに、第 50 回日韓技術士国際会議の特設ページに掲載します。

※ 口頭発表用のパワーポイントは、9 月 30 日（木）までに提出していただきます。

- ② HP 発表 分科会ごとに、日本側から 2 名程度を選びます。

口頭発表はありませんが、論文を配布冊子に掲載するとともに、第 50 回日韓技術士国際会議の特設ページに掲載します。※ 当日は、オンラインでご参加いただきます。

#### (6) 論文提出先

第 50 回日韓技術士国際会議 論文募集審査グループ E-mail : [jkpe-post@engineer.or.jp](mailto:jkpe-post@engineer.or.jp)  
 添付資料 第 50 回日韓技術士国際会議 論文投稿要領 (PDF ファイル 387KB)  
 論文作成様式 (Word ファイル 45KB)

### 7.2.3 論文査読

6/16 に論文審査メンバーを以下のように登録しました。統括本部から分科会座長及び第一分科会座長に金氏、第二分科会座長小田切氏、第三分科会座長須賀氏、第四分科会座長に間中氏並びに東北本部から末岡、松野としました。同時に論文募集を会員の方全員へ同報メールとして流しました。7/9 時点で 11 篇応募がありました。私は東北本部遠藤副委員長、渡辺副グループ長、渡辺女性技術士交流会、関西本部、新潟本部にも論文執筆を依頼しました。7/12 時点で東北本部より 7 編の応募がありました。7/14 室中氏からも論文提出への呼びかけがありまし。8/2 時点で、8/1 論文募集締め切りで 18 編が提出済み、1 編が未提出、1 編が未定の状況でありました。この時点から東北本部二名は提出論文 20 編について 8/20 を目標に査読を開始しました。8/12 金リーダーから論文のチェックリスト及び口頭発表者の条件等査読方針が伝えられました。8/14 東北本部二名の査読方針は テーマに沿った論文であり、技術士会論文として品格がある、論文として正確で、起承転結が整っている、新規性、国際性等がある視点で査読を行いました。

### 7.2.4 口頭発表者選定

8/15 松野募集・審査副グループ長と調整を行い口頭発表者及び論文への修正意見を東北本部から金委員長に提出しました。8/19 金委員長から口頭論文発表者が決定され、各個人に結果を送付されました。8/20 発表者の中からコロナ禍から仙台に行けないとの意見がでました。8/22 今西委員長に報告し検討を依頼しました。結果は仙台で発表出来る人から選定することになり、発表者を修正しました。発表者は各分科会 2 編ずつ 8 人が決定されました。8/25 には復興庁東北復興局の後援を得るため論文名及び大震災関連論文リストを作成し提出しました。8/31 に最終口頭発表者決定しました。以下の様に第 1 分科会 6 編、第 2 分科会 5 編、第 3 分科会 4 編、第 4 分科会 5 編合計 20 編の論文が整いました。この内英文論文は 1 編でした。韓国側の論文提出は 9/14 との情報が入りました。9/27 合同会議で分科会の進行、zoom 使用方法の詰め、10 月中旬論文 HP アップ、時間管理の韓国への要請等の議論を行いました。間中座長がコロナ禍で仙台に来れないことから、末岡が第 4 分科会座長に選任されました。

発表者は自分のパソコンを持参のうえ発表する形態とされました。翻訳論文やPPTの提出もありました。10/2に通訳が決定されました。10/4に日韓の論文及び翻訳論文が整いました。10/10韓国側の会議参加者はソウル会場30人、Web100人とのことが報告されました。10/15に通訳の方に資料を送付しました。10/21参加者に質問コーナーを案内し29日まで質問の受付を行いました。10/25東北からも質問を作成し登録しました。10/29事前質問が整い発表者と、どの質問を受けるかの調整を行いました。

口頭発表者

第一分科会 佐藤真吾氏（建設、総監）、深井将光氏（建設）

第二分科会 室中善博氏（環境）、佐藤高広氏（建設、環境）

第三分科会 山下祐一氏（建設、応用理学、総監）、今西 肇氏（建設）

第四分科会 廣瀬由紀氏（情報工学）、佐々木宏氏（機械）

HP発表者

第一分科会 西靖彦氏（建設）、大澤宏明氏（建設）、羽生こずえ氏（建設）、関口芳弘氏（電気電子）

第二分科会 平田賢太郎氏（環境）、野々部顕治氏（上下水道、衛生工学）、長田雅史氏（電気電子、総監）

第三分科会 渡辺将之氏（建設）、大谷一人氏（経営工学、総監）

第四分科会 間中康幸氏（機械）、唐木正史氏（建設、総監）、安川雄樹氏（情報工学）

（募集・審査グループ長 末岡 真純 記）

### 7.3 来賓依頼・後援依頼

ご来賓として、宮城県知事代理の副知事遠藤信哉様、仙台市長 郡和子様、駐仙台大韓民国総領事館総領事 林熙順様をお招きして、本会議にてご祝辞を賜りました。副知事からは、東日本大震災時の韓国の皆様からの復興・復旧支援への感謝と、両国の平和、繁栄に向けた幅広い親善・技術交流への祈念のお言葉を頂きました。

郡市長からは、日本と韓国の技術士親善の場となる仙台開催の謝意と、官民技術者連携による災害への備えについてご紹介いただきました。林総領事からは、日韓技術士国際会議50周年の取り

組みによる科学技術・産業発展について

ご案内いただき、東日本大震災の復興象徴・仙台での会議開催についてご祝辞いただきました。

宮城県、仙台市、駐仙台大韓民国総領事館とともに、復興庁宮城復興局、農林水産省東北農政局、経済産業省東北経済産業局、国土交通省東北地方整備局からもご後援賜りました。復興庁宮城復興局長 中島洋様、経済産業省東北経済産業局長 平井淳生様、国土交通省東北地方整備局長 稲田雅裕様からはご祝辞文をいただき、各省庁の復興・復旧に向けた取り組みや防災・減災に向けた技術士の役割・期待について、ご投稿いただきました。本来であればご後援頂いた全ての機関をご来賓としてご臨場の上、祝辞を頂くところでしたがWEB開催で時間無く、祝辞文の掲載とさせて頂き失礼することになりました。

副知事の遠藤様には韓国総領事館とのアポイントや会場設定のアドバイス、日韓両国の机上旗を貸与して頂くなど、大変にお世話を頂き感謝を申し上げます。

（来賓対応グループ 糸井秀実 記）



写真 7.3.1 ご来賓のご臨席の様子

## 8.会場

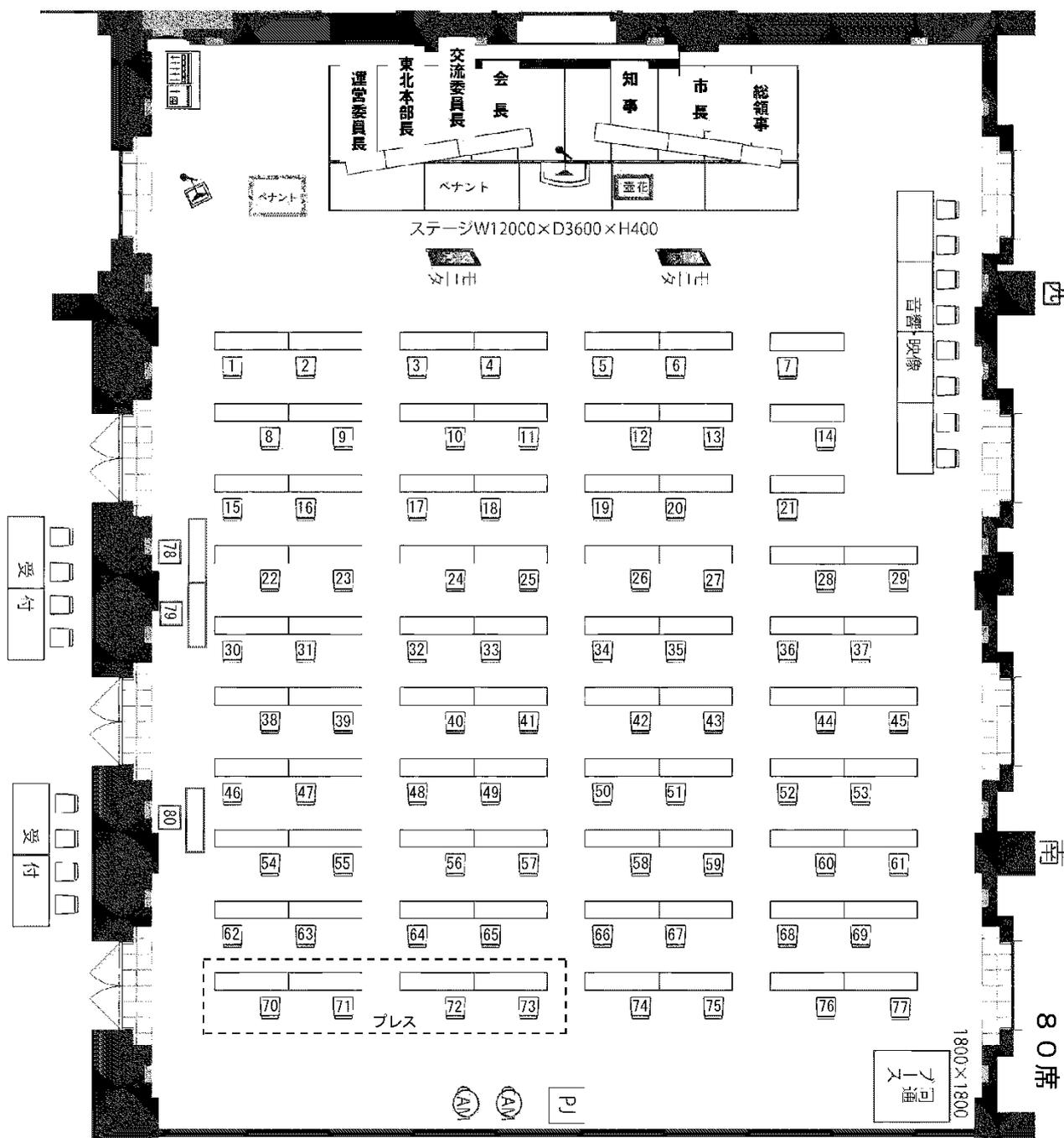
### 8.1 会場使用計画の作成

#### 8.1.1 会場フロア図



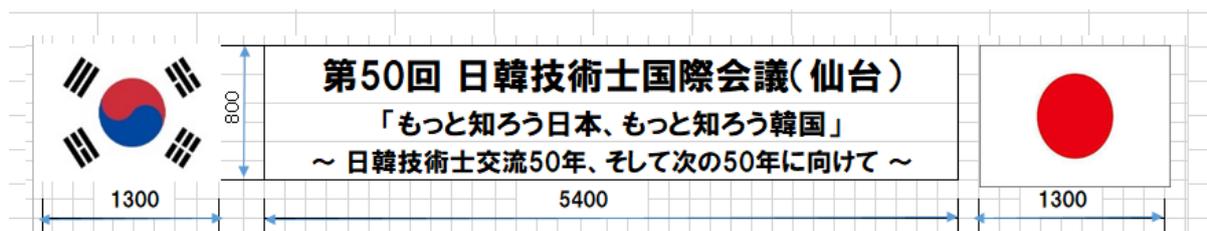
- (1) 受付は「統括本部他」「東北本部」の二つに分けて受付台を設置し、統括本部他の受付は統括本部の4名の方々をお願いをしました。
- (2) コロナ感染防止対策として、エスカレーター、階段、エレベーターに誘導員を配置し、AIサーマル・チェック後、「健康観察票」に記入してから受付をしてもらいました。
- (3) 健康観察票の記入については、クリップペンシルを使用しました。
- (4) 受付では参加者名簿裏面に座席表を添付して、直接本人に渡して座席に着席してもらいました。

8.1.2 本会議場座席指定図



- (1) 机上には A4 版に氏名・番号を記述した用紙を置き、来賓者の用紙は肩書とご芳名には〇〇〇〇様と記述して番号で管理しました。
- (2) 大会前日、机上にコングレスバック封入物ならびに首下げ名札をセットしました。
- (3) 同時通訳ブースは、壇上全体が見通せる場所とのことなので最後方に配置しました。
- (4) 知事、市長、総領事の随員席は、出入口に近い場所に配置し、プレス関係者の席は最後方配列しました。
- (5) 運営委員長、グループ長等も緊急時に行動しやすいように、出入口付近に配列しました。
- (6) ステージ台は他会場の空きができたので、最終的に L14400 x W3600 x H400 と大きさを変更しました。

## 8.1.3 横吊り看板等



- (1) 当初、看板サイズは L7200×W900 で企画しましたが、ハイブリット方式になり会場入場者が少ないので、サイズを縮小して L5400×W800 としました。
- (2) 日本、韓国の国旗サイズは両国とも L1300×W900 で、看板幅と 10 c m の差異が生じますが違和感はありません。
- (3) 韓国旗は、上下逆さまにならないように注意を払いました。
- (4) 韓国側が来日しないため、かけ垂れ幕 L4000×W600、立て看板 A L2700×W900、立て看板 B L2100×W900 は廃止して製作費を縮減しました。
- (5) 両国国旗、ペナント（日韓技術士国際会議旗）、大会冊子等は、統括本部より会議開催 4 日前にホテルに送付してもらいました。

## 8.1.4 前垂れ



- (1) 宮城県知事名は選挙期間中のため使用できないので、肩書だけにしました（代わりに副知事が出席）。
- (2) 前垂れのサイズは L660×W265 です。
- (3) 分科会において座長の位置は正面に向かって右側としました（上座は正面に向かって右側ですが、発表者と座長の関係なので座長は右側、講演者と座長の関係の場合は座長が反対の側）。

## 8.1.5 コングレスバック.

- (1) コングレスバックは公益財団法人 仙台観光国際協会から 130 部 (70 円/部) を購入しましたが、購入できる部数は会議出席者数 (Web 参加者を含む) に限られます。  
バック封入物は、①参加者名簿 (裏面に座席配列図) ②新型コロナウイルス感染症対策方針 ③ホテル 4 F フロア図 ④参加記念品 (しおり) ⑤観光パンフレット (3 種類) ⑥大会論文冊子 ⑦プログラム ⑧参加票 ⑨韓国側論文翻訳版 ⑩CPD 参加票です。
- (2) 韓国側にはコングレスバック、韓国語観光マップ各 30 部と参加記念品を入れて統括本部より送付してもらいました。

(会場管理チーム長 柴田 友禧 記)

8.1.6 会場管理チーム写真集

(1) 本会議場(Hメトロポリタン仙台)



写真 8.1.1 会場全景写真



写真 8.1.2 座席票と首下げ名札配布



写真 8.1.3 壺花



写真 8.1.4 大会ペナント



写真 8.1.5 同時通訳ブース

(2) 受付



写真 8.1.6 東北本部受付



写真 8.1.7 サーマル・チェック



写真 8.1.8 健康観察票記入所

8.2 web 配信(仙台⇄ソウルオンライン国際会議)

8.2.1 web配信の概要

(1) 方針

今回の日韓技術士国際会議(本会議)は、新型コロナ感染拡大の影響を受け、会場開催とオンライン開催を同時進行するハイブリッド形式の会議開催となりました。会議は、仙台会場とソウル会場の2拠点で共同開催し、日韓の一般参加者と韓国の数名の発表者は、会場外からオンラインで参加することとなり、加えて同時通訳にも対応することが必要となったため、web 配信のオペレーションは煩雑になりました。

これにより、通信や配信オペレーションにおけるトラブル発生のリスクが高くなったことから、配信方法は、万一、トラブルが発生した場合でも修復が容易で、且つ韓国側とシンプルに通信できる方法を採用しました。

(2) 配信の方法

① 配信計画

技術士会としてもハイブリッド形式での国際会議は初めての経験であったことから、今回煩雑となる配信作業自体は専門業者に委託し、配信計画の立案に際しては助言を受けることとしました。ハイブリッド形式は、会場に来て参加する「来場型」と、インターネットを介して会議に参加する「オンライン型」を組み合わせたもので、今回の会議参加者の種別は3つに区分されます。それぞれの参加者が直接的・間接的に Zoom に接続することで、ひとつの会議として進行することが可能となります。会議は、主に式典と一般発表で構成されており、各構成に適した配信および Zoom 接続について計画しました。

表 1. ハイブリッド形式における参加種別

参加方法	参加者の種別
本会場 (日本)	<日本側>式典参加者、基調講演者、分科会参加者、大会関係者
副会場 (韓国)	<韓国側>式典参加者、基調講演者、分科会参加者、大会関係者
オンライン (web)	<日韓両国>一般参加者、(分科会参加者 ※会場参加不可の場合)

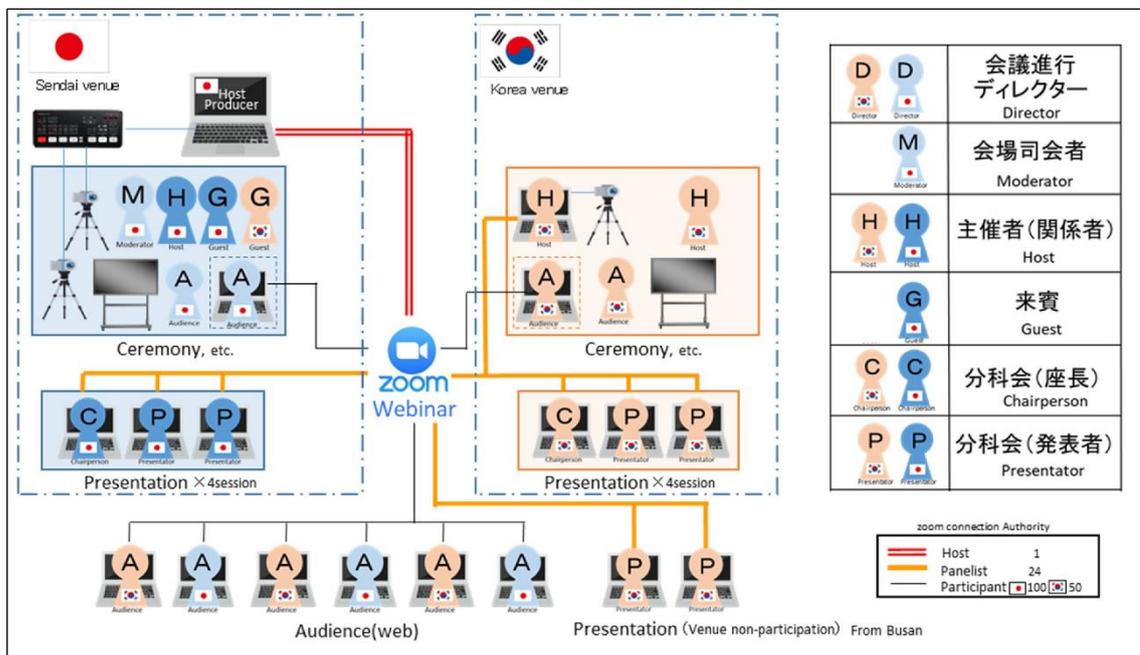


図 8.2.1 ハイブリッド形式における配信計画(Zoom 接続)

② 使用ソフト

配信方法として、web 会議システムの「Zoom ウェビナー」を採用し、全体の配信管理を本会場側（日本）で実施しました。なお、同時通訳については、本会場側（日本）で通訳を行い、Zoom ウェビナーの同時通訳機能を使用して、2つの言語（日本語・韓国語）の音声配信しました。

③ 使用機材

使用機材は、カメラ撮影関連、音声関連、同時通訳関連、web 配信関連に区分され、それぞれにオペレーターが必要で、実際の配信作業は計 8 名(委託業者 6 名+配信チーム 2 名)で行いました。なお、使用機材は大量で、会場に搬入し設置するだけで 2 時間を要しました。



写真 8.2.1 同時通訳ブースと会場撮影カメラ



写真 8.2.2 配信関連機材とオペレーター

8.2.2 会議開催までの準備作業

(1) web 参加の手続き

Web で参加又は発表される方は、インターネット経緯で web 会議システムの「Zoom ウェビナー」に接続して頂く必要がありました。このため、web 会議参加するためのアカウント発行や会議参加の手続等については下図のように実施しました。

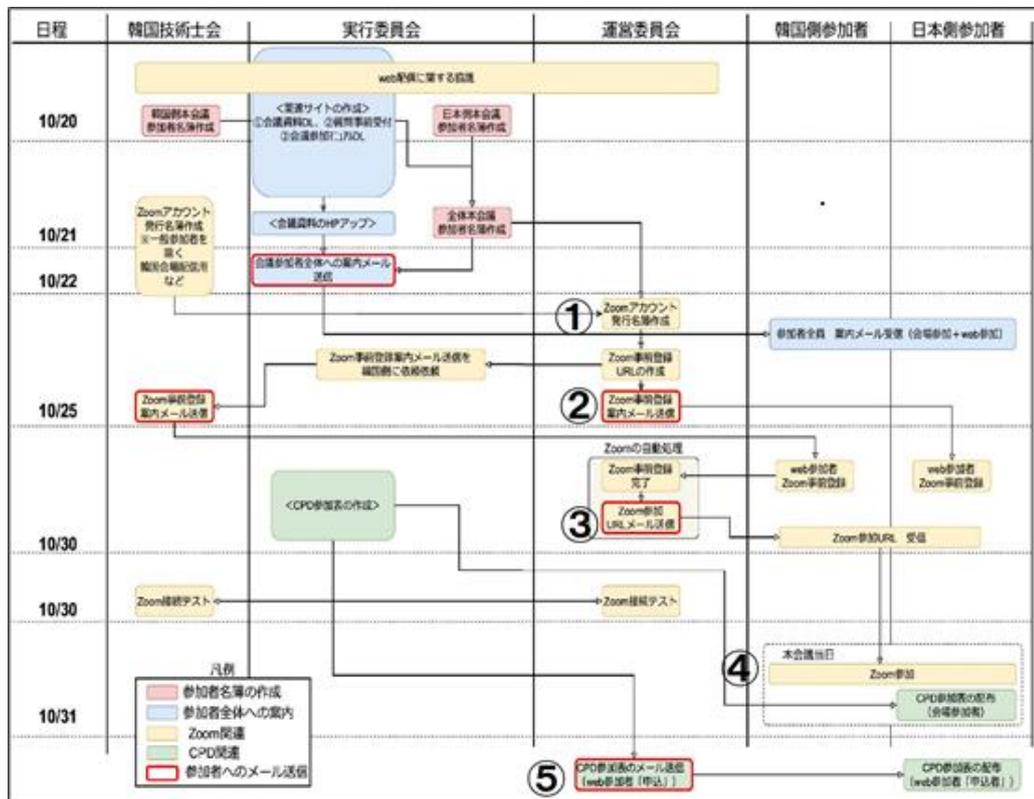


図 8.2.2 web 参加の手続

- ① 日本側・韓国側の参加者名簿から、「Zoom アカウント発行名簿」を作成
- ② 事前に Zoom アカウント発行者に対して、web 会議招待メール（事前登録用）を送信
- ③ 参加者の氏名、メールアドレスを事前登録した後、web 会議招待メール（会議入室用）を送信
- ④ 会議当日、Zoom アカウント発行者の Zoom 接続履歴を基に、web 参加者出席名簿を作成
- ⑤ 会議終了後、web 参加申込者全員に対して、CPD 資料をメールで送信

## (2) 韓国側との調整

韓国側との調整については、実行委員会の廣瀬副委員長と、金委員を通じて web 配信の基本方針の互いに確認したうえで、web 参加の手続きや web 配信に関する準備を始めました。

会議前日には、使用する会場に配信機器類を設置し、会議当日と同じ環境で韓国側と通信テストを実施し、映像や音声、Zoom 画面共有が互いの会場で問題なく配信されることを確認しました。

## (3) 事前の接続チェックの実施

Web 配信におけるトラブルとして、最も懸念されたのが一般発表における発表資料の Zoom 画面共有時の不具合です。主な要因として、発表データ作成時と異なる環境（PC、OS、使用ソフトのバージョンなど）によるものと Zoom 操作の不慣れによるものが想定されました。

このため、一般発表の座長と発表者の方には、PC の持参をお願いするとともに、発表直前の休憩時間を利用して、各 PC の Zoom への接続や画面共有の確認を行いました。

なお、今回のインターネット接続は、通信の安定性を重視し、Wi-Fi 接続ではなく LAN ケーブルを用いた接続としましたが、PC の中には、LAN ケーブルを接続するポートが無いものもあるので、運営委員会側で USB-LAN 変換ケーブルを用意しました。

## 8.2.3 会議当日

### (1) 実施体制

会議当日は、運営委員長、本会議運営グループ及び日韓の会議進行ディレクターと連携し配信を実施しました。この中で配信担当は、インターネットの保守、音響管理、映像管理、PC オペレーションを行いました。

### (2) web 配信

配信途中、韓国側の会場以外から通信が不安定となり配信ができなくなる等のトラブルがありました。韓国側との調整は図り、進行次第を入れ替える対応をとりました。

また、同時通訳は、仙台会場で二人の通訳者により、日本語と韓国語の通訳音声を配信しましたが、一部、韓国側からの通信が不安定になり、通訳者が韓国からの発言を聞きとれず通訳ができなくなる場面もありましたが、会議全体としては、円滑な配信ができたものと思います。

## 8.2.4 まとめ

多くの会議関係者及び配信を支えて頂いた東北共立担当者、ホテル関係者のご尽力により、無事に配信を終了できましたことを感謝申し上げます。なお、一部に発生したトラブルの原因は不明ですが、会議全体の通信不能などの大事に至らなかったことは幸いです。

(運営委員会本会議運営グループ 配信チーム長 武田 芳丈 記)

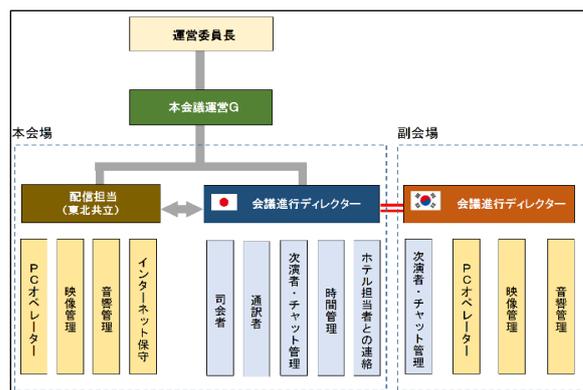


図 8.2.3 実施体制



写真 8.2.3 配信画面

## 8.3 会場安全管理

警備・安全安心グループでは、イベントおよび本会議参加者の安全安心を確保するため、緊急時の対応手順や連絡体制を整え、十分に準備した上で本番に臨みました。

開催中に特に緊急事態はなく、また、新型コロナウイルス感染症により来場をお断りした方もいられず、全ての行事を無事行うことができました。

### 8.3.1 事前準備

危機管理については、コロナ禍の開催となったため、自然災害や事故等の対応に加え新型コロナウイルス感染症対策を十分に検討した上で、対応マニュアルおよび対応手順を策定しました。

また、会議当日の対応を円滑にするため、最高警備安全責任者（CSO）として遠藤敏雄運営副委員長を選任したほか、関係者連絡用 LINE グループと常時携帯できるリーフレットを作成しました。

### 8.3.2 プレイベントの安全管理

本会議に先駆け、「女性技術士交流会」と「学生座談会」が前日の 10 月 30 日に仙台ビジネスホテルで開催され、関係する運営委員ほか仙台在住の学生や教員が来場されました。

当日の安全管理は、避難通路や消火器・AED の所在確認、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した会場のセッティング、受付時の検温および健康観察票への記入・確認と手指消毒のお願いを行いました。

### 8.3.3 本会議の安全管理

メトロポリタンホテル仙台にて開催された本会議の安全管理は、前日のイベント同様、避難通路や消火器・AED の所在確認、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した会場のセッティング、受付時の検温および健康観察票への記入・確認と手指消毒のお願いを行いました。多数の参加者がおりましたが、分散しての来場であったため、特に混乱も無くスムーズに入場していただきました。

会議中は、会場および周辺に異常がないか随時見回りをを行い、連絡用 LINE を利用して会議の進行状況など情報共有を図りました。

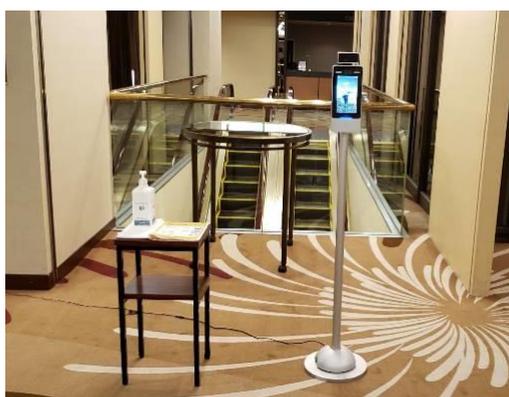


写真 8.3.1 検温用サーマルカメラ(本会議場)

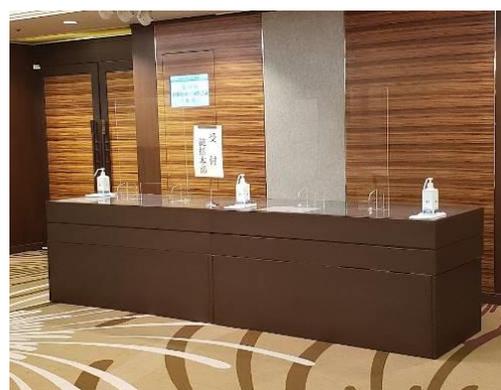


写真 8.3.2 アクリルパネル設置(本会議場)



写真 8.3.3 ホテル設置の消火器・AED

(警備・安全安心グループ長 加納 実 記)

9. 制作物

9.1 大会リーフレット



後援: 宮城県, 仙台市, 駐仙台大韓民国総領事館, 復興庁宮城復興局,  
農林水産省東北農政局, 経済産業省東北経済産業局, 国土交通省東北地方整備局  
助成: 公益財団法人日韓文化交流基金, 公益財団法人仙台観光国際協会,

(撮影地: 仙台市地下鉄東西線 国際センター駅)

# 第50回日韓技術士国際会議（仙台）

The 50<sup>th</sup> Japan-Korea Professional Engineers International Conference

## 開催プログラム

### 10月30日（土）

14:00～15:30 第14回日韓女性技術士交流会（Zoomミーティング 配信のみ）

内 容：活動報告及び論文発表

15:45～17:00 日韓の技術士・学生座談会

テーマ：ダイバーシティと技術者教育

会 場：仙台ビジネスホテル（Teamsウェビナー配信を併用）

※いずれも、韓国語/日本語の通訳あり

### 10月31日（日）

第50回日韓技術士国際会議 本会議

（会場）ホテルメトロポリタン仙台

zoomウェビナー配信（韓国語/日本語の同時通訳あり）

Web参加者の資料は特設サイトからダウンロードできます。

#### 【午前の部】

8:30～ 9:30	開会宣言、開会挨拶、来賓祝辞、活動報告、国際貢献賞授賞式	
9:30～10:30	基調講演（日本側1名、韓国側1名）	
10:30～10:50	コーヒーブレイク	
10:50～11:30	特別報告 （映像）	「(仮) 東日本大震災から10年の東北の歩みと福島これから」 「(仮) 映像で振り返る日韓技術士交流半世紀の歩み」

#### 【午後の部】

一般発表：分科会ごとに日本側2名、韓国側2名が口頭発表		
12:30～13:30	第1分科	基盤分野（国土、社会インフラ、土木・建設、基幹産業、農林水産など）
13:30～14:30	第2分科	エネルギー（資源、エネルギー、環境など）
14:30～14:50	コーヒーブレイク	
14:50～15:50	第3分科	技術監理（倫理、力量、教育、危機管理、防災、安全など）
15:50～16:50	第4分科	先端分野（情報通信、ナノテック、バイオ、素材、第4次産業分野など）
16:50～17:00	次回開催地「麗水（ヨス）」の紹介	
17:00～17:10	本会議のまとめ	
17:10～17:20	大会宣言	

お申込み等の詳細は、日本技術士会または東北本部のホームページをご覧ください。

9.2 名札

例年は会場が複数設けられていることから、裏面にはイベントのスケジュールと場所が記載されていました。今年では会場が1会場であるため、表面と裏面を同じものを印刷し、ひっくり返っても名前が見えるように工夫しました。A6サイズのフォルダーに入る大きさです。

【名札のイメージ】

第 50 回 日韓技術士国際会議  
(仙台)

---

**廣瀬 由紀**

HIROSE, Yuki

情報工学部門

日韓技術士交流委員会 副委員長

---

主催：公益社団法人日本技術士会  
 後援：宮城県、仙台市、駐仙台大韓民国総領事館、  
 復興庁宮城復興局、農林水産省東北農政局、経済産業  
 省東北経済産業局、国土交通省東北地方整備局  
 助成：公益財団法人 日韓文化交流基金、公益財団法人  
 仙台観光国際協会

(表面)

第 50 回 日韓技術士国際会議  
(仙台)

---

**廣瀬 由紀**

HIROSE, Yuki

情報工学部門

日韓技術士交流委員会 副委員長

---

主催：公益社団法人日本技術士会  
 後援：宮城県、仙台市、駐仙台大韓民国総領事館、  
 復興庁宮城復興局、農林水産省東北農政局、経済産業  
 省東北経済産業局、国土交通省東北地方整備局  
 助成：公益財団法人 日韓文化交流基金、公益財団法人  
 仙台観光国際協会

(裏面)

【参考】前回日本開催時(神戸開催)の名札

第48回 日韓技術士国際会議  
(兵庫・神戸)

---

**中川 裕康**

NAKAGAWA, Hiroyasu

建設

公益社団法人日本技術士会 副会長

---

主催：公益社団法人日本技術士会  
 後援：兵庫県、神戸市、駐神戸大韓民国総領事館  
 協力：一般財団法人神戸観光局、  
 Kobe Convention Bureau

(表面)

The 48th Japan-Korea PEs International Conference

Day	Time	Event	Location
10/17 Wed	14:00	日韓親善Soccer大会	神戸王子 Stadium
	15:00	日韓女性技術士交流会	神戸市産業振興 Center
	19:00	前夜祭・Soccer交流会	New Munchen Havenburg
10/18 Tue	9:00	式典 Ceremony	Hotel Okura Kobe
	10:00	基調講演 Keynote Speech	平安/Heian (1F)
	12:00	Lunch	「分科会」の会議室 「분과회」의 회의실
	13:00 / 17:00	分科会 Afternoon Session	第1：有明/Ariake (3F) 第2：曙/Akebono (1F) 第3：松風 I /Matsukaze I (1F) 第4：松風 II /Matsukaze II (1F) 第5：飛鳥/Asuka (3F)
	8:45 / 16:15	Ladies Course	Hotel Okura Kobe → Meriken Park → Cruising Cafe "Fantasy" → 南京町 → Lunch → 神戸布引 Herb 園
	9:00 / 17:00	Poster Session	クリスタル/Crystal (1F)
	18:30 / 21:00	日韓親善晩餐会 Banquet	平安/Heian (1F)
10/19 Fri	8:45 / 14:30	研修視察 Industry Study Tour	Hotel Okura Kobe → 生田神社 → 相楽園 → 人と防災未来Center → Lunch → JR芦屋駅 → 関西空港

IPEJ事務局 TEL 090-5437-0079

日韓親善晩餐会 [ Banquet ]  
Table No.

(裏面)

(事務局長 滝上 忠彦 記)

## 10. 第 50 回日韓技術士国際会議(仙台)本大会行事(仙台⇄ソウル/オンライン国際会議)

## 10.1 開会宣言

先人たちの熱意と理解が 50 年の日韓技術士交流の歴史をつくりました。技術士交流は、両国の熱意と尊敬がなければ成り立たなかったでしょう。

今日は、その熱意と尊敬を次の時代に引き継ぐべく、さらに一歩を踏み出す日です。

「もっと知ろう日本。もっと知ろう韓国」のテーマは、その強い意志の表れです。

東日本大震災から十年たったいま、宮城県仙台市で伝統あるこの会議を開催することを誇りに思います。

ここに、第 50 回日韓技術士国際会議を開会することを宣言いたします。



写真 10.1.1 開会宣言  
運営委員長 今西 肇氏

## 10.2 開会挨拶

挨拶文は「本会議論文集」に掲載



写真 10.2.1 日本技術士会 会長 寺井和弘氏



写真 10.2.2 韓国技術士会 会長 朱 勝皓氏

## 10.3 基調報告(1)日本側

日本側からの基調報告は日韓技術士交流委員長の須賀幸一氏からです。報告の概要は以下のとおりです。

前回、韓国高陽（Goyang）市で開催されました第49 回日韓技術士国際会議から2 年が経ち、記念すべき第50 回会議を韓国の関係者と再会し、盛大に会議を開催する運びでした。しかし、COVID-19 によりそれがかないませんでした。このような中、1 年間の延期を含め、Web 会議を併用した形式での開催に至りました。

COVID-19 が生んだこの「新しい会議形式」は、今後の「新しい時代の日韓技術士の交流」につながるのではないかと期待しております。

今回の会議のテーマは、「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」であり、副題は、「日韓技術士交流50 年、そして次の50 年に向けて」です。互いの国の技術士制度や活動



写真 4 基調報告  
日韓技術士交流委員長 須賀幸一氏

内容、将来の課題を知り、議論することにより、更に発展的な日韓技術士交流につなげたいとの思いから選んだテーマです。もう一つのテーマは、2011年の東日本大震災からの復興10年となる東北地域の歩みと姿をみなさんに知ってもらうことです。

本来なら研修視察において実際の姿をみていただきたかったのですが、特別報告として映像による「東日本大震災からの10年の歩み」をご覧くださいませ。大自然の脅威とその被災から立ち上がる東北の人々の営みを少しでも体感していただければ幸いです。

午後からは、技術交流の場として、4つの分科会発表を行います。テーマは第一分科会が「インフラメンテナンス時代の技術」、第二分科会が「気候変動とエネルギー問題」、第三分科会が「人口減少問題と技術者教育」、第四分科会が「DX時代における技術の未来」です。両国においても重要なテーマであり、多くの議論が交わされることを期待しています。

このように、本来の目的の一つである技術交流は、Web会議においても必要なプログラムを企画することができましたが、50年にわたり相互の理解と信頼を築き上げるために重要な役割を果たしてきました友好親善交流の主なイベントは、中止となりました。その中でも、昨日のプレイベントで日韓女性技術士交流会と日韓の技術士・学生座談会が行われました。次の世代につながる新しい交流となることを期待しております。

(要約：運営委員会記録グループ長 梶谷 真 記)

#### 10.4 基調報告(2)韓国側

韓国側からの基調報告は韓国の韓日交流委員長の李芝衡氏からでしたが、李芝衡氏は出席できず金永川(キムヨンチョン)氏による代読でした。Web回線の不調により順番が基調講演の後になりましたが、講演の概要は以下のとおりです。

第50回韓日技術士国際カンファレンスがこのように開催されることが本当に嬉しく感謝します。

私は李康建前委員長の後任で、2020年3月に韓日交流委員長として委嘱された李芝衡新任委員長です。今後ともよろしくお祈りいたします。2020年は、韓日技術士交流50周年を迎える記念的で歴史的な年でした。しかし、全世界的に広がったCOVID-19はますます拡散していく不安と未来を予測できない不確実性で1年延期するしかありませんでした。韓日技術士交流委員会のこれまでの経過を報告します。昨年3月、委員長になった直後、日本室中義博前日韓交流委員長とメールを通じ日本仙台で開催される予定の2020年10月第50回韓日技術士国際カンファレンス開催を2021年に延期することに合意しました。

その後、室中義博日韓技術士交流委員長と電子メールを持続的に交換しながら、第50回にするのか第51回にするか(回次決定)、会議の主題選定、開催日時など相互協議して進行了ました。

2020年11月18日と2021年5月20日2回にわたる韓日-日韓交流委員会会議をオンラインで開催しました。

両国25名以上の委員が参加して日本東北本部今西肇運営委員長が非常に細心に作成した具体的計画をオンラインで討論し、オンラインとオフラインを融合する形式で行事を進行することで両国が合意しました。この席を借りて今西肇技術士と日韓交流委員の準備に深い感謝と拍手を送ります。今回のカンファレンス主題は「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国-韓日技術士交流50年、そして次の50年に向けて」です。韓日両国先輩技術士たちの献身と相互信頼で50年という長い

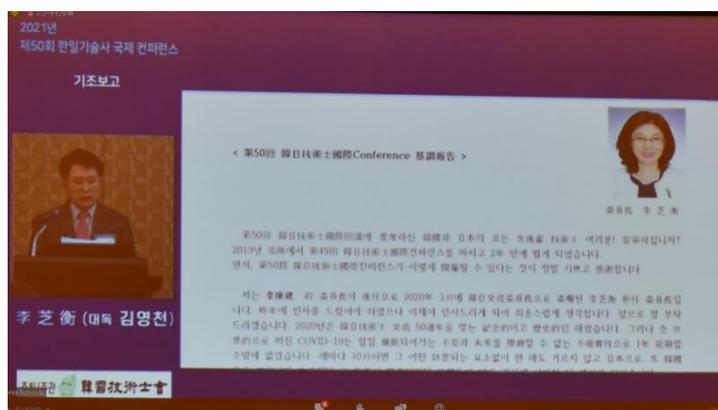


写真 10.4.1 基調報告代読中の金永川氏

歴史を築いてきました。今後の 50 年は、韓日の若手技術士達が先輩技術士達が築いたこの資産をうまく繋げていくことが重要だと思います。そういう意味で午前基調講演は金斗煥（キムドファン）韓日技術士交流会顧問に 50 年間の交流歴史と今後韓日技術士が進むビジョンと展望について提示していただきます。午後分科会では パク・ホギョン技術士と女性技術士 3 人、若い技術士で構成し、新世代間（学生）の交流、女性技術士の活発な参加と素晴らしい論文が用意されているので、ウェブや現場で参加されるすべての方々も最後まで聴講して応援してください。最後に、来年は韓国の麗水で第 51 回韓日技術士国際会議を開催することになります。新しい半世紀に向かって力強く飛躍するイベントになるように準備いたします。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

（要約：運営委員会記録グループ長 梶谷 真 記）

## 10.5 国際貢献賞授賞式・功労者紹介

### 10.5.1 国際貢献賞授賞式

日韓技術士国際会議では、開催国が相手国の貢献者 2～3 名を表彰しています。今回は、韓国技術士会の洪興杓様と朴泰熙様が国際貢献賞を受賞されました。なお、受賞記念品として仙台伝統工芸の玉虫塗で塗られたシャンパングラスが贈られました。



写真 10.5.1 国際貢献賞受賞の 2 人(仙台会場スクリーン)



写真 10.5.2 国際貢献賞記念品(玉虫塗 シャンパングラス 2 個)

## 10.5.2 功労者紹介

今回は、第 50 回記念大会であることから、日韓技術士国際会議を支えたいただいた功労者を紹介しました。詳細された方は下記の方々です。

功労者紹介名簿

	氏名	日韓技術士交流委員会 経歴
1	中山 輝也	元_日韓技術士交流委員会 委員長
2	青葉 堯	元_日韓技術士交流委員会 委員
3	橋本 義平	元_日韓技術士交流委員会 委員
4	宮原 宏	元_日韓技術士交流委員会 委員
5	室中 善博	前_日韓技術士交流委員会 委員長
6	稲垣 正晴	元_日韓技術士交流委員会 副委員長
7	中西 利美	元_日韓技術士交流委員会 副委員長
8	平野 輝美	元_日韓技術士交流委員会 委員
9	時合 健生	元_日韓技術士交流委員会 委員
10	渡邊 嘉男	元_日韓技術士交流委員会 委員
11	吉川 謙造	前_日本技術士会東北本部 本部長

	氏名(ハングル順)	日韓技術士交流委員会 経歴
1	金 憲鎮	元 韓日技術士交流委員会 委員
2	金 斗煥	韓日技術士交流委員会 顧問
3	金 在權	元 韓日技術士交流委員会 委員長
4	朴 慶夫	元 韓日技術士交流委員会 委員長
5	朴 浩慶	韓日技術士交流委員会 顧問
6	柳 忠鉉	前 韓日技術士交流委員会 副委員長
7	李 康建	前 韓日技術士交流委員会 委員長
8	李 芝衡	韓日技術士交流委員会 委員長
9	全 相伯	韓日技術士合同シンポジウム編集,主管
10	洪 興杓	韓日技術士交流委員会 副委員長

(事務局長 滝上 忠彦 記)

## 10.6 基調講演(1)日本側

### (日本技術士会70年の歩みと日韓交流)

日本側からの基調講演は前日韓技術士交流前委員長の室中義博氏からです。以下に講演の項目・概要を示します。詳細については論文集を参照してください。

#### 10.6.1 はじめに

今回、第50回日韓技術士国際会議を仙台にて開催する運びとなりました。武漢Virusを発端とするCorona禍、本会議を敢えて開催しようと決断された両国関係者の心意気に敬意を表します。また、本年は、2011年3月11日に発生した東日本大地震から10年に当たります。この50年間、両国の間には多くの政治的な問題があり、現在もあり続けているが、そうした中、この会議が長きに亘って継続されてきたのは、ひとえに、両国技術士の皆様、特に諸先輩のご苦勞とご尽力によるところが大きく、改めて皆様に感謝と御礼を申し上げます。

今回の会議の主題は、「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」、副題として「日韓技術士交流50年、そして次の50年に向けて」です。

日本技術士会の70年の歴史については次の時代区分に分けて説明しています。



写真 10.6.1 基調講演の室中善博氏

#### 10.6.2 創立からその後の変遷

##### (1) 日本技術士会の創立から草創期(1951～1961年)

(社)日本技術士会は第2次大戦敗戦後まもない1951年に創立されました。

##### (2) 成長期及びそれ以降の変遷

###### ① 成長期(1962～1976年)及び変革期(1977～1988年)について

全国大会の拡大定着・日韓の交流の急速な深化・企業内技術士の活性化・技術士活用への運動・技術士補の誕生などがあります。

###### ② 飛躍期(1989～2001年)について

外国の技術者資格を有する者の認定・技術士試験の改善・技術士の資質向上の責務・技術士などの公益確保の責務(職業倫理)などが改正されています。

###### ③ 技術士法の変遷

技術士法の変遷について簡単に述べると、1959年以降、特権業務を付与することを主目的とする法改正が行われました。

##### (3) 現在の取り組み(2002～2021年)

2002年以降の活動について主なものを拾ってみると、2004年6月の「技術士Vision21」、そして2007年1月には「技術士Profession宣言」が発表されました。

##### (4) 日本技術士会の組織

日本技術士会の組織で常設委員会は倫理委員会、総務委員会、企画委員会、研修委員会、広報委員会、社会委員会、国際委員会と19部会で構成されています。

##### (5) 日本技術士会の会員数

現在の会員数は、正会員が15,665人、準会員は3,289人の総数18,954人となっています。

#### 10.6.3 日韓技術士交流委員会の活動

日韓技術士交流委員会の活動については、第1回日韓技術士国際会議を1971年10月にSeoulで開催し、2021年10月の仙台会議で50回を迎えます。

### (1) 日韓技術士国際会議の背景

1965年は、韓国でも日本と同様な技術士制度が設立されました。隣国である2か国が、程度の差はあれ、技術立国という動きを始めたのであり、ここに日韓が協力する素地が生まれました。

### (2) 合議覚書

日韓技術士国際会議の交流活動の底流に流れているのは合議覚書に記載された内容です。

### (3) それ以降の経過

このように、第1回Seoul会議に始まった技術士同士の交流は、第2回東京会議を経て、交互に両国首都において回を重ねることとなりました。その後、1992年22回会議からは、地方開催方針になりました。

## 10.6.4 これからの日韓交流について

### (1) 日韓技術士国際会議に対するご意見

今後の日韓交流活動の方向性を探るため、本年初めに、過去5年間の日韓技術士国際会議に参加された技術士の皆さんに対して、Questionnaire調査を行い、VOC (Voice of Customer) を集めました。① 費用・内容の簡素化と経費削減、開催地の負担軽減 ② 目的やVision・会議の目的やVisionを見直し、これまでのやり方を踏襲するのか新しい方向を目指すのかの総合的検討 ③ 開催方式・年1回の国際会議開催という交流の在り方の見直し・普通の国際会議なみに使用言語の英語化・RealでなくWEBやVirtualでの国際会議などの採用 ④ 会議Level・若い技術士が興味を持って参加できる内容の選定・先端技術や今後の技術の在り方と技術士のかかわりについて討論・日韓共同成果というようなものを追求 ⑤ 発展と拡大・日韓から東南Asiaへ、課題解決型展開可能性の検討・国際的な対等的連携のModel case、共同Projectへの発展可能性の検討

### (2) 日本技術士会の国際活動基本方針

2019年9月、日本技術士会は、現在行われている国際活動の評価・検討を行うTask forceを立ち上げ、今後の国際活動推進に当たって基本方針策定の検討を行いました。①公益性 ②技術士制度の維持発展及び国益確保 ③国際的通用性の拡大や会員の海外活動への効果的な情報提供や支援の3つの観点が取り上げられました。

### (3) 日韓技術士交流委員会の今後の取り組みについて

「日韓交流」について、Task forceからは「当初の狙いである友好交流や相互理解の促進も、これまで開催されてきた会議によって十分に図られたと考えられる。従って、第50回日韓技術士国際会議開催終了後は、親善友好交流の段階を卒業した『新たな交流の姿』を検討する段階への移行が必要である」という指摘を受けています。

Corona禍、昨年からの新しい取り組みとして、WEBを用いたOnline会議を両国の間で数回に亘って開催しました。会議の内容は、第50回日韓技術士国際会議の準備に関するものであったが、「日韓交流」史の中で初めて実施したものであり、「災いを転じて福となす」という成句ではないが、今後の「日韓交流」の有効な手段の一つになればと期待するところであります。

今後は、第50回会議の終了後に『新たな交流の姿』を確立すべく、この50年に亘る経験を踏まえ、Questionnaireにより提示された提案も交えながら、韓国技術士会との交流の具体的な姿の検討に着手していかなければなりません。

## 10.6.5 まとめ

本基調講演は、与えられた主題の下、「お互いの国の技術士制度、活動内容、将来の方向性を知れば、お互いをより理解し、より発展的な日韓交流につながるのではなかろうか」という想定を基、講演したものです。

(要約：運営委員会記録グループ長 梶谷 真 記)

## 10.7 基調講演(2) 韓国側

韓国側からの基調講演は金斗煥（キムドファン）氏からです。以下に講演の項目・概要を示します。詳細については論文集（翻訳版：参考用）を参照してください。

### 10.7.1 日韓交流会の時代区分と眺望

日韓交流会は、1971年に韓国技術士会招請に日本技術士会一行が韓国を訪問して、第1回日韓技術士交流会の開催をはじめとして今日に至っています。日韓技術士交流会の時代区分のために重要なイベントをきっかけにして、初期、成長期、成熟期に分けました。

草創期は、両国の首都で交互に開催した後、地方都市の開催（第22回新潟）に設定しました。

成長期は新潟地方都市開催を開始し以来から親善サッカー大会、女性技術士交流会（第37回ソウル大会）が開始しました。

#### (1) 韓国技術士会の胎動と日韓技術士交流会議発足

1960年代朴正熙大統領は、強力な祖国近代化のために、1次経済開発5年計画を樹立し、まず工業団地建設に着手しました。当時、韓国は科学技術力が不足し、経験がなくて、技術的、経済的妥当性の検討を先進国の技術公共機関に依頼しました。

#### (2) 日韓技術士交流会議草創期(討論式会議)

日韓交流会草創期は、1971年に第1回ソウル会議から地方都市で開催し始めた第22回新潟会議まで、同一の主題(Thema)が無くメンバーが自由になって座り討論式で行われました。

第9回交流会から過去の交流会議で討議された内容を共通ThemaにしてSymposium形式に変更することにしました。しかし、数年は、両国の技術状況をお互いに発表するとどまり、共通のテーマについて議論を行うことは難しく、1988年までに土日意識交流会が続きました。

#### (3) 日韓技術士交流会議成長期(Symposium 時期)

日韓交流会成長期は1992年第22回新潟地方都市開催を開始した後から女性技術士交流会（第37回ソウル大会）開始までに区分し、会議の形式がシンポジウムの形で運営した時期に当たる。交流会の成長期は、次の5つの特別Event(特徴)があり、そのあとシンポジウム参加者が増加して活性化される契機となりました。

#### (4) 日韓技術士交流会議成熟期(国際 Conference 時期)

日韓交流会の成熟期は、2007年第37回女性技術士交流会開始以後から今日に至る時期です。

#### (5) 韓日技術士交流会議歴代参加者現況

### 10.7.2 主題別足跡

#### (1) 基調発表の流れ

発表テーマの流れを見ると、草創期には、両国の伝統産業である繊維と食品産業構造、農業、工業を主題に扱っていました。

#### (2) 分科発表流れ

分科運営の流れを見ると、その中に4つの分科を運営してきて、第33回（2003年東草）で英語分科を新設し、5個分科で運営しています。

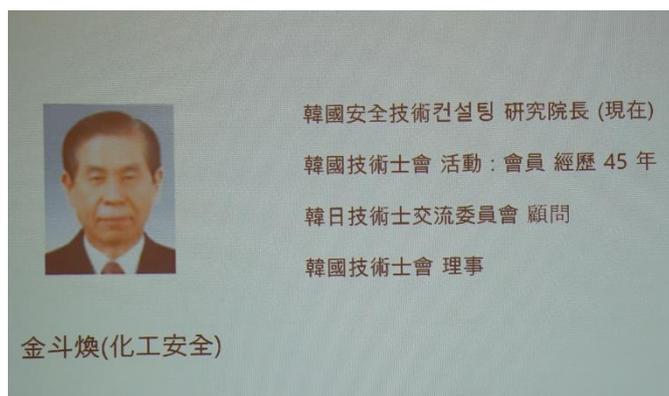


写真 10.7.1 基調講演の金斗煥氏

### (3) 日韓親善サッカー大会

日韓親善サッカー大会は、両国の青年技術士交流会で青年間の親善と交流を始めた。足跡を見ると、2004年（第34回）日本の米子大会の晩餐会では、韓国の技術士会青年技術士朴英煥と日本の交流会の野村一行が出会い、サッカー大会を発案しました。

### (4) 女性技術士交流会

両国の女性技術士の交流は、第27回（1997年）韓国牙山大会で日本の女性技術士が初めて参席してから雰囲気は熟しました。

### (5) 産業視察と観光

- ① 産業視察
- ② 現場学習

### (6) 晩餐と文化交流

## 10.7.3 日韓技術士交流会議改善と発展方向

### (1) 日韓技術士交流会議延期の歴史

日韓交流会の50年歴史の両国の事情で5回正常的に開催していない事例がありました。

### (2) 日韓技術士会共通点

### (3) 日韓技術士交流会議 Conference 活性化方案

### (4) 今後の未来発展方向

## 10.7.4 結論

今回 Sendai 会議は、日韓交流 50 年目で一線を画す記念碑的な大会あります。日韓交流 50 年の歴史と伝統は、私たちの最も重要な資産であります。草創期先輩技術士達の初心を大事にして、新しい半世紀の話を展開 (Story-telling) していくことを提案します。現在 COVID 19 により人間関係は疎遠なり、今までに経験していない多くの社会の変化が起きています。しかし、時代は変わっても学縁、地縁、血縁は変化せず、ここに加えて、私は士縁を付け加えたいと思います。

(要約：運営委員会記録グループ長 梶谷 真 記)

## 10.8 特別報告 1(復興映像)

### 10.8.1 当初の予定からビデオ作成まで

#### (1) 東日本大震災からの復興(災害とBCP、福島イノベーション・コースト構想のポスター展示

##### ① 2020 年 4 月 7 日 運営委員会

特別報告としてパネル 8 枚程度を常設展示 (8:30~15:00)、ポスターセッション (11:30~12:00) として逐次通訳 1 名、学生ボランティア 2 名を配置することとしました。

#### (2)ポスター展示からビデオ作成に変更

##### ① 2021 年 4 月 16 日 プレカンファレンス

特別報告として「(仮)東日本大震災から 10 年の東北の歩みと福島のこれから」として、放送局などに協力依頼し、15 分程度の韓国語の字幕付きビデオを作成することとなりました。

##### ② 今西運営委員長より作成の指示

2021 年 6 月 25 日に、今西運営委員長より、視察運営・レディースコース G がビデオ作成の依頼を受けました。

#### (3)パワーポイントファイルの作成

ビデオ作成のためパワーポイントのファイルを作成することとし、以下の手順で進めました。

- ① 2021/9/2 収集映像他の打合せ① 【リモート】
- ② 2021/9/28 収集映像他の打合せ② 【リモート】
- ③ 2021/10/8 スライド案の打合せ③ 【対面 (東北本部事務局)】
- ④ 2021/10/15 BGM 挿入した PPT を今西委員長他に送付 【メール】
- ⑤ 2021/10/15 東北の未来に関する資料を加えるよう今西委員長より指示を受ける 【メール】
- ⑥ 2021/10/18 東経連資料を追加した PPT を今西委員長他に送付 【メール】
- ⑦ 2021/10/19 韓国語翻訳付きの PPT を今西委員長他に送付 【メール】
- ⑧ 2021/10/19 福島県、宮城県より資料の使用承諾 【メール・電話】
- ⑨ 2021/10/20 復興庁、岩手県より資料の使用承諾 【メール・電話】
- ⑩ 2021/10/22 東経連より資料の使用承諾 【メール・電話】
- ⑪ 2021/10/26 BGM を挿入したビデオを今西委員長他に送信 【メール】
- ⑫ 2021/10/29 今西委員長の再編集 PPT を受領 【メール】
- ⑬ 2021/10/29 最終版ビデオを配信チームへ送信 【メール】

### 10.8.2 ビデオの内容

#### (1)ビデオの内容

ビデオは以下の 7 構成として、44 枚からなるスライドの文字と画像にアニメーションをつけてビデオを作成しました。

#### 表紙・タイトル 東日本大震災からの復興と福島県のこれから

##### ① 東日本大震災の発生

岩手県の被害状況、宮城県の被害状況 (石巻市、南三陸町、仙台空港) について、主に写真を掲載しました。

##### ② 日本技術士会の取り組み

東日本大震災から 1 年復興へ向けた技術士宣言の骨子を掲載しました。

##### ③ 復興まちづくり

高台移転と多重防御による復興まちづくりと、被災直後から復興に至る航空写真 (岩手県宮古市、宮城県南三陸町、福島県南相馬市) を掲載しました。

##### ④ 福島県の復興の状況

福島県下の放射線量の推移、除染の実施状況、農林水産物の回復、再生エネルギー拠点化、福島県イノベーション・コースト構想を掲載しました。

⑤ 士業連携のうごき

阪神淡路大震災からの士業連携から全国連絡会までのうごき、被災者支援のための活動、災害対策基本法における被災者支援の仕組みの策定などを掲載しました。

⑥ 技術士の役割

東日本大震災復興 10 年事業の紹介とともに、産学官のプラットフォームのもと、防災の主流化に取り組む技術士の役割について掲載しました。

⑦ 東北地方のこれから

各県の主要なプロジェクトを紹介しました。

【宮城県】次世代放射光施設 空路を活用した地域産品の輸出

【岩手県】リニアイコライダー

【福島県】航空機エンジン製造

【山形県】有機 EL 照明

【青森県】八戸市館鼻岸壁朝市

【秋田県】秋田竿灯まつり

【新潟県】酒造の仕込み

エンドロール

以下の資料使用について出典元を掲載しました。

- ・いわて復興のあゆみ 2011. 3-2021. 3 東日本大震災津波からの復興の記録
- ・東日本大震災アーカイブ宮城 ～未来へ伝える記憶と記録～
- ・日本技術士会 HP 東日本大震災から 1 年 復興へ向けた技術士宣言
- ・東日本大震災復興 10 年事業 宮城県副知事 遠藤信哉氏の基調公演資料 (2021. 7. 16)
- ・空から見る復興の状況について (復興庁)
- ・福島県ホームページ「復興・再生のあゆみ (第 5 版)」  
「ふくしま復興のあゆみ (第 30.1 版)」
- ・災害復興まちづくり支援機構 HP
- ・東北弁護士会 被災者支援のために「災害ケースマネジメント」の制度化に向けた法改正等を求める決議 (東北弁護士会 HP 2019. 7. 12)
- ・東経連新ビジョン 2030 わきたつ東北 -結び、はぐくみ、未来をひらく (東北経済連合会)

(2) 会場での上映の様子

会場で上映されたビデオの様子です。



写真.10.8.1 会場での上映の様子

(復興映像制作グループ長 齋藤 明 記)  
副グループ長 叶内 榮治

10.9 特別報告 2 (日韓交流 50 年)

特別報告 2 として、日本と韓国の技術士会交流の半世紀にわたる歩みが紹介されました。日韓技術士会議の始まりから、覚書、開催地の紹介、また、半世紀にわたる交流の記録として写真を交えた歴史が放映されました。

【動画の内容】

表紙・タイトル:『日韓技術士交流半世紀の歩み』

(制作:日韓技術士交流委員会)

① 日韓技術士会議のはじまり

日韓技術士会議の始まりについて紹介動画です。

② 日韓技術士の覚書

日本技術士会と韓国技術士会おとの間で取り交わされている「覚書」の内容について紹介されました。

③ 日韓技術士会の開催地

年ごと開催地を地図上に次々とプロットされた図により、紹介されました。

④ 日韓技術士会議の経緯

第 1 回～第 50 回までの開催ごとの会議の内容および写真が映し出されました。2005 年に「第 1 回日韓青年技術士サッカー大会」の開催、2007 年から「日韓女性競争力強化シンポジウム」の開催など、半世紀の歴史がわかりやすくまとめられて紹介されました。

- ・黎明期 第 1 回 (1971) ～第 10 回 (1980)
- ・創世期 第 11 回 (1981) ～第 20 回 (1990)
- ・成長期 第 21 回 (1991) ～第 40 回 (2010)
- ・円熟期 第 41 回 (2011) ～第 50 回 (2021)

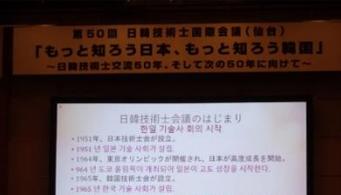
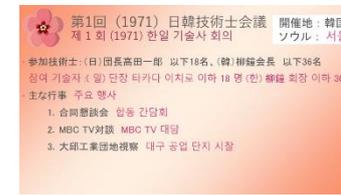
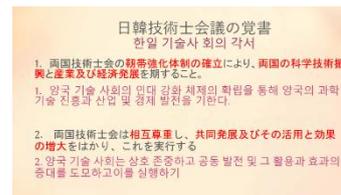
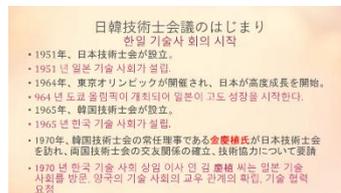
⑤ 交流の記録

歴代の日韓の技術士交流委員の顔写真と役職、本会議、晩さん会、産業視察などでの笑顔で交流している状況が写真で紹介されました。

会場での上映の様子



写真.10.9.1 日韓交流 50 年映像報告(会場の様子)



(事務局長 滝上 忠彦 記)

## 10.10 分科会

分科会は予定通り 12:30 から開始されました。そのタイムテーブル、座長、発表者は以下の通りです。発表は同時通訳され配信されました。日本側座長は 4 名、韓国側の共同座長は 4 名で、それぞれが自国の発表の紹介、進行、質問をコントロールしました。発表方法はコロナ対策、時間管理の関係で 2 分科会毎登壇し、まとめて 4 分科会を直列で同じ会場で聞くことになりました。だれも日韓で異なった分野も聞くことができ、大変良かったと思います。会場の大型スクリーンには映像が映し出され、会場参加者や Web 参加者も良く見られたと思います。韓国側はその都度自己紹介をされ、PR が凄いなと感じました。日本側の Web 参加者は 130 名でした（写真 1.）。

第 1 分科会の基盤分野では宅造の災害対策、鋼橋の老朽化対策、海上橋梁の道路管理、ソウル市の緑化対策、第 2 分科会の Energy ではカーボンニュートラル対策、海の生物相、水循環システム、エネルギー戦略、第 3 分科会の技術監理では技術士の災害時の共同活動、リカレント教育、病院の安全対策、熟練技術の伝承、第 4 分科会の先端分野では新セキュリティシステム、EV、DX、治安の情報化について、それぞれ日韓で交互に発表され質問に答えて発表を終了しました(表 1.)。

日韓の切り替えも大変スムーズであり Web 配信チームの周かな準備に感謝申し上げたい。日本側の時間管理は金委員長が発案で、紙に書かれた 2 分前、1 分前、終了を提示しました。心配していた韓国側の時間管理も金委員長や Web チームの綿密な調整で、質問を絞るなど協力して頂いて進行されました。質問に関しては事前質問を募集し、たくさん出されていたので、登壇者には時間の関係で 1~2 の質問に対して事前に答えを準備して頂きスムーズに答えて頂きました。後半の第 3、第 4 分科会では時間管理から、韓国側の要請で質問は両国とも 1 問としました。会場やチャットの質問に対しては、冒頭で事前質問を優先するという説明を行った関係でスムーズでありました。途中にあるコーヒープレイクの時間をうまく調整に使い、ほぼ時間通りに第 4 分科会まで終了ができました。関係者全員に感謝申し上げます（写真 2 写真 3）。



写真 10.10.1 第一分科会金座長、第二分科会小田切座長及び発表者

表 10.10.1 一般発表タイムテーブル

第50回日韓技術士国際会議(仙台) 一般発表タイムテーブル(案) (2021/10/10)

タイムテーブル(分科会)

第 1 分科会【12:30~13:30】	発表者	日本	韓国	時間	時刻	備考
座長 金仁周 共同座長 朴泰熙(박태희)	1) 佐藤真吾(東北)	○		0:15	12:30 ~ 12:45	
	2) 深井将光(東北)	○		0:15	12:45 ~ 13:00	
	3) 金永國(김영국)		釜山	0:15	13:00 ~ 13:15	
	4) 趙銀京(조은경)		○	0:15	13:15 ~ 13:30	
第 2 分科会【13:30~14:30】	発表者	日本	韓国	時間	時刻	備考
座長 小田切明宏 共同座長 沈範輔(심범보)	1) 室中善博	○		0:15	13:30 ~ 13:45	前_日韓技術士交流委員長
	2) 佐藤高広(東北)	○		0:15	13:45 ~ 14:00	
	3) 洪淳明(홍순명)		○	0:15	14:00 ~ 14:15	
	4) 朴浩慶(박호경)		○	0:15	14:15 ~ 14:30	
◆コーヒーブレイク【14:30~14:50】						
第 3 分科会【14:50~15:50】	発表者	日本	韓国	時間	時刻	備考
座長 須賀幸一 共同座長 尹錫龍(윤석용)	1) 山下祐一(中国)	○		0:15	14:50 ~ 15:05	
	2) 今西 肇(東北)	○		0:15	15:05 ~ 15:20	
	3) 辛琇慶(신수경)		釜山	0:15	15:20 ~ 15:35	
	4) 全炫柱(전현주)		○	0:15	15:35 ~ 15:50	
第 4 分科会【15:50~16:50】	発表者	日本	韓国	時間	時刻	備考
座長 末岡真純 共同座長 金永川(김영천)	1) 廣瀬由紀	○		0:15	15:50 ~ 16:05	日韓技術士交流副委員長
	2) 佐々木宏	○		0:15	16:05 ~ 16:20	海外活動支援委員長
	3) 李承桓(이승환)		○	0:15	16:20 ~ 16:35	
	4) 羅徳根(나덕근)		○	0:15	16:35 ~ 16:50	



写真 10.10.2 第三分科会 韓国全氏発表



写真 10.10.3 第四分科会末岡座長(東北)、第三分科会須賀座長及び発表者

(第 4 分科会座長 末岡 真純 記)

## 10.11 大会のまとめ

(挨拶)

本日の日韓技術士国際会議（仙台）は、日韓技術士会議 50 年の記念すべき会議となりました。

テーマは、「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」～日韓技術士交流 50 年、そして次の 50 年に向けてです。

コロナ禍による 1 年の延期を経て、初の WEB 会議での開催となりました。仙台とソウルに関係者が集まり、2 地点を結ぶハイブリッド方式での開催です。

現地参加と WEB 参加者を含む参加者数は、ほぼ日本側が 170 名、韓国側が 130 名、合計 300 名の参加を得ることができました。この人数は、最近の相互訪問による参加者に匹敵するものです。

コロナ禍において対面で交流することができなくても、記念すべき第 50 回会議に参加し、今までの 50 年を振り返り、次への絆をつないでいただいた皆様に感謝申し上げます。

(両国会長の挨拶について)

さて、開会にあたり、寺井会長からは「第 1 回日韓技術士会議の覚書に謳われている「科学技術振興と国民福祉をはかり、もって社会発展に寄与することを共通の目的とする」の精神は、今日においてもまったく色褪せていません。本日の会議では、両国の技術士が、持続可能社会のデザイナーとして、技術を持って貢献していくことを再度確認したい」とのお言葉をいただきました。

また、朱（Ju）会長からは、孔子の言葉を引いて、「温故知新という言葉があります。「昔のことを研究して、新しいことを知る」という意味です。現代に生きる私たちは、新しい知識と発明を絶えず生産していますが、これらは前にあった人々の知識と経験を元に、その延長線上で発展させてきたと思います。「今後も韓・日技術士交流会議がさらに発展し、50 年を超えて一世紀を続けることができるように願います」とのお言葉をいただきました。

両会長からは、50 回を迎える日韓技術士会議の核となる視点をご指摘いただきました。

(基調講演について)

基調講演は、今回の 50 年記念会議にふさわしい両国の技術士会及び技術士交流に関わる講演をいただきました。

韓国の金斗煥（Kim）氏と李康建（Lee）氏による「過去半世紀を回顧して、新しい半世紀を迎えよう」と、日本の室中善博氏による「日本技術士会 70 年の歩みと日韓交流」です。

韓国側からは、日韓技術士会議の 50 年の歴史を紐解いて、創成期から成長期、そして成熟期に至る過程と活動内容を詳細に紹介していただきました。また、新たな日韓交流について、科学技術と文化交流の原則、伝統継承の原則、相互互助と譲歩の原則、政経分離の原則などの提案をいただきました。

日本側からは、日本技術士会の創立からその変遷、活動内容について紹介するとともに、日韓技術士交流の経緯と今後目指すべき方向性について紹介がなされました。第 50 回日韓技術士国際会議を一つの節目として、今後の新たな交流の姿として、国際活動推進にあたって公益性、技術士制度の維持発展及び国益確保、国際的通用性の拡大や会員の海外活動の効果的な情報提供や支援を念頭に「新たな交流」に取り組むことが示されました。

大会テーマの副題である「日韓技術士交流 50 年、そして次の 50 年に向けて」にふさわしい講演でした。今後、両国がそれぞれの提案を持ち帰り、新しい日韓技術士交流の姿について議論を深める礎となりました。



写真 10.11.1 大会のまとめ  
日韓技術士交流委員会  
委員長 須賀 幸一氏

(一般講演について)

更に一般講演では、4つのテーマに分かれ、それぞれ日本から2編、韓国から2編ずつ口頭発表がなされました。いずれも現在の日本及び韓国を取り巻く技術的課題であり、限られた時間の中で活発な議論がなされました。オンラインによる両国からの発表は、今後の新しい、開かれた日韓会議の姿を予感させるものでした。

(まとめ)

コロナ禍において1年間延期された第50回日韓技術士国際会議(仙台)は、ハイブリッド方式のWEB会議にも関わらず、多くの参加者を得ることができました。そして日韓交流50年の歴史を再認識するとともに、新しい時代に沿った交流の姿を模索する出発点とすることができました。

・「温故知新」の言葉を胸に、先輩諸氏の志を引き継ぎ、持続可能な社会のデザイナーとして、新しい時代を築いていくことを確認いたしました。

・最後に本会議の準備にご尽力いただきました東北本部のみなさまに感謝申し上げます。簡単ではございますが、本会議のまとめとさせていただきます。

(日韓技術士交流委員会 委員長 須賀 幸一)

## 10.12 大会宣言

東アジアの技術は、世界の経済と社会の発展の一翼を担っています。

これまででも、これからも。両国の技術は世界の持続可能な発展のために不可欠です。

その技術を用いて、SDGs 実現に向けて貢献し続けなくてはなりません。

日本と韓国は良き隣人であり、良きパートナーです。

高い倫理観を基に、技術とともに前進することが求められています。

技術は、人類の繁栄とともに発展してきました。

地球では。人間の行為により、自然を含むすべてのものが大きく変わろうとしています。

地球の変化は、人間がコントロールできる範囲を超えつつあります。

これを解決できるのも、技術であると信じています。

日本と韓国の技術士会は、パートナーとして両国の優れた技術により、これからも世界の平和と幸福のために行動することを、ここに宣言いたします。

(日本技術士会 東北本部 本部長 熊谷 和夫)



写真 10.12.1 大会宣言  
東北本部長 熊谷 和夫氏



### 11.3 次回開催地プレゼンテーション(映像等)

次回開催地の韓国の麗水紹介では、2本の紹介ビデオ(韓国語 version、英語 version)の動画が放映されました。また、スクリーンを通じ、韓国会場から横断幕を使って次回開催地の紹介がありました。



写真 11.3.1 紹介ビデオ(韓国語)



写真 11.3.2 紹介ビデオ(英語)



写真 11.3.3 紹介の様子(会場スクリーン)



写真 11.3.4 紹介の様子(ソウル会場)  
(事務局長 滝上 忠彦 記)

### 11.4 プロトコール(国際儀礼)

今回の会議におけるプロトコールの基本概念として、相手国に敬意を表し相互の協力関係を深めることを基本に実施した。また、日韓技術士国際会議において初となる、現地とWEBのハイブリット型の会議であったため、WEB会議参加者にも臨場感が伝わるよう配慮した。

具体的には、会場において国旗の同時掲揚や看板・インフォメーション、室内の明るさ、スクリーンの大きさや音響など、伝達すべき事項が正確に伝えることができる環境に配慮し、会議の報告において使用した日本側のスライドは、両国で内容が把握できるように両国言語に

よるものとし、併せて、会場においては、同時通訳を行うなど目と耳で内容を把握できるように配慮した。

来賓控え室においては、両国の卓上来旗を備えるとともに、来賓の胸花は国際行事に習い赤に設定し、日本技術士会会長を初めとする大会役員が宮城県知事、仙台市長、在仙台大韓民国総領事をお迎えし、早朝からのご来場に感謝の意を表した。

(東北本部理事 佐久間章夫 記)



写真 11.4.1 来賓控え室

### 11.5 旅行代理店の活用

2018 年 12 月の日韓会議の準備を行い始めた頃から、旅行代理店の活用を検討しました。基本的には申込者の受付、宿泊者の手配、研修視察などの旅行手配をお願いすることを予定しておりました。しかし、COVID-19 感染拡大防止の観点からオンライン開催が必須となってきたことに伴い、運営委員会メンバーでは、配信について対応しきれない部分が考えられたため、専門業者に委託することになりました。契約の煩雑さ等を避けるため、配信にかかる費用および会場費用を含みで旅行代理店に委託することとしました。

オンライン配信は、同時通訳の音声言語を選べる機能がある ZOOM ウェビナーを使用することになりました。ZOOM は東北本部では利用していないため、使用するライセンスも含みで委託することとしました。ZOOM 操作、配信するための機材、カメラ操作もすべて専門業者に委託しました。本番では韓国側からの音声が届かない等、トラブルが発生しましたが迅速に対応していただき、また配信画像がきれいで、音声も聞きやすかったと感じました。費用は掛かりましたが、専門業者に委託したことが成功の要因の一つと考えます。

#### <旅行代理店への委託概要>

- ・特設ホームページの作成（参加者申し込みのホームページ）
- ・参加者の受付（宿泊先手配、名簿整理、会場参加者の名札作成、会場受付補助等）
- ・会場手配（会場費、会場設備費、コロナ対策機器含む）
- ・オンライン配信手配（配信機器および設置、配信用 ZOOM ウェビナー、配信スタッフ等）

（運営委員会事務局 齋藤 浩 記）

## 12. 研修・視察

### 12.1 国際親善サッカー大会(中止)について

第 50 回日韓技術士国際会議はコロナ禍での開催となり、検疫の面から韓国からの一般参加者の入国が難しい状況となったため、国際親善サッカー大会が中止となりました。  
本項では、大会中止が決定される以前の取組み状況を報告致します。

#### 12.1.1 会場準備・手配

国際親善サッカー大会の会場仕様として、芝生のオフィシャルグラウンド、ロッカールーム、シャワールーム等の装備が整っていることが条件となっている。  
会場仕様の条件を満足する会場として、「仙台市泉サッカー場」を選定した。



写真 12.1.1 グラウンド状況 1



写真 12.1.2 グラウンド状況 2



写真 12.1.3 クラブハウス



写真 11.1.4 ロッカールーム

## 12.1.2 対応事項リスト

日韓技術士交流委員会より、運営側の地域本部に対して「対応事項リスト」が提示されました。会場準備・手配は、対応事項リストを基に準備を行ってまいりました。

## ■地域本部殿の対応事項リスト

No.	事項	数量	適用
1	レフリーの手配	3名	正規審判を3名
2	通訳の手配	1名	
3	試合用ボール	2個	JFAorFIFA検定球5号。最低2個。キレイなもの
4	練習用ボール	6個	日・韓に3個ずつ
5	GK用グローブ	2個	PKセレモニーにて日・韓に1組ずつ
6	トロフィ購入	3個	優勝杯1個、MVP賞2個(日・韓各1個)
7	飲み物、お菓子	適量	水、ジュース、紙コップ。
8	会場の手配		13:30～17:00(3時間30分以上) ■スケジュール案等参照
-1	更衣室	2室	日・韓に1室ずつ
-2	シャワー	-	各室の数量。温水の有無
-3	ロッカー	-	鍵付きセーフティBOXの有無。個数。
-4	救護室		施設内に有無の確認。
-5	救護要員		施設内に有無の確認。
-6	治療薬	適量	応急手当程度の配備を希望。
9	会場設営		
-1	スコアボード	1台	簡易なもので可。
-2	開会式用マイク	2本	2本程度。話し手1本、通訳1本。
-3	マイクスタンド	2台	なくても可。施設にあれば借りていた。
-4	朝礼台	1台	なくても可。施設にあれば借りていた。
10	会場世話役		
-1	実績10～15名(球拾い含む)		
11	その他		
-1	会場案内(アクセス)作成		
-2	災害時に体制表※1		急患が出た場合の対応。病院チェックなど。
12	交流会※2		
-1	1次会会場手配と実施		神戸では前夜祭として実施。
-2	2次会(カラオケ)会場手配と実施		神戸では当日参加者から会費を徴収。

※1：ケガ人が出たときに近隣の医療機関と診察時間を事前チェックしておく。

主催者は、情報提供や支援のみ行い、通院に係る費用は当事者の負担とする。

(負担については日韓委員会から参加者へ通知し承諾を得ておく)

※2：神戸大会では1次会は一般参加者と一緒に前夜祭として実施(会費事前徴収)。

2次会は近畿本部サッカー担当者が会場手配し会費を当日参加者から徴収。徴収時に韓国側からクレームあり(事前徴収がbetter)。仙台での実施方法は東北本部担当者と協議し決定したい。

## 12.2 日韓技術士・学生座談会

本会議のイベントとして、10月30日（土）15:45～17:00仙台ビジネスホテルにて開催。この座談会は、「ダイバーシティと技術者教育」をテーマに、主に仙台市内の大学に在籍する学生及び教職員の皆様と、日韓の技術士が自由に討論する機会を提供すべく企画致しました。学生を交えての座談会は日韓技術士会の長い交流の中でも初の開催となりました。直前の多忙な中、韓国技術士会側から討議テーマに対する回答を書面で対応頂き、深く感謝しております。新型コロナウイルス禍の中、本会議とは別にイベント会場のホテルを確保し、感染防止対策やセキュリティに十分配慮しつつ運営致しました。座談会参加者は27名、内対面参加は23名・オンライン参加は4名、内技術士10名・学生10名・教職員7名となっています。Web視聴者は約70名の登録がありました。まさにラウンドテーブルトーク座談会は自由な雰囲気意見交換することができました。

### 12.2.1 はじめに

#### (1) 主催者挨拶

今回の日韓技術士国際会議（仙台）大会会長である熊谷和夫東北本部長から「第 49 回高陽大会時、韓国側から仙台には留学生や教官が多いと聞き、今回、座談会形式で交流を行うことが念願であった」と挨拶がありました。



写真12.2.1 座談全景（熊谷大会会長挨拶）

#### (2) 出席者紹介

テーブル着席順に所属・専攻学科・専門分野・興味など各々1分間自己紹介（敬称省略）

【東北大学】李忠日 LEE Chungil（留学生）、権聖賢 KWON Sunghyun（留学生）、風間基樹（教授）、大塚智貴（学生）、伊林拓郎（学生）、劉庭秀 YU Jeongsoo（教授）、大窪和明（准教授）、小山内詩織（学生）  
 【東北工業大学】権永哲 KWON Youngcheul（准教授）、吉原太智（学生）、小野寺春斗（学生）、片平憲伸（学生）  
 【東北学院大学】李相勲 LEE Sanghun（教授）、山口晶（教授）、遠藤孝夫（名誉教授）、青木優真（学生）、佐藤将大（学生）  
 【技術士】高橋祐介（宮城県庁）  
 【技術士会】今西肇（運営委員長）、田島暎久（交流委員）、金仁周 KIM Injoo（交流委員）、佐久間章夫（東北）、滝上忠彦（東北）、佐々木源（東北）、菅原晃（東北）、齋藤浩（東北）、高橋秀輔（東北）  
 合計27名出席。韓国籍6名 日本国籍21名。技術士は建設・上下水道・電気電子・航空宇宙・生命工学を専門。学生・教職員は土木工学・航空宇宙・環境・国際文化等を専攻。各々紹介して頂きました。

#### (3) 進め方

「座談会は、事前にお寄せ頂いた質問や関心事項に沿って進行。まず、質問等の内容を提案者から説明を頂き、次に出席者の中から指名し回答頂き、順次 再質問・回答・提案等 討論を進める。」旨を座長から説明致しました。

12.2.2 座談会の概要

参加者 対面21名 , on-line Web参加 4名(大窪・小山内・青木・佐藤), + Web Op2名 + 通訳1名

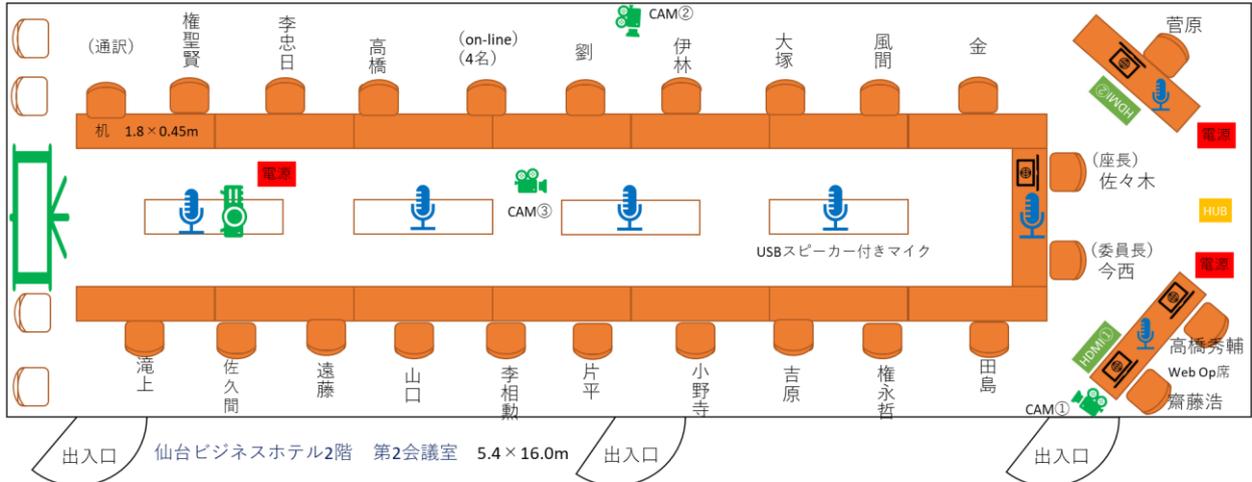


図 1. 出席者 座席配置

15:45 から Web 配信がスタート。田島交流委員から開会の挨拶の後、座談会参加者 27 名を紹介。座談会が始まりました。座長 佐々木グループ長の進行のもと、大項 6 点について討議が行われました。以下にその概要を紹介致します。

(1) キャリア形成

高橋祐輔さん（宮城県庁）から「日本と韓国の中で、技術者としてのキャリア形成についてどのような違いがあるか。技術者としてのキャリア形成に関して学生側の要望と大学教職員の捉え方は。技術士の体験はどうか」との質問があり、権永哲さん（東北工業大准教授）からキャリアの形成には日韓の基本的な差異はないことや JABEE 制度の活用などの説明。滝上忠彦さん（東北本部）からは企業側が育成に責任を持つ態勢ありとの回答がありました。

(2) 日本と韓国との技術的な繋がり

佐藤将大さん（東北学院大学生）から「日本と韓国は技術面で以前からどのような関わりがあるか」との質問があり、金仁周さん（交流委員）は嘗ての日本の技術導入の時代から、現在では部分的には韓国が先行する状況、個人レベルの技術的交流が主であるとの回答。田島委員からは国レベルの交流が困難な状況とのコメントがありました。



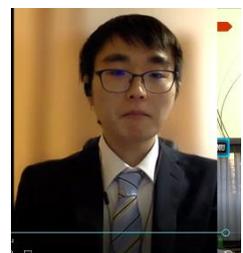
高橋祐介さん  
(宮城県庁)



権永哲さん  
(東北工大 准教授)



滝上忠彦さん  
(東北本部)



佐藤将大さん  
(東北学院大 学生)



金仁周さん  
(日韓技術士交流委員)

(3) 日韓の協力、仕事の違い、共通部分

山口晶さん（東北学院大教授）から「日韓で協力していける分野。仕事の進め方の違い、技術者の意識の違い、共通部分はどうか」等の質問があり、金仁周さんから韓国技術士会のコメント紹介。今西委員長から韓国のデジションメーカーの速さの指摘。劉庭秀さん（東北大教授）からは日本の意思決定の確実さ（慎重さ）の感想がありました。

**(4) 技術士日韓相互認定の実情、留学生の就職**

李相勲さん（東北学院大教授）から「技術士の日韓相互認定の実情。留学先における大学卒業後の就職の実績。各分野、例えば建設分野における技術者共有の実態はどうか」との質問があり、風間基樹さん（東北大教授）から嘗ての留学生在が日本の大学で教鞭を執っていることも相互交流とのコメント。金仁周さんからは APEC エンジニアを両国技術士会ともに相互認定。氏の勤務先では技術・資格を重視し韓国技術者も採用しているとの説明。佐久間章夫さん（東北本部）からは会社自体がグローバル化に直面し、日韓に限らず技術者の資格要件が重要となっているとのコメントがありました。



山口晶さん  
(東北学院大学 教授)



李相勲さん  
(東北学院大学 教授)



風間基樹さん  
(東北大学 教授)



佐久間章夫さん  
(技術士会東北本部)

**(5) 異分野の専門技術者との交流**

李忠日（東北大留学生）から自身の航空宇宙研究を交えて「異分野の専門家との交流はどうなっているか」この座談会で話し合いたいとの趣旨説明。遠藤孝夫さん（東北学院大名誉教授）からは電中研在籍時のアメリカ留学先での材料や流体の研究、他の分野との交流の話。高橋裕介さんからは生物工学での計測技術等の理解。田島瑛久さんからは航空分野でのチームワークの話。風間基樹さんからはオープンデータの重要性のコメントがありました。

**(6) 技術者教育、ダイバーシティ・SDGs 等の取組み**

小山内詩織さん（東北大学生）から「技術者教育がどのように行われているのか。ダイバーシティと関連して韓国の SDGs 関連の取り組みは」との質問がありました。権英哲さんからは JABEE 日本技術者教育認定機構のプログラム教育を進めるとともに技術者倫理教育に力を入れていること。伊林拓郎さん（東北大学生）は学部の 2・3 年生で工学倫理を履修。劉庭秀さん（東北大教授）は、大学の国際文化研究科で SDGs の入門教育を実施しており、多様性と持続可能な社会の形成は、東北の消滅都市の問題と同様に、日本 JAICA・韓国 KOICA の国際協力と関連する留学生教育は重要、これは技術者教育でも同じ課題と強調なさっていました。



李忠日さん  
(東北大学 留学生)



遠藤孝夫さん  
(東北学院大学 名誉教授)



小山内詩織さん  
(東北大学 学生)



劉庭秀さん  
(東北大学 教授)

### 12.2.3 座談会の総括

今西肇運営委員長から今回の座談会を総括して頂きました。

概要を以下に取りまとめて記述します。



写真 12.2.1 今西肇運営委員長 田島暎久日韓技術士交流委員

#### ・互いのことをよく知ること

第 50 回日韓技術士国際会議のテーマは「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」です。もう一度原点に立ち戻り、お互いのことをよく知ることが重要であるとのテーマは表現しています。

日韓の技術士・学生座談会のテーマは「ダイバーシティと技術者教育」です。先ほど来、皆さんとの対話にあるように多様性社会が到来しています。両国は持っている背景がいろいろ違います。それを互いに知ること第一歩だと考えます。日本の学生さんには韓国に、韓国の学生さんには日本にどんどん来ていただきたいとおもいます。できれば相手国の企業でインターンシップもしていただきたい。両国の企業には受け入れていただきたいと考えております。そしてお互いの違いを知り調和していただきたいと思います。

#### ・技術士資格

私が韓国で働いていました時、韓国の企業内技術者として働いていましたので、自分自身のもつ技術士（APEC エンジニア）資格を公式に利用することはありませんでした。しかし、技術士であるということは、企業内外にかかわらず技術力を証明するものとして有効に活用できました。海外ではキャリアを大事にする文化が根付いています。それを証明する一つが技術士資格です。

#### ・教育

情報化社会の中で教育はとても重要です。技術者倫理も教育で教えなければならない時代になりました。技術者教育は学生時代だけでなく社会人になってからも重要です。欧米に比べ日本のリカレント教育に割いている時間と費用は非常に少ない現状もあります。これからは、海外の教育機関や企業などでの研修なども一般化するでしょう。学生時代から違った文化にたくさん触れていただきたいと思います。

#### ・これから

持続可能な社会を構築するために、技術者は高い倫理観をもってグローバルに活動しなければなりません。両国の技術者には、お互いの強みを生かしながら協調して世界の課題解決に貢献していただきたいと考えております。日韓の技術士・学生座談会が、その一歩になれば幸いです。

（日韓の技術士・学生座談会グループ長 佐々木 源 記）

### 12.3 女性技術士交流会

本会議のプレイベントの一つとして、第 14 回女性技術士交流会を令和 3 年 10 月 30 日（土）14:00～15:30 に開催しました。2020 年度は COVID-19 の世界的な蔓延により開催しなかったため 2 年ぶりの開催です。COVID-19 感染予防対策のため zoom による WEB 開催としました。日韓技術士国際会議交流委員会、NPO 法人女性技術士の会及び韓国技術士会女性委員会の共催で、大会テーマは本会議テーマと同じ「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」です。参加者は、日本から 20 名、韓国から 12 名でした。また、オブザーバとして日本から男性 21 名超（1 接続で複数人）の参加がありました。

#### 12.3.1 開会挨拶

ホストである日本の廣瀬由紀・女性技術士交流会実行委員長より、15 年の歴史の中で昨年は初めて開催見送りとなり 2 年ぶりに再会できることの喜びと、今年は WEB 開催となりましたがそのおかげで多くの男性技術士にもオブザーバ参加していただけることへのお礼が述べられました。

司会は丸尾知佳子・女性交流会運営グループ副グループ長が務めました。

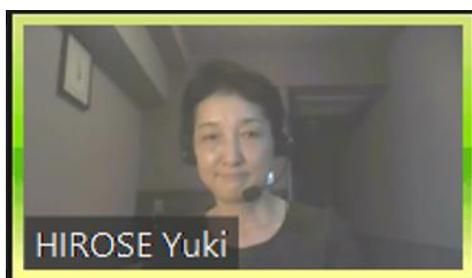


写真 12.3.1 開会挨拶(廣瀬実行委員長)



写真 12.3.2 司会(丸尾運営副委員長)

#### 12.3.2 活動報告

日本からは宮地奈保子・NPO 法人女性技術士の会理事長より、まず、女性技術士の会の紹介がありました。本交流会が始まった 2007 年には、まだ技術士会の中に女性の集まりがなかったため、女性技術士の会が主催者となって今日に至ることの経緯や、活動の目的や概要についての説明がありました。続いて、2020 年度及び 2021 年度の活動として、「世界の課題と女性技術者」をテーマにしたシンポジウムの開催、ICWES への参加と 2021 ベストワークショップ賞の受賞、漢方講座や茶話会などのオンラインイベントなどについての報告がありました。

韓国からは奇裕景（キ・ユギョン）・韓国技術士会女性委員会委員長より、「技術愛プロジェクト」として、脆弱施設の安全診断と環境改善、次世代を担う若者の指導支援、宣伝活動としての電子書籍の発行などについての報告がありました。



写真 12.3.3 活動報告(宮地理事長)



写真 12.3.4 活動報告(奇委員長)

12.3.3 論文発表

日本からは石川弘子・女性交流会運営グループ長より「東日本大震災から 10 年を経た仙台からの報告～防災や復興に果たす女性の役割～」と題して、震災後 10 年の復興の歩みと、災害時における女性の役割の重要性及び伝承と防災意識の重要性についての発表がありました。

韓国からは申浩傳（シン・ホジョン）・韓国技術士会女性委員会副委員長より「韓日女性技術士の友情と時間」と題して、2007 年から現在までの日韓女性交流会の活動の紹介と、それらを通じて共有してきたスキルや分かち合ってきた友情についての発表がありました。質疑応答も活発におこなわれました。最後は参加者全員の集合写真を撮って盛会裡に閉会しました。



写真 12.3.5 論文発表(石川グループ長)



写真 12.3.6 論文発表(申副委員長)

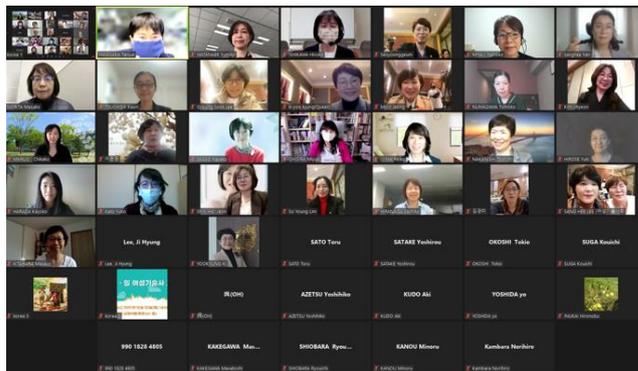


写真 12.3.8 会議をサポートした運営委員  
(画面管理:早坂辰江・運営 G 担当,  
時間管理:渡辺由美子・運営 G 担当)

12.3.4 意見交換会(非公式行事)

参加者の親睦を図るため、同日 18:00 より WEB による意見交換会をおこないました。参加者は 31 名（日本 15 名、韓国 15 名、通訳 1 名）でした。本行事は女性限定としました。中西利美・元日韓技術士交流委員会委員の乾杯で始まり、沼澤朋子・実行委員の司会のもと、各自の自己紹介や近況報告等で盛り上がり、来年は麗水でお会いしましょうという約束をして和やかに終了しました。

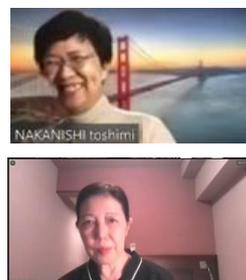


写真 12.3.9 意見交換会の様子(左上:中西・元日韓委員, 左下:沼澤実行委員)

(女性技術士交流会運営グループ長 石川 弘子 記)

## 12.4 研修視察(中止)

## (1) 2020 年 4 月 7 日 運営委員会

運営委員会において、以下の中から 1 コースのみ選定・設定することとして企画されました。

- ① 柴田町リコーインダストリー工場 名取市サッポロビール工場 名取市閑上復興視察
- ② 気仙沼大島大橋 三陸道気仙沼大橋建設現場 気仙沼震災復興伝承館

## (2) 2021 年 3 月 24 日 運営委員会

運営委員会において、以下の中から 1 コースのみ選定・設定することとして企画が変更されました。

- ① 東日本大震災復興視察（三陸地域の震災復興・伝承館などの視察）
- ② 東日本大震災復興視察（福島地域の震災復興・復興の現状視察）

## (3) 2021 年 5 月 27 日 運営委員会

運営委員会において、以下のコースを選定・設定することとして企画が変更されました。

- ① 東日本大震災からの復興の 10 年の状況（福島地域の震災復興・復興の現状視察）

## (4) 2021 年 6 月 24 日 運営委員会

研修視察は、行先を福島県（東日本大震災・原子力災害伝承館、東京電力廃炉資料館など）として、以下の予定で企画を進めました。

- ① バスの予約 9 月 10 日（金）までに完了
- ② 視察パンフレットの作成 10 月 8 日（金）までに完成
- ③ 乗車人名簿の作成 9 月 10 日（金）までに完了
- ④ 視察先の見学施設の予約 9 月 24 日（金）までに完了

## (5) 2021 年 7 月 28 日 運営委員会

7 月 28 日（木）に行われた第 8 回日韓運営委員会において、日韓の技術士・学生夕食会、親善懇親会、研修視察は、コロナ感染症の影響を受け中止となりました。

## 12.5 レディースコース(中止)

## (1) 2020 年 2 月 14 日 政策事業委員会

制作事業委員会において、以下の中から 1 コースのみ選定・設定することとして企画されました。

- ① 岩手一関・平泉（平泉毛越寺、中尊寺、奥州正法寺）
- ② 仙台東部（るーぷる仙台、キリンビール仙台工場（キリンビアポート））
- ③ 仙台西部（ニッカウキスキー宮城峡蒸留所、作並温泉（日帰り温泉）、定義山）
- ④ 宮城蔵王・七ヶ宿（蔵王、七ヶ宿、遠刈田温泉、そば街道）
- ⑤ 松島・塩竈・多賀城（瑞巖寺、円通院、松島湾めぐり、多賀城歴史博物館）

## (2) 2020 年 4 月 7 日 運営委員会

運営委員会において、以下の中から 1 コースのみ選定・設定することとして企画されました。

- ① 松島・塩竈・多賀城（瑞巖寺 円通院 松島島めぐり 多賀城歴史博物館）
- ② 仙台市内観光（瑞鳳殿 仙台城址 宮城県美術館 メディアテーク ケヤキ並木の定禅寺通り（散策）仙台駅）

## (3) 2021 年 4 月 16 日 プレカンファレンス

同日に開催されたプレカンファレンスにおいて、日韓親善サッカー大会・会長夕食会、レディースコースは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となりました。

（視察研修・レディースツアーグループ長 齋藤 明 記）

副グループ長 叶内 榮治

## 13 収支決算報告

### 13.1 はじめに

予算の設定では 4.1 でも述べましたように、コロナ禍の影響により予算書内容が二転三転しました。そのため、決算では事前協議などの経費が嵩みましたが、幸い広告収入が伸びたことから、何とか黒字になりました。

また、旅行代理店をはじめ、通訳派遣会社、印刷会社と契約を結びました。その結果、支出に当たっては、変更を含め契約に基づき正確に支出することができました。運営報告書作成時に一部予算執行ができない部分（運営報告書作成費、関係機関への運営報告のための経費）は、見込み金額として算出しました。

なお、収支決算報告書は、このプロジェクトに係る全ての費用（見込み）を計上した内容です。

### 13.2 決算内容

#### (1) 前年度支出について

##### ①交流委員会への参加経費

コロナ禍のために途中から Web 会議となり支出は大幅に減っておりますが、2018 年から 2020 年にかけて対面式会議に東北本部から交流委員会に委員として参加した費用を計上しております。

##### ②日韓技術士国際会議の下見

神戸大会、高陽大会への参加費用についても計上しております。

#### (2) 内訳について

決算の内訳に関しましては、収支決算報告書（別紙）に詳細を示します。

#### (3) 決算結果

次頁に収支決算報告（見込み）の総括表を添付します。

### 13.3 協力企業

株式会社トラベル e 旅. c o m の佐藤芳郎様には、会場の手配、Web 配信業者の紹介、クレジット決済による参加料の受付、名札の作成、資料の袋詰め受付など、運営全般にわたり大変、お世話になりました。

また、株式会社東北共立の小足賢一様には、Web 配信の件で、多大な技術的支援とご協力をいただきました。

さらに、ホテルメトロポリタン仙台の瀬尾知也様、鎌田美恵子様には、新型コロナ禍による度重なる計画変更にもかかわらず、誠実にご対応いただきました。

この場をお借りして、協力をしていただきました皆様に心より感謝申し上げます。

(運営委員会事務局 齋藤 浩 記)

## 第50回日韓技術士国際会議(仙台)収支決算報告書(見込み)※

収入の部					支出の部(見込み)						
区分	科目	細目	予算	実績	差	区分	科目	細目	予算	実績	差
			Ver7.1.4	2021.11.29	金額				Ver7.1.4	2021.11.29	金額
交付・拠出金			2,600,000	2,600,000	0	準備費			118,400	885,339	766,939
	統括本部		1,500,000	1,500,000	0		広告・打合せ		70,000	0	▲70,000
	東北本部		1,000,000	1,000,000	0		旅費交通費		0	836,939	836,939
	日韓文化交流基金		100,000	100,000	0		日韓合同委員会		48,400	48,400	0
	仙台観光国際協会	コンベンションビューロ			0						
広告収入			0	300,000	300,000						
	地域本部		0	300,000	300,000						
	部会・委員会		0		0						
	東北本部県支部		0		0						
広告収入(※4)			480,000	1,175,000	695,000	委託費			654,200	715,075	60,875
	スポンサード契約		0	0	0		旅行代理店経費		616,500	663,100	46,600
	広告	1ページ	0	0	0		雑費(名札など)		37,700	51,975	14,275
		1/2ページ	180,000	450,000	270,000						
		1/4ページ	300,000	725,000	425,000						
参加費(1)			1,290,000	1,239,000	▲51,000	経費(1)			2,928,956	3,045,542	116,586
	本会議	本会議	600,000	660,000	60,000		本会議	本会議運営費	695,300	828,683	133,383
		web参加者	600,000	450,000	▲150,000			ポスターセッション運営費	0	0	0
		論文集販売	0	54,000	54,000			本会議場施設費	2,113,056	2,086,436	▲26,620
		参加者昼食(弁当代)	90,000	75,000	▲15,000			参加者昼食(弁当代)	120,600	130,423	9,823
											0
参加費(2)			0	0	0	経費(2)			82,800	88,496	5,696
	晩餐会	中止	0	0	0		晩餐会	中止	0	0	0
								晩餐会経費		0	0
	レディースコース	中止	0	0	0		レディースコース	中止		0	0
	サッカー交流会	中止	0	0	0		サッカー交流会	中止		0	0
	女性技術士交流会		0	0	0		女性技術士交流会		45,600	45,600	0
								運営費	36,300	36,300	0
								施設費	9,300	9,300	0
	日韓の技術士・学生座談会		0	0	0		日韓の技術士・学生座談会		37,200	42,896	5,696
		学生	0	0	0			運営費	0	5,088	5,088
								施設費	37,200	37,808	608
	会長夕食会	中止	0	0	0		会長夕食会	中止		0	0
	研修視察	中止	0	0	0		研修視察	中止		0	0
							その他		543,400	538,299	▲5,101
							予備費		42,244	0	▲42,244
収入合計			4,370,000	5,314,000	944,000	支出合計			4,370,000	5,272,751	902,751
収支差額(収入合計-支出合計)									0	41,249	41,249

※2021年11月29日現在の見込みの収支決算報告書となります。

## 14 運営関係者のコメント

### ①熊谷和夫 大会会長（本部長）

コロナ禍にあり初めての試みであるweb国際会議を無事終えることができました。ひとえに関係各位のご尽力の賜物と思っております。とりわけ運営委員会の皆様方には準備・本会議の運営・報告書の取り纏め等多大なご尽力を頂き大変感謝致しております。誌面を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



### ②今西 肇 運営委員長 [日韓技術士交流委員]

3年にわたりこのイベントにかかわり、日韓の技術士交流における国際会議の意義について考え続けてきました。2019年韓国高陽大会で感じた素朴な疑問は、日韓国際会議において何がoutcomes（成果）なのかという点です。会議における人的交流そのものでいいという人もいます。最先端の技術交流を高いレベルで行うべきだという人もいます。会議をすることが目的化しているようにも映りました。仙台大会では両国共通の行動メッセージを出せないかと知恵を絞り「もう一度お互いをよく知ることが50年経過した今だから必要である」との認識を持ちメインテーマとしました。幸い韓国側にも好感を持って受け入れられ、両国間はWEB開催ではありましたが一歩前進できたように感じます。既成概念と固定観念を取り払い、これからも持続可能な日韓技術士交流に期待します。



### ③遠藤 敏雄 運営副委員長 [兼、来賓対応グループ長]

開催時、仙台市のコロナ感染対策はリバウンド防止徹底期間中であつたが、緊急事態宣言時の規制を厳守し、会場であるホテルと協力して、万全の体制で開催に臨んだ。ご来賓を始め多くの参加者のご協力の結果、事故もなくスムーズに大会が進められました。事後の感染報告もなかったことも報告しておきます。

ご来賓は技術士会東北本部が古くからお付き合いをさせて頂いている6つの関係機関と韓国総領事館にお願いし、後援と祝辞（論文集に掲載）を頂きました。式典時間の関係で知事、市長、総領事の三方のみにご臨席の上ご挨拶を頂きました。休日の早朝8:15のご来場となり、大変ご迷惑をお掛けいたしましたことに深謝いたします。また、大会日は宮城県知事選挙（衆議院議員選と同時）投票日に当たり、知事名「村井嘉浩」が「宮城県知事」だけの表示となり、他の来賓の表示とバランスに欠ける事態となり失礼しました。無事に再選され安堵しました。



### ④井口 高夫 本会議運営グループ長（副本部長）

3年前の全国大会（郡山）でも運営委員会に参画しましたが、今回の日韓技術士国際会議（仙台）では自分自身は過去の会議参加経験もなく、また新型コロナウイルス感染症による開催形態の変更など、過去の開催事例を参考にできない点もあり、全国大会の開催準備に比較して遥かに大変でした。

電子メールの関連フォルダーから日韓会議関連の受発信メール件数を集計したら、10月1日から10月30日までの1ヶ月間で総件数833件、10月1ヶ月間平日1日平均約42件でした。18年後に東北で開催される次回の日韓会議の準備・運営に、この運営報告書が参考になることを祈ってやみません。



## ⑤柴田 友禎 本会議運営 [会場管理 チーム長]

会場担当として一番苦勞した点は席次の決め方です。最終的には今西委員長が調整し決定しましたが今回はこんなケースがありました。ある方は当初webで申し込まれていましたが表彰対象だったので、急遽来場されました。しかし、急な変更だったので用意できた席が最後列でしたが、来賓がお帰りになった後に席を移動して頂き事なきを得ました。今後もこのようなことが起こりうる可能性があるため、不意の来場者に対する予備席を設けておく必要があることを実感しました。今後の課題として提起しておきます。次回の開催に役立ててください。



## ⑥齋藤 大介 会場管理 副チーム長

私は当初、国際親善サッカー大会の担当でしたが、コロナ禍に伴いサッカー大会が中止となったため、会場管理チームの一員として会場準備・管理に携わりました。

仙台会場と韓国との Web 国際会議は事前に準備することや確認すること、当日でなければ分からないことなど、不安要素はありましたが無事に開催・運営することができました。日韓技術士国際会議の運営に携わった経験を、今後の技術士人生に活かして行きたいと思います。



## ⑦橋本 正志 本会議運営 副グループ長 [本会議進行チーム長]

前日リハーサルは、本会議会場の都合により、定員 10 人の小部屋に関係者が集まりシナリオの読み合わせを中心に行いました(写真)。したがって、会場での動線確認はバーチャルでせざるを得なかった他、韓国側とのコミュニケーションが一切できない状態でのリハーサルであったため、韓国側との配信切り替えのタイミング等はぶっつけ本番で行いました。結果的には、WEB配信グループ、司会者、同時通訳者等のプロの力を借りて、無事乗り切ることができました。



## ⑧武田 芳丈 本会議運営 副グループ長 [web 配信チーム長]

日韓技術士国際会議については、二十数年前、知人の技術士が運営に携わったことで初めて会議の存在を知りました。その時に、会議運営に大変苦勞したと聞かされていたものの、今回、運営委員会への活動参加についてお声掛け頂いた時には二つ返事で承諾しました。ところが会議運営を携わってから本当の大変さを実感することになりました。但し、それ以上に得たものは大きく、日韓技術士の交流の大切さや技術士の存在価値を再認識することができ、自分自身にとってこれから技術士としてのあり方について考えるよい経験をさせて頂きました。今回、私が無事に役目を果たすことができたのは、関係者各位のご協力によるものと感謝しています。



## ⑨伊藤 貞二 本会議運営 [press・広報チーム長]

本会議への出席は、技術士会入会後初めてのことでした。運営委員会では、「プレス広報」として活動しました。過去の会議経験がないため、会議の全体像及び何から準備していくのかもわからない状態から始めました。会議を重ね、やらなければならないことがだんだんと見えてきました。運営会議及びメールの送受信等は日常業務をこなしながらの活動のため、かなりきつい活動でした。全体をまとめられている各グループ長においては本当に大変だったことと推察します。準備を入念にされたことで、本会議は大盛況であったと思います。韓国の技術士が何に注目し、どんな課題に取り組んでいるかを共有できた会議で、大変有意義なものでした。



## ⑩高橋 秀輔 本会議運営 [web 配信チーム・女性技術士交流会グループ]

皆様、日韓技術士国際会議お疲れ様でした。青年技術士交流委員会委員長として、今回の国際会議について、何かご協力させていただきたいとの思いから参加致しました。

本会議での web 配信チームの他に、前日の女性技術士交流会、学生座談会についても準備段階よりお手伝いをする事ができ、大変良い機会となりました。

様々な立場の方々（女性技術士、大学教授、学生）と準備を進める中で、皆様の今回の会議に対する熱い思いが伝わって参りました。

特に学生座談会ではこれから技術士を目指す学生と出会うことができました。

青年技術士メンバーが増えればうれしい限りです。引き続きよろしく願いいたします。



## ⑪末岡 真純 論文募集・審査 グループ長

1年の延期後「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」の国際会議が、仙台でハイブリッドで開催されました。ソウルと仙台会場並びに日本及び韓国国内をオンラインで結び実施されました。オンラインは周到な準備のお陰で、予定通りに会議を進行することができました。20年前に韓国道路公社の軍人社長を日本の高速道路を案内しました。その時の貪欲な情報収集に驚きました。そして4年前には地盤工学会世界会議でソウルに出かけ、高速道路を見て韓国道路公社を訪ね討論を行いました。交通管制室も見せて頂き、御自慢の PPP による長大橋とその脇の展示館も訪ねました。韓国にはもはや暫定2車線の高速道路は無く、複数乗車車による専用レーン、リアルタイムの道路情報提供と日本より進んでいる部分が多くありました。鋼製のトンネルや大断面トンネルにも驚きました。



## プレイベント【学生座談会】

初めての試みとして仙台の大学関係者並びに韓日学生が参加し、リアル及びオンラインで有意義な討論が行われ、次世代に繋がるイベントが行われました。

## 本会議【会場】

入場時の検温、消毒も行われ、さらに席間隔を空けながら着席しその指定席に配布物を予め置いてある等コロナ対策が大変良かったと思います。大型スクリーンやテレビモニタも見やすくオンライン、リアルとも全体の進行も非常にスムーズに行われました。

## 【特別報告】

仙台大会そして50周年にふさわしい内容が双方から発表されました。

## 【分科会】

両国合わせて4分科会16編の発表を直列で発表が行われ、効率よく幅広い論文を聞くことができ良かったと思います。論文発表時の時間管理もきちっと行われ、韓国側も臨機応変の対応をしてくれました。翻訳論文及び発表の同時通訳によってスムーズに論文内容を理解が出来ました。

## 【論文集】

参考として訳文もあり発表者の顔写真も付いており相互交流に役立っていると思います。

## ⑫松野 裕二 論文募集・審査 副グループ長

日韓技術士交流会議に、論文募集審査グループということで参加させていただき、4つの分野にわたり、20編の論文を査読させていただきました。今年度の開催もコロナの影響で先の見えない状況の中、本会場への移動可否も含め、口頭発表者、HP発表者を検討させていただきました。

当日の分科会では、4つの分野を合わせて韓国側8編、日本側8編の発表と、活発な質疑応答もあり、両国の参加者においては大変、有意義な内容になったのではないかと思います。

次回への提案として、論文募集時の投稿要領の中に論文骨子と合わせて、文字フォント、サイズ、1行の文字数、1頁の行数、余白サイズなどフォーマットに関する記述も加えてはどうかと思った次第です。



## ⑬石川 弘子 女性技術士交流会 グループ長

女性技術士交流会は15年の歴史の中で初めてWEB開催としましたが、決定までには紆余曲折がありました。2021/4/5 宮城県内に蔓延防止等重点措置発令、会場の東北工大一番町ロビーは学内関係者以外立入禁止。解除後、8/11 会場下見。8/20 蔓防再発令、8/27 緊急事態宣言、会場は再び立入禁止。会場変更を検討しつつも、「会場がなくても誰も来仙できなくても開催できるようにしよう」を合言葉に、9/6 完全WEB開催に決定しました。対面ではない残念さもありましたが、国内各地からの参加者が増え、一人一人の顔をみつめてじっくり話を聞くことができるなど、WEBならではの良さもありました。ポストコロナ時代を迎える一歩にもなったと思います。



## ⑭丸尾 知加子 女性技術士交流会 副グループ長

初めて通訳を介してのオンライン会議の司会ということで、セリフを区切るタイミングを目配せにより行えないなど、物理的な難しさを感じた会議でした。しかし、通訳の方の経験値が高く、司会側が少し間を空けると即座に通訳をしてくださり、同じ会場に居ないと感じさせない状況を作り出せたかと思いますので、とても感謝しております。また、私は日韓会議に初めて参加しましたが、韓国側も温かく見守ってくださり、交流企画・親睦会ともに充実した時間を過ごすことができました。本来であれば、リアルに対面し、もっとお互いのことを理解することが出来たかと思うと残念ですが、今後同様の機会を得たときに今回の分も交流を深めたいと感じました。



## ⑮早坂 辰江 女性技術士交流会グループ

私は、「日韓女性技術士交流会」に「画面管理」担当スタッフとして参加しました。具体的には、交流会中の様々な場面のスクリーンショットを撮る役割です。私の役割が「カメラマン」である以上、撮影チャンスを確実に捉えるため、次第や資機材、手順等、色々確認・準備し当日を迎えました。ところが、使用予定の機材が使用できなくなり、急遽別機材で対応することになりました。正直焦りましたが、他のスタッフの協力もあり、無事に役割を果たすことができました。残念なことは、韓国の技術士の方々と初対面だったのにもかかわらず、画面管理に必死で交流会の記憶がないことです。このため、今後出される資料等で交流会を振り返りたいと思います。



## ⑩渡辺 由美子 女性技術士交流会グループ

私は今回初めて参加させていただきましたが、時間管理を担当しました。Web での時間管理をしたことがありませんでしたので、画面に時間表示するためのソフトやアプリについて教えていただきながら、試行錯誤で準備しました。タイマー表示するアプリは数多くあり、機能もそれぞれ違うのですが、なるべくシンプルで見やすいものを選定しました。直前に zoom でリハーサルをしていただき、ベルの聞こえ方や時間の表示の仕方について確認・修正できたので、当日はトラブルなく実施できました。Web での実施はトラブルのリスクもありますが、より多くの方が参加できるという利点もありますので、今後も必要に応じて活用していければ良いと思いました。



## ⑪佐々木 源 日韓技術士と学生の座談会 グループ長

50 年の日韓技術士交流の歴史の中で、初めての企画である座談会を無事終了することが出来て、ホッとしています。コロナ禍の中、座談グループはテーマの設定と韓国籍の技術者と学生へのアプローチをどうしたらよいか？当初本当に模索致しました。ダイアリーを振り返ると 5 月の連休明けには、G 副長の菅原晃さんと今西運営委員長とミーティングを弊社 日本ハイウエイ・サービス (株) 仙台支店の会議室にて行いました。テーマは早々に「ダイバーシティと技術者教育」と決まりました。



一方で、「座談会」を具体的に、いつ・どこで・誰と・どのようにするのか？ 5W1H は全く方向性が定まらず途方にくれていました。プレイベントの座談会は 10 月 30 日に本会場とは別に「仙台市内」のサテライト会場で日韓技術士と学生が 5×2×2 の 20 名を想定し、対面で行うこと。東北工業大学一番町ロビーを想定。Web オンラインを併用。会議後は女性技術士交流会と合同で会食も考えていたのですが……。全ては「ハイブリット方式」の Web 併用方式となり、「学生座談会」も会場も。募集方法も流動的な状態となっていきました。とはいえ、仙台市内・近郊には理工系の大学が 3 つもあり、韓国出身の教官も学生も複数いることが分かってきました。今西委員長に東北工業大の権英哲准教授を紹介いただき、その伝手で、東北大学の風間基樹教授、東北学院大学の山口晶教授・李相勲教授、リサイクルのシンポで東北大学の劉庭秀教授と繋がっていきました。7 月末に大学の夏休み前に学生さんに各先生から概の座談会テーマと方式を浸透していただき、8 月末から 9 月初めに紹介いただいた学生さんにメールで募集フォームにより討議内容の提案も働きかけました。

コロナ緊急事態宣言・宮城県独自防止措置継続等により、会場が仙台ビジネスホテルに急遽変更になるなど大いに慌てました。学生さんも、何と、航空宇宙の博士課程在籍者を含む韓国留学生 2 人の目途が立ち感激しました。技術士も東北本部を中心に参集。本部、交流委員会にも随分心配とご迷惑をお掛けしました。金仁周さんには韓国技術士会との直前の質疑回答調整頂き大変感謝しております。強力なオンラインサポートチームも加わり、セキュリティも記録 G から応援いただき助かりました。

このようにして座談会は 27 名を確保できたのでした。技術士 10 名 学生 10 名・教職員 7 名。韓国籍 6 名 日本国籍 21 名。オンライン視聴も約 70 名が登録参加。当日は、互いに違いを認めつつ分かり合える、ダイバーシティとリカレント教育等についてトークが展開されました。本当に皆さんありがとうございました。そして、仙台で行われたこの座談会の試みが、今後、韓国麗水市の大会にも繋がっていくよう祈念しております。

## ⑱菅原 晃 日韓技術士と学生の座談会 副グループ長

技術士・学生座談会を開催するにあたって、コロナ禍のため日韓技術士会国際会議が1年延期され、また9月中旬のコロナの第4波の流行から、座談会をどのように開催するのも不透明ななか韓国側の技術士の参加者の問題、韓国側の学生の参加者の選定、座談会の運営をどのように行うのか問題が山積しておりました。そうは言っても開催日は、刻一刻と迫ってきておりました。



今西運営委員長の人脈と佐々木グループ長の大学との繋がりを頼りに何とか大学の先生方とコンタクトを取り、やっと開催の方向性が見えたというのが実情です。

東北工業大学の権永哲先生、東北大学の風間先生、東北学院大学の李相勲先生方の協力が大きな支えとなりました。また座談会をどういった形で進行していくべきなのか議論の絞りこみ、方向性等シナリオの作成や座談会の議論に時間を多く確保するための工夫等運営について、事務局の滝上さんにも一緒に入ってくださいサポートしてもらいました。韓国側の技術士の方の参加が難しかったので、韓国の実情等について急遽取りまとめていただいた日韓交流委員の金仁周さんには、時間が無い中で大変ご苦勞をお掛けして恐縮しております。また、会場のWeb環境の設営等我々には最も不得意な分野をサポートしていただいた事務局の斎藤浩さんと高橋秀輔さんに感謝します。今回の座談会を通じて韓国籍の大学の先生方や学生さんたちと繋がった縁を今後も生かしていくような取り組みを継続的に行っていくことが必要だと改めて感じております。

## ⑲齋藤 明 復興映像制作 グループ長

私ははじめての国際会議の参加でした。当初の研修視察・レディースコースのグループ長を拝命しました。研修視察のご案内で随行者程度の軽い気持ちで取り組んだところですが、今年は「東日本大震災復興10年事業」を7月に開催したこともあって、ハイブリット方式、研修視察・レディースコースから復興映像制作グループへの切り替わりとともに、本格的に「映像制作」に携わったのが8月下旬で、開催の前日にビデオが仕上がるという綱渡り的な工程となってしまいました。今西運営委員長や関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことお詫び申し上げます。直前のアニメーションや編集作業の追い込みは、近年にない「集中感」で凌ぎました。復興の制度設計や土業連携については、どの程度韓国のみなさまにお伝え出来たか心配なところもありましたが、会場での映像では少しばかりの達成感を覚えました。この度は、よい経験をさせていただいたと感謝しております。



## ⑳叶内 栄治 復興映像制作 副グループ長

私は、当初の研修視察・レディースコース担当者として、研修・視察候補地について関係者のアンケート等により限られた時間内に会場に戻れるコースを選定し、予算計画を立案しておりました。しかしながら新型コロナ対策上から、韓国からの出席ができなくなり、研修会は中止となりました。



その後、復興映像製作担当となり、素案を政策事業委員会に提示しました。復興報告の時間の制約もあり、幾度も見直しを行い、特別報告として31日会場での映像による東日本大震災復興と今後の東北の未来に向けての取組み紹介ができました。映像の資料は福島県、宮城県、岩手県、復興庁等の提供を得て、製作しております。今西運営委員長とのご指導を受け、齋藤グループ長の甚大なる努力のもとで出来上がりました。BGM、韓国文字付で素晴らしい映像となり、感動・感激を受けました。私はほとんど何もできませんでした。関係者の皆様に感謝申し上げます。日本・韓国技術士は国こそ異なりますが、似たような課題解決に向け、幅広分野にわたり努力と研鑽を積み重ねられていることを知る良い機会となりました。今後もこの会が継続し発展しますことを祈念いたします。

## ②佐久間 章夫 来賓対応 副グループ長

私は、2021年7月より第50回日韓技術士国際会議における実行・運営委員会メンバーの来賓グループの一員として参加させていただき、日本技術士会東北本部の皆さまと会議準備などを通して親睦を深めることができ大変有意義なものとなりました。特に、感染状況が日々変化する COVID-19 の対応については、大会準備期間中、さまざまなシミュレーションを通して安心して参加いただける施策を皆さんと議論ができ、自分自身の知識や行動に対し様々な影響を与えてくれるような気付きを得る事が出来ました。今後も日本技術士会東北本部開催の行事に対し積極的に参加し、人脈醸成を図り、自分自身の知識を高めていきたいと考えています。

## ②糸井 秀実 来賓対応グループ

私の担当は、後援・来賓対応でした。運営委員会は途中参加であったため、分からないことが多々ありまして当初は戸惑いでしたが、遠藤副委員長をはじめとして、多くの方からから親身なアドバイスをいただきまして、なんとかやり遂げることができました。特に、来賓対応では、「もしかしたら日付を間違えて伝えてしまっていないか?」「伝えた会場って合っていた?」など不安になり、何度もプログラムを確認しました。恥ずかしい限りです。大変貴重な経験をさせていただきました。今後、あらゆる場面でこの経験を活かしたいと思えます。また、今後の日韓技術士国際会議の成功を心より祈念します。ありがとうございました。



## ③加納 実 警備・安全安心 グループ長

「日韓技術士国際会議(仙台)」のスタッフ一員として、会議が終了し、ほっと一息というところです。警備安全グループはほかのグループのように、大会のサブスタンス(中身)ではなく、ロジスティックス(手続き、兵站)の担当でした。新型コロナ対応も当グループの所管となり、以前の会議のマニュアル、対応手順等を加筆修正したほか、スタッフの携帯用「リーフレット」をあらたに作成しました。開催ホテルの「ホテルメトロポリタン仙台」とも、事前及び当日に連携を図りました。オンライン開催のため、参加人数は少なくなったものの、マニュアル、対応手順に忠実に綿密な対応ができたと思っています。運営委員長の大事な局面での的確な指示に感謝します。このようなイベントの開催場所のメンバーはなかなか、会議自体に関わることができなくなるのが常ですが、小職も本職の多忙と相まって論文作成ができなかったのが少し残念でした。しかしながら、オンラインでの大規模会議の開催地方本部として、自前での開催に自信がついたとも思います。最後に、関係各位のご指導に感謝するとともに、至らなかったこともあったことをお詫びいたします。



## ④佐藤 雅士 警備・安全安心 副グループ長

異例のコロナ禍での開催となり、本会場である仙台も直前の9月中旬まで緊急事態宣言下にありました。安全安心を担当する立場として、開催への不安は非常に大きく、どのような対策が必要かなど大変頭を痛めました。危機管理対応マニュアルや手順書にも新型コロナ感染症対策を反映させましたが、妥協点を探しながら何度も修正を行いました。幸いにも、開催直前にコロナの第5波も全国的に収束し本会議を無事開催することができ、また、会議中も特にトラブル無く全行程を滞りなく実施できたことに大変満足しております。最後に、マニュアル等の作成では多くみなさまにアドバイスを頂き、大変感謝しております。ありがとうございました。

## ②⑤長澤 和夫協力企業・スポンサー対応グループ長

今回の日韓技術士国際会議は、対面方式からハイブリッド方式に変更になりその間予算的にも大幅な変更があった。当初は、本部の委員の方々からの力を借りて、大手企業からの広告協賛をもらう予定だったが、ハイブリッド方式となり本部からの助成金も減額され方針変更を余儀なくされた。全国大会では、ゼネコンを中心に広告協賛をしてもらったが、今回は日韓技術士国際会議という特別な会議なのでターゲットをコンサルタント関係に絞って協力して頂いた。本部長と共に協賛広告依頼に歩いたが、想像以上に皆さんの反応は良く約7割の確率で協力を頂いた。今後も引き続き東北本部の協賛会員を増やすべく活動する所存です。



## ②⑦梶谷 真 記録グループ長

本報告書の編集が終わり少しほっとしていますが、反面やや日韓ロス症候群気味です。今回、本報告書の編集を担当させて頂きましたが、皆様きちんと執筆要領を遵守していただき編集作業が比較的楽でした？ 本報告書が次回以降の大会に少しでも役立てば執筆して頂いた方々共に幸いと思います。



## ②⑧森井 淳司 記録副グループ長

第50回となる日韓技術士国際会議の記録グループの一員として携わらせていただきました。新型コロナウイルス感染症拡大により、1年延期となり翌年(2021年)に規模縮小ではありますが開催でき何よりの思いです。但し開催方式として来日予定の韓国の方は、韓国会場での参加でWEBによる配信となりハイブリッド形式でしたので、お会いできなかったことは残念でした。記録の担当として、打合せと本会議の写真撮影とこの報告書の編集に微力ではございますが、その結果が少しでもお役に立てれば幸いです。技術士会の国際行事の一端を担わせていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。



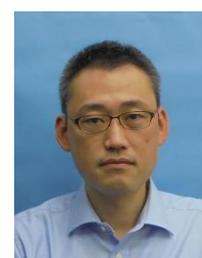
## ②⑨松浦 努 記録グループ

会議直前に委員を拝命したにもかかわらず、紙面を頂いて感謝いたします。本番は会場案内係と、記録係としてリハーサルから本会議風景の写真記録と記録動画編集に携わり、貴重な経験をさせて頂きました。記録動画編集では、どのように区切れば見やすいものになるのか秒刻みで試行錯誤しましたが、なにゆえ素人ですのでご勘弁ください。準備段階から諸先輩方の熱量についていくのがやっとの感じでしたが、無事全う出来てほっとしています。韓国の技術士も国こそ違い、同じ使命を帯び日々活躍されていることを感じる事ができて心強く思いました。若い技術士にも伝えていきたいと思えます。



## ③⑩柳木 功宏 記録グループ

私は、途中段階(ほぼ皆さんが段取りされたあと)から記録グループとして参加させて頂きました。前日は「日韓の技術士・学生座談会」、当日は「本会議」に出席し、Myデジカメを持参して写真撮影や会場誘導を担当しました。学生座談会では、活発な発言が展開され、特に学生さんの技術研鑽に対する熱意を感じました。当日の本会議では、普段聞くことが出来ない韓国会場での一般発表、中でも環境分野の先進的な取り組みが印象的でした(記録を忘れるくらい)。会議運営係の一員としては、あまり貢献できませんでしたが、普段参加する機会が無い国際会議を通じて、多くの技術士先輩方と交流できたことが私のこれからの財産になりました。



## ③③ 滝上 忠彦 事務局グループ長(事務局長)

前本部長が4年前に、日韓技術士国際会議を東北で行い東日本大震災からの復興を見て欲しいと表明してから、最初は5~6名で準備に取りかかったと記憶しています。準備を重ね基本計画(案)ができあがり、運営委員会を立ち上げたところで、COVID-19感染拡大の影響を受けて延期が決定、開催形式も両国の主な関係者が集まったのオンライン配信に変更、その後韓国側の入国が困難なことから仙台とソウルの2拠点からのオンライン配信に変更になり、様々な対応が求められ大変苦労しました。しかし結果は、若干のトラブルはあったものの参加者から大変好評の評価を頂きました。ひとえに運営委員会メンバーをはじめ関係者のお陰です。皆様に感謝を申し上げます。



## ③④ 齋藤 浩 事務局副グループ長

私は事務局としてTM会議に参加し、イベントの立ち上げから清算にまで携わることが出来ました。そのなかで私が担当したものは、①予算の作成と管理、②収支決算、③旅行代理店・通訳派遣会社との金銭的な調整、④通訳者対応、⑤日韓技術士・学生座談会の配信を受け持ちました。

この中で大変だったのは、通訳派遣会社とのやり取りです。コロナ禍のせいもあり、同時通訳費用が突如4倍(それでも他の派遣会社よりは安かったのですが・・・)になったことと同時通訳者がドタキャンしたことです。同時通訳者のドタキャンの理由が、記録用として残す映像と音声に顔と声を残してもらいたくないとの理由からでした。困ってしまいましたが、笑うしかありませんよね。

最後となりますが今回のイベント成功に携わったすべての皆様に感謝したいと存じます。大変ありがとうございました。大変良い経験となりました。



## 【顧問団】

## ③⑥ 渡邊 嘉男

令和3年10月31日(日)、ホテルメトロポリタン仙台 4F 千代(Sendai)西・南の間並びに韓国 Web 会場で『第50回日韓技術士会議』が行われ無事終了しました。前日(30日(土))、仙台ビジネスホテルを会場として、「第14回日韓女性技術士の会」(Webのみ)、「日韓の技術士・学生座談会」が行われ好評理に終わることができました。半世紀を迎えた記念すべき本会議が、コロナ禍のなか多数の両国技術士の参加を得て無事終了することができたのは、両者の長年の努力が実を結んだ結果であるといえましょう。

振り返ると一昨年(2019年)終夏、私は東北本部より翌年の第50回会議の準備に前回開催の経験を聞かせてほしいとの話と第49回会議(高揚市)の参加打診を受け、いずれもOKしたのを思い出します。後者の会議では思いもかけずに国際貢献賞をいただき恐縮の極みでしたが、これも前回開催(2002年)にご尽力賜った皆様の代表として頂いたものと感謝申し上げます。

その年明けの2020年早々1月10日に東北本部で日韓技術士会議仙台的準備会があり、引き続いて2月14日、第50回日韓技術士会議仙台第1回実行委員会(以下「(委)」という)が開催され、準備は先ず日程の調整から始まりました。第1回(委)直後からのコロナ禍により(委)打ち合わせもWeb併用となり、着々と準備が進められました。しかしその後、韓国側より日程について日曜日にサッカー、それに続いて本会議・ツアーとの希望が出され、日程変更の検討が行われ日程は10月25日(日)~27日(火)と合意されました。日程の次の大きな問題は開催スタイルでした。東北本部としての一一致した意見は、今西委員長構想提案「会場1カ所での開会・大会・基調講演・全分科会・まとめ(報告)・閉会」の一気通貫、全員同時参加会議方式でした。この方式は従来方式を根本的に変えるものとして、統合本部日韓委員会(以下「(親(委))」)という並びに韓国委員会(以下「韓国(委)」



という)の同意が必要でした。

東北本部今西委員長の親(委)における大奮闘により、親(委)での入念な検討を経て先ず同(委)の合意が得られ、次いで韓国側の合意を得ることができ、やっと開催の全体像を築くことができました。しかしコロナ禍は収まらず韓国側の日本入国は困難となり、航空便の心配も出てきたため延期の止むなきに至りました。この時も延期か中止か、記念の第50回はそのまま日本で実施するのか、韓国側とするのか等々の議論があり、これらも今西委員長の尽力により、親(委)で第50回(仙台)をそのまま延期して実施することに決定しました。

その後日程の再設定となり、早めの会場仮押さえが功を奏し、紆余曲折の末最終的に10月31日(日)ホテルメトロポリタン仙台4F千代の間での日本側のみ限定数の参加者、その他はWeb参加、韓国側はすべてWeb参加のみと決定しました。さらに開催方式も一気通貫方式と決定しました。以上は今振り返るとスムーズに推移したように見えるものの、準備期間が極端に少ない中、諸事項は並行して決定を迫られたため、今西委員長のご負担は計り知れぬものがあったと思われます。またそれを一糸乱れず後押しした(委)委員各位の粘り強さ・辛抱強さには頭が下がる思いでした。

諸事項があらまし決まったのを機に各委員の分担どおり準備は急速に進展し、会場でのリハーサルを経て前日の会場担当者会議・同日夕方からのWeb Test・韓国側とのWeb Testで運営確認がなされ、翌日無事に開催の運びとなりました。

また大会前日開催の「女性技術士会議」と「(日韓及び世界各国)技術士・学生座談会」はいずれも仙台開催は初で東北本部としての経験はなく、一切を任された担当委員はご苦労が大きかったものと拝察されます。特に後者は日本技術士会としても全く初の開催であり、今後への期待を抱かせる端緒を担うものとして、テーマの設定・参加メンバーの選び方をはじめ、諸事初物のため担当委員は辛酸をなめられたものと拝察されます。

大イベント組み立て経験の少ない委員各位が本部長・委員長主導のもと一致団結してまとめ挙げられたご努力に敬意を表し、ご慰労申し上げます。また耳の痛さをこらえながら戯言をお聞きいただいた各位に御礼申し上げます。私事ながら、米寿とD婚を迎えた年に、関与した記念の会議に参加できましたことを感謝するとともに、些かなりとも何らかの貢献ができたのであれば幸いです。攔筆。

### ③⑦吉川 謙造

今回の会議の開催に当っては、世界中にまん延・長期化したコロナ禍のため、東京オリンピックと同様に、1年の延期という大幅なスケジュール変更を余儀なくされましたが、チームワーク良く、献身的かつ粘り強く事に当たられ、新しい方式と工夫で数多くの困難を克服して、会議を成功裡に終えられました。

企画と運営に当たられた関係者の皆様方に、心より感謝申し上げます。



### ③⑧八木澤 聡 (青森県支部長)

50回目の記念すべきこの会議、日韓の交流が東日本大震災の被災地で復興状況にある中で開催されたことは大変意義深いことだったと考えます。コロナ禍感染第5波の未曾有とも言える厳しい社会環境にあつて、web併用のハイブリッド形式の会議の準備・開催には運営委員長を始めとして東北本部の皆様のご苦労は察するに余りあることであり、成功裡に終えられたこと、また開催後の取り纏め作業にも意を尽くされておられることに、心から敬意を表する次第です。

10/31本会議でweb参加させていただきましたが、インフラ維持・気候変動・人口減少・DXなどなど今後の社会に繋がるテーマの数々の発表は大変参考になることばかりでした。ありがとうございました。お疲れ様でした。



## ④小野寺 徳雄 (岩手県支部長)

第 50 回日韓技術士国際会議に運営委員会の東北本部顧問団の一員として参画させていただきましたが、私は大した働きはできませんでした。

岩手県支部からは女性技術士交流会グループの一員として参加している会員がいたことから、女性技術士交流会への参加者の発掘を試みましたが難しかったです。

日韓双方で本会議に関係された全ての皆様の努力によって大会が成功できたものと思っております。大変お疲れ様でした。



## ④須藤 勇一 (山形県支部長)

第 50 回日韓技術士国際会議が仙台において、コロナ禍の状況下で無事開催され、滞りなく執り行われたことはたいへん喜ばしく思います。熊谷本部長はじめ運営関係者の皆様に心から敬意を表し感謝申し上げます。

日韓技術士交流 50 年を振り返り、そして次の 50 年に向けて Theme「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」のもと日韓両国の技術士による発表は、いずれの分科会においても大変貴重で有意義な講演でした。本会議に仙台会場で参加できたことは僥倖であり、今回の貴重な経験を今後の活動に活かしたいと思っております。



## ④畠 良一 (福島県支部長)

私は大会運営に関しては直接係わっていませんでしたが、運営会議の度にその調整の難しさは 3 年前に福島県で開催した全国大会とは比べようもないことは痛感していました。

今西運営委員長を中心とした運営委員会の皆様のご苦勞に敬意を表します。本当にお疲れ様でした。いくつかの課題はあったものの、これからの大会のスタイルとして新たな道筋を付けられたのではないかと考えています。

私は、復興映像制作G斎藤明グループ長の特別報告「東日本大震災からの復興と福島県のこれから」の中の「福島県の復興の状況」の資料収集のみ担当しました。東日本大震災直後の原発事故による放射能汚染の影響から、未だに食材(海産物・農産物など)の輸出や、福島空港～ソウル間の空の便も途絶えたままです。福島県としては、除線も完全に終了し事故前の安全を取り戻した現状と、原発に頼らない再生可能エネルギー拠点として福島県全域で順調に復興が進んでいる現状を中心に資料を準備しました。本来は福島第 1 原子力発電所の敷地内の現状も伝えたいところでしたが、東京電力復興本社様との打ち合わせを通し、非常に慎重な対応を取らざるを得ない事情を踏まえ今回の資料から除外することにしました。一日も早く普通に情報交換が出来、韓国にとっても自国の原発でも起こりうる問題と捉え、冷静に情報交換が出来る日が来ることを望んでいます。少なくとも両国の技術士会同士の繋がりの中では。



## 【その他の運営委員会委員】

②⑥後藤 和彦 協力企業・スポンサー対応副グループ長

③①林崎 吉克 監査グループ長

③②後藤 徳男 監査副グループ長

③⑤渡辺 将之 事務局副グループ長 ③⑨菊池 豊 東北本部秋田県支部長



15.参考資料

[駐仙台大韓民国総領事館 \(mofa.go.kr\)](http://mofa.go.kr)

公館紹介      ニュース      領事/ビザ業務

第 50 回 日韓技術士国際会議(仙台)  
「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」  
~日韓技術士交流50年、そして次の50年に向けて~

第50回日韓技術士国際会議参席

ニュース      韓国ニュース

お知らせ

金起林記念碑建立3周年記念集会開催案内(12/5)

当館は12月5日(日)、金起林記念碑3周年記念セミナーをオンライン同時開催しますので、参加に希望の方は下記フオ...

公館長及び公館の活動

第50回日韓技術士国際会議参席

イム・ヒスン総領事は10:30(土)-31(日)の間、仙台において開催された第50回日韓技術士国際会議の開会式及び基調...



宮城版  
日本建設新聞社(令和3年)  
1911年11月18日 第3663号(創刊50周年)  
日刊(日、月、祝祭日休刊)

# 日刊建設新聞

The Nikkan Kensetsu Shimbun

11月2日 火曜日  
2021年 第11361号

発行所  
日本建設新聞社  
仙台市青葉区上杉1-6-10  
電話 022-221-9211  
FAX 022-216-1051

## 日本技術士会

技術士が結集する日本技術士会(寺井私公益)は10月30〜31日、第50回日韓技術士国際会議(仙台)を開催した。韓国技術士会との分野で議論し、交流を深めた。技術を持って

て社会貢献していくことを確信し、さらなる相互協力を盛り込んだ大宣言を発表した。日韓技術士交流会は、西国技術士の国際化を目的に1971年から毎年開催している。会合は新



須貝委員長

を継続してきたことは大きな成果だ。人口減少に伴う、技術の伝承が課題にある中で、先端技術をどうに継承していくか、今後の大きなテーマの一つだろう。



# 日韓の技術士が交流

## 仙台で国際会議開催

新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期し、第50回会合は仙台市とソウル市を会場にオンラインで配信した。30日は女性技術士の交流会や技術士と学生の座談会が行われた。  
31日の本会議には、オンラインを含め、日韓の技術士3000人が参加した。仙台会場では、主催者と来賓のあいさつ後、今後

技術を分け、安全安心や経済発展につながる技術交流

型コロナウイルス感染症として、技術を持って仕ける技術の未来への影響で1年延期し、第50回会合は仙台市とソウル市を会場にオンラインで配信した。30日は女性技術士の交流会や技術士と学生の座談会が行われた。  
31日の本会議には、オンラインを含め、日韓の技術士3000人が参加した。仙台会場では、主催者と来賓のあいさつ後、今後

技術を分け、安全安心や経済発展につながる技術交流

# 交流開始から50年 次のステージへ

日本技術士会 仙台市で国際会議  
韓国技術士会



日本技術士会(寺井和弘  
会長)と韓国技術士会(朱勝  
皓会長)は10月31日、仙台市

青葉区のホテルメトロポリ  
タン仙台で第50回日韓技術  
士国際会議を開いた。写  
真。もっと知ろう日本、も  
っと知ろう韓国―日韓技術  
士交流50年、そして次の50  
年に向けて―をテーマに  
両国合わせて232人が参  
加。韓国側からは134人  
がオンラインで参加した。

国際会議は、1年交代で開  
催国となり技術交流する。  
昨年は新型コロナウイルス  
感染拡大の影響で1年延期  
されたため、仙台市での開  
催は第32回大会(2002  
年)以来19年ぶりとなった。  
冒頭、寺井会長は「産官  
学の多様な専門領域の技術  
力を総合的に発揮し社会に  
貢献していくことが求めら  
れる。両国の技術士の役割  
がますます拡大し、その地  
位向上に努めていきたい」  
とあいさつした。

式典には、遠藤信哉宮城  
県副知事、郡和子仙台市長、  
林熙順駐仙台大韓民国総領  
事が来賓として出席し、祝  
辞を述べた。

会議では、半世紀にわた  
る日韓技術士交流として、  
お互いの国の技術制度や活  
動内容などを基調講演した  
ほか、東日本大震災から10  
年となる東北の復興の歩み  
を映像で特別報告。技術交  
流では、基礎分野、エネル  
ギー、技術監理、先端分野  
の四つの分科会から発表が  
行われた。

前日の30日には、ウェブ  
で日韓女性技術士交流会と  
技術士・学生座談会も行わ  
れお互いの交流を深めた。

第50回日韓技術士国際会議(仙台)運営報告書

第50回日韓技術士国際会議(仙台)運営報告書執筆分担計画(案) ○印:原稿内容

章 節	目次項目(案)	関連G	G長	副G長/T長	報告文	図・表	写真	動画(DVD)	原稿受け	備 考
1	事業概要	運営委員長	今西肇	遠藤敏雄	○					
2	組織づくり									
	2.1 準備段階	運営委員長	今西肇	遠藤敏雄	○	○				
	2.2 全体組織/運営委員会	運営委員長	今西肇	遠藤敏雄	○	○				
	2.3 本会事務局	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○	○				
	2.4 韓国技術士会との連絡体制	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○	○				
3	スケジュール管理	事務局	滝上忠彦・今西肇	齋藤浩・渡辺将之	○	○				
4	事業費									
	4.1 予算の作成	事務局	滝上忠彦・今西肇	齋藤浩・渡辺将之	○	○				
	4.2 資金調達計画	渉外G	長澤和夫・熊谷和夫	後藤和彦	○	○				
5	合同委員会									
	5.1 事前調査の概要	運営委員長	滝上忠彦・今西肇	遠藤敏雄	○		○			
	5.2 日韓合同委員会の概要	運営委員長	滝上忠彦・今西肇	遠藤敏雄	○	○	○			
6	参加者の募集・広報									
	6.1 広報の方法(月刊PE・技術士会HP等)	事務局	滝上忠彦・伊藤貞二	齋藤浩・渡辺将之	○		○			掲載済
	6.2 広報活動(新聞・雑誌・テレビ等)	プレス広報T		伊藤貞二	○		○			
	6.3 参加者リスト	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○	○				
7	プログラム									
	7.1 プログラム作成	本会議運営G	井口高夫	橋本正志	○	○				シナリオを載せる
	7.2 論文募集・査読・口頭発表者選定	論文募集審査G	末岡真純	松野裕二	○					論文募集概要と査読方法
	7.3 来賓依頼・後援依頼	来賓G	遠藤敏雄		○					
8	会場									
	8.1 会場使用計画の作成	会場管理T		柴田友禰	○	○	○			
	8.2 web配信(仙台⇄ソウルオンライン国際会議)	Web配信T		武田秀文	○	○				
	8.3 当日の会場安全管理	警備安全G	加納実	佐藤雅士	○	○	○			コロナ対策・リスク管理を含む
9	制作物									
	9.1 大会パンフレット	本会議運営G	井口高夫	橋本正志	○	○				
	9.2 名札	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○	○				代理店への発注
10	本会議行事									Web配信の状況を記録に残す
	10.0 開会宣言	本会議運営G	橋本正志							
	10.1 開会挨拶	本会議運営G	井口高夫	橋本正志	○		○	○		日本・韓国両国側より記念式典・基調講演 オンライン中継ビデオカメラのSDカードや
	10.2 基調報告	記録G	梶谷真・森井淳司	松浦努・柳木功宏	○		○	○		
	10.3 国際貢献賞授賞式・功労者紹介	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○		○			
	10.4 基調講演	記録G	梶谷真・森井淳司	松浦努・柳木功宏	○		○	○		
	10.5 特別報告1(復興映像)	復興映像制作G	齋藤明	叶内栄治	○		○	○		「東日本大震災から10年のあゆみ」「日韓 技術士交流50年の歩み」の概要版
	特別報告2(日韓交流50年)	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○		○	○		
	10.6 分科会	論文審査G	末岡真純	松野裕二・渡辺将之	○		○			
	10.7 大会のまとめ	本会議運営G	橋本正志	今西肇	○		○			
	10.8 大会宣言	東北本部長	熊谷和夫・今西肇		○					
11	社交行事									
	11.1 晩餐会(中止)	来賓対応G	遠藤敏雄	佐久間章夫	○					中止となったが計画案について記載
	11.2 展示会・ポスターセッション	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○		○			ポスターセッション中止 論文はHPに掲載
	11.3 次回開催地プレゼン(映像等)	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○		○			次回、プロモーションビデオ等
	11.4 受付・案内	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○		○			
	11.5 プロトコール(国際儀礼)	本会議運営G・来賓G	井口高夫・遠藤敏雄		○	○	○			
	11.6 旅行会社の活用	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○		○			
12	研修・視察									
	12.1 国際親善サッカー大会(中止)	事務局	滝上忠彦・齋藤大介							中止となったが計画案について記載
	12.2 学生座談会	座談会運営G	佐々木源	菅原晃	○		○			
	12.3 女性技術士交流会	女性技術士運営G	石川弘子	丸尾知加子	○		○			
	12.4 研修視察(中止)	研修レディースG	齋藤明	叶内栄治	○					中止となったが計画案(福島or南三陸方面)につ いて記載
13	参加者へのアンケート	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○	○				アンケートは中止した。
14	収支決算報告	事務局	滝上忠彦	齋藤浩・渡辺将之	○	○				
15	監査報告	監査G	林崎吉克	後藤徳男	○	○				
16	運営関係者全員のコメント300字程度	運営委員会全G	各グループ長	各副グループ長	○					本会議参加者・韓国側のコメントを含む
17	参考資料(写真・新聞記事等・後援団体協賛企業リスト)	記録G	梶谷真	森井淳司			○			
		プレス広報T		伊藤貞二			○			

※原稿データは全て記録G梶谷真m.kajitani@tokenkoei.co.jp及び森井淳司atsushi.m@tokenkoei.co.jpに送信をお願いします。原稿提出11月14日(日)厳守

※記念式典・基調講演はハイブリットI型方式なのでビデオカメラは3台設置済と考え2時間程度の動画(DVD)はそのデータを編集する。

## おわりに

第50回日韓技術士国際会議は、熊谷大会会長・今西運営委員長の指揮の基「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」を主題として、綿密な計画で臨みました。開催3カ月前にWEB形式に変更となったにも関わらず大過なく挙行できたことは、実行委員会や運営委員会の皆様、ご協力を頂いた多くの皆様の賜物と深く感謝を申し上げます。大会のキックオフは2018.11 準備委員会発足時、その後3年の長い時間を掛けて準備して参りました。コロナ禍で1年延期したにも関わらず、今年になっても韓国の技術士が入国できずに、やむを得ずWEB開催となりました。両国間の重要な交流イベントを中止しせざるを得なく、主題とした「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」を十分に伝えることが出来なかったのは誠に残念でした。

一方、WEB形式では多くの参加者を募る事が可能であり、今後の新たな会議運営として、有益な方策として意味のあるステップになったと考えられます。

大会宣言は「今後の日韓技術士国際会議が継続と発展し、両国の技術が世界の平和と幸福のために行動する」と宣言しました。熊谷大会委員長の力強い感極まる宣言で大会の幕を閉めました。多くの運営委員が感激し、これまでの労苦が報われる思いでした。

この報告書は、多くの運営委員の皆さんの知恵と汗の結晶、その想いを運営委員自らが記したものです。今後とも日韓技術士国際会議が長きにわたって継続して開催できるよう、開催報告書として後世に残します。第50回の記念すべき国際会議をここ仙台で開催できたことに、感謝の意を表して「おわりに」とします。

(第50日韓技術士国際会議(仙台)運営委員会副委員長兼安全管理最高責任者 遠藤 敏雄 記)

## 編集後記

2019年10月まだ対面で会議ができた頃、技術士会宮城県支部役員会で遠藤支部長より来年10月25日(日)～27日(火)にかけて仙台で日韓技術士国際会議が開催されるので「宮城県支部としても協力したい。」との報告がありました。叶内さんがレディース研修Gに森井さんと私が記録Gに指名されました。記録Gは会議の状況を写真に撮る位だろうと高を括り安請け合いをしますが、記録Gには報告書の取り纏めという大役があり、やや誤算でしたが私は元来編集業務が好きなので楽しんで作業をさせていただきました。

2020年になりコロナの状況が益々厳しくなり日程が1年間延期され開催は2021年の秋になるであろうという報告がありました。

2020年の3月に予定されていた日韓の運営会議が中止され、本会議も中止になるであろうと期待していましたが2021年4月に日韓技術士交流委員会がwebで開催され「国際会議は2021年10月30日(土)～11月1日(月)に、場所はホテルメトロポリタン仙台で開催されることが決まりました。」との報告がありました。しかし、これはまだ本決まりではなく最終決定はホテルのキャンセル料が発生する2021年7月31日までに決定するというものであります。

2021年の春頃まではオリンピックの開催も危ぶまれていましたが、オリンピックは予定どおりに7月に開催されました。

コロナ禍での仕事はテレワークやweb会議が主流になりつつありました。当初は韓国側からの関係者の来日を見込み集合会議とweb会議のハイブリット型の会議を想定していましたが、2021年8月の交流委員会で「コロナの状況が改善したとしても韓国側からの来日は無いということが決まりました。」という報告がありました。そのために国際会議は仙台とソウルをオンラインで結ぶweb方式になることが決定しました。10月30日の親善サッカー大会、31日の晚餐会・ポスターセッション・パートナーズコース、11月1日の研修視察が中止になりましたので、当初考えていた報告書の目次も大幅な修正を余儀なくされるどころでしたが、次回以降コロナが収束しフルバージョンの会議が復活する可能性も十分考えられますので、今後の参考のために中止となった項目についても計画段階の資料を掲載することにしました。

2021年の9月1日に今西運営委員長、滝上事務局長と私で報告書目次と執筆担当者の調整会議をweb方式で行い最終的な目次と執筆担当者を決定しました。16. 参考資料に各項目毎の執筆者を示す一覧表を掲載しています。

本報告書は第50回日韓技術士国際会議(仙台)を成功させるためにどのような準備をし、組織を作りプログラム・シナリオを描き、どのように全体運営を行ったかの記録をなるべく詳細にかつ簡潔に残し、次回開催の一助にしたいと考え取り纏めたものです。また、次回の国際会議からは親善友好交流の段階を卒業し、『新たな交流の姿』を検討する段階への移行が必要であるということです。で、本報告書がすこしでも役立てば幸いです。

報告書は会議終了後1か月で発行するという前例がありますので、執筆は東北本部運営関係者が全員で分担して行いました。そのため発行所を日本技術士会東北本部といたしました。

また、報告書は本国際会議の運営にご尽力をいただいた、日韓技術士交流委員会委員や運営委員会委員及び協賛をいただいた団体・企業等に、感謝の意と報告を兼ねて配布するものです。

(第50日韓技術士国際会議(仙台)運営委員会記録グループ長 梶谷 真 記)

## 第50回日韓技術士国際会議(仙台)運営報告書【非売品】

発行年月 2021年12月

企画・編集 公益社団法人日本技術士会東北本部第50回日韓技術士国際会議(仙台)運営委員会

発行所 公益社団法人日本技術士会東北本部

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目6-25 宮酪ビル 2F

TEL:022-723-3755 FAX:022-723-3812

<https://tohoku.gijutusi.net/>

印刷 株式会社DSG

〒980-0822 仙台市青葉区立町16-13-3F

落丁、乱丁はお取替えいたします。